

**2020年度
キャリアデザイン学部
履修の手引き**

法政大学

2020年度 キャリアデザイン学部 スケジュール

2020年3月現在

2020年4月							2020年5月							2020年6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2	1	2	3	4	5	6	
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	*9	7	8	9	10	11	12	13

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、2020年度の学年歴や学部スケジュールに変更が発生します。
最新の学部スケジュールについては以下のURLで確認してください。

<https://www.hosei.ac.jp/careerdesign/zaigakusei/>

法政大学キャリアデザイン学部ホームページ内 在学生・保護者の方へ



また、この履修の手引きに記載の各種日程についても変更される可能性があります。今後変更が生じる場合は、随時法政ポータルサイト（Hoppii）でご案内します。

3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
					*補 15	16	14	15	16	17	18	19	20	ス 14	ス 15	ス 16	ス 17	ス 18	ス 19	ス 20
17	18	補 19	補 20	試 21	試 22	試 23	21	22	23	24	25	26	27	ス 21	ス 22	23	24	25	26	27
試 24	試 25	試 26	試 27	試 28	試 29	試 30	28							28	29	30	31			
試 31																				

・1/15（金）1～2時限補講、大学入学共通

テスト準備のため3限以降を休講

・1/16（土）大学入学共通テスト実施のため休講

3/24（水）学位授与式

	授業日
*	授業日（5時限目以降補講）
補	補講日
* 補	補講日（1～2時限補講）
試	定期試験日
サ	サマーセッション
オ	オータムセッション
ス	スプリングセッション

キャリアデザイン学部担当・窓口および電話受付時間 (授業期間内)	
月～金	9:00～17:00 (11:30～12:30休憩)
土	9:00～12:00
※祝日は、授業日に限り受付しています。	

法政大学学務部学部事務課 キャリアデザイン学部担当
〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1 大内山校舎1階

電話 03-3264-9341

E-Mail jcd@hosei.ac.jp

授業回数	月	火	水	木	金	土
春学期	14	14	14	14	14	14
秋学期	14	14	14	14	14	14

キャリアデザイン学部からあなたへ

皆さんが生きて時代は、前の世代がたどった状況とは大きく異なるでしょう。安定した確実性の高い社会から、不安定で先を見通しにくい社会になると考えられます。安定は心地よい面もありますが、新しい発見や発明、発想は、今を変えたいという挑戦的な姿勢から生まれてきました。不安定な時代を不安視するのではなく、いつでも新しいことにチャレンジできる時代と前向きに受け止めて、大学での学びにつなげてください。

私たちの学部は、2003年に設置されました。学部が目指す「人材」は、自分自身のキャリア（生き方）を自律的・主体的にデザインするとともに、様々な場面で、他者のキャリア形成を支援する力を身につけている人材です。また、そうした人材が求められるようになった社会の構造も理解し、現状への課題認識をもってほしいと考えています。現在、そしてこれからの時代にも適応し、社会の中で自分の立ち位置を確認しながら役割を担うことができる人づくりを目指しています。

本学部は、皆さんがこれからの社会で求められる知識や能力を効果的に修得することを目指して、授業カリキュラムを継続的に見直しながら、改善を進めてきました。カリキュラムが効果を発揮するためには、皆さんが意識して自ら「学ぶ」という姿勢が不可欠です。学部での学びのポイントとして、以下の2つをあげたいと思います。

① 社会を理解する

キャリアデザインとは、「選択の連鎖」といえるでしょう。生きてると、日々様々な選択の場面に直面し、そのときに自分にとって最適と考える道を選びます。ただし、知らないことは選ぶことができませんし、選択肢から除外されるかもしれません。例えば就職活動で業界や企業を選ぼうとしても、知らない業界や企業を選ぶことができません。社会の仕組みを知り、自分の幅を広げて社会とつながることで、「選択」に自信をもつことができるはずです。ですから、自分の周囲の社会に関心をもち、気になることがあれば、本や新聞で調べてみる、切り取ってノートに貼りつける、メモをとる、といった作業を続けてください。あなたの社会的な関心やテーマが見えるようになれば、それが研究テーマになり、さらに深い学びへと発展するはずです。

② 自分を理解する

選択肢が示されたときに右と左どちらに進むか、という決定がキャリア形成のポイントです。選択にあたって抛り所となるのが、自分が大切にしているものは何か、自分は何ができるのか、ということです。これまでの人生で優先してきたことや、譲れないことがあると思います。これは価値観ということもできます。不確実性が高くなるこれからの時代には、自分にとっての「軸」を持つことがより重要になっていくでしょう。

大学での学びを通して、自分を知ることが心掛けてください。自分の「強み」や「弱み」を含めて、自分を客観的にとらえてみることは、自分が社会でどのように貢献できるのか、したいのか、を考える上でも重要です。そのためには他者に学ぶことも重要です。他者と相対化することによって、自分をよく理解することができたり、他者からのフィードバックによって知らない自分に気がついたりすることもあるでしょう。

本学部では体験型の授業を重視していますが、これは、多様な体験により他者と関わることで自己を見つめ直す、他者を支援することの意義を理解する、という効果を期待しているからです。こうした機会を活用しながら、自分と向き合う時間を作ることが重要です。

大学での学びは、学生一人ひとりの主体的な姿勢が前提になります。学びたいという意欲や姿勢があれば様々な資源が活用できます。4年間の学びを意義あるものにして、卒業までに自身のキャリアの抛り所を築いてください。

2020年4月1日

学部長 佐藤 厚

はじめに

この手引きは、キャリアデザイン学部で学ぶ皆さんがこれから勉学を進めていく上で必要な事柄をまとめたものです。この学部ではどのような科目を、どのようにして学ぶのか、履修・登録の手続きはどのようにするのかなど、大学生活にとって重要な事項が記載されていますので、よく読んでおいてください。

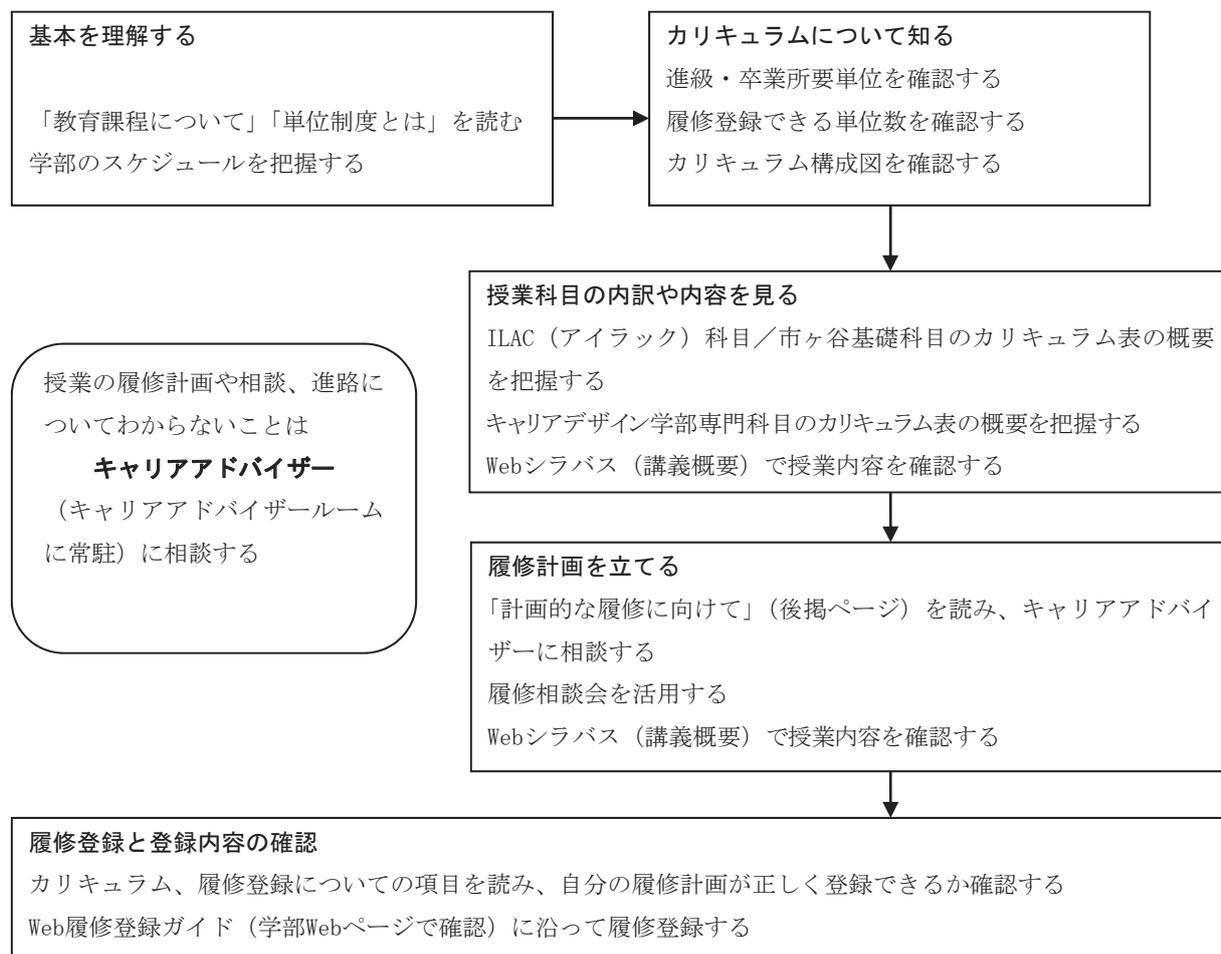
また、この手引きには、授業や成績のことだけではなく、大学での生活のすべてについて記載されています。わからないことは目次を活用し、役立ててください。

この「履修の手引き」の使いかた

1. 最初の項目“教育課程について”および“単位制度とは”を読むとともに、学部共通項目にある学部のスケジュールを確認し、大学での学びのシステムの基本を把握してください。
2. 学部のカリキュラムについて、卒業や進級に必要な単位や、それに関係する“きまり”を把握してください。
3. カリキュラムの授業科目はどのようなものか、内容を確認してください。
4. 履修ガイダンスの内容、キャリアアドバイザー制度や履修相談会を活用し、Webシラバス（講義概要）を読んで履修計画を立ててください。
5. 授業科目の履修登録の方法にしたがって履修したい授業科目の登録を終了し、カリキュラム表や履修登録についての項目を読んで登録内容を各自でチェックしてください。

*授業科目の履修のしかたでわからないことがある場合は、キャリアアドバイザーに相談してください。

*学生のみなさんへの連絡は、基本的に学部掲示板で行います。登下校の際には、必ず確認してください。



学部・学科の理念、目的、教育目標

【キャリアデザイン学部】

(1) 学部等の使命・目的

キャリアデザイン学部は、「生涯学習社会におけるキャリアデザイン」の現状、歴史、理論および拡充の方策等に関する教育・研究を行うことを目的とする日本で最初の学部として、2003年4月に発足した。

高度経済成長期を経て成熟社会を迎えた現在の日本社会では、ひとり一人の個人に、個性的な人生と相互の支えあいを主体的に行うこと＝キャリアデザインが求められている。このキャリアデザインは、ダイナミックに変動する社会における質の高い生活実現の一環であり、そこには、職業人としてのキャリア、家族の一員としてのキャリア、コミュニティの一員としてのキャリア、学びや遊びの主体としてのキャリア、それらを統合したライフキャリア等が含まれている。

キャリアデザインを適切に行うためには、生涯にわたる学習と再学習とそれを可能にする人的資源ネットワークや家族コミュニティ、学校、企業等の基本的諸組織の学習組織としての発展、法や制度等を含む生涯学習社会の拡充が不可欠である。

こうした分野にかかわる研究は、従来、主に学校、コミュニティ、家庭にかかわるキャリア形成と生涯学習社会を扱ってきた教育学、主に企業社会にかかわるキャリア形成と生涯学習社会を扱ってきた経営学、生活文化、コミュニティにかかわるキャリア形成と生涯学習社会を扱ってきた文化人類学等に分かれていた。

キャリアデザイン学部は、これら3つの学問分野の協力によって、キャリアデザイン学を拡充することを、その使命の一つとしている。

(2) 教育目標

以上をふまえた教育によって、企業社会、コミュニティ、教育、学習施設、家庭、病院や矯正施設、教育文化産業等において、生涯学習社会におけるキャリアデザインのサポートと研究を行うことができる人材を社会に送り出すことが、キャリアデザイン学部の教育上の使命である。

その際に社会におけるさまざまキャリア形成と学習の経験をもち、キャリアアップ、キャリアチェンジに強い欲求を持つ社会人の再教育を積極的に位置付けている。

上記の教育的使命を達成するために、①学生がすでに経験している生活や学習の蓄積を学生自身が把握し、自己理解を深めること、②学生の見聞を拡大するために生涯学習社会におけるキャリアデザインにかかわるさまざまな現場に出かけたり、その仕事に携わっている人々の話を聞くこと、③講義などにより、従来の学問蓄積を習得すること、④演習、卒業論文等により、学生による個性的なテーマ設定にもとづく研究を深めることという、カリキュラム構成の基本的理念を設定している。

(3) 当面の目標

卒業生と高校生や在大学生との連携を深めながら、本学部が扱う広義のキャリア意識を高める教育を推進する。

教育課程について

キャリアデザイン学部の授業は「ILAC科目／市ヶ谷基礎科目」と「専門科目」で構成されており、これを4年間に配当して授業を実施しています。また、教員免許や各種の資格取得を希望するみなさんのために、教職・資格に関する科目が設置されています。

1年間の授業は約28週で、春学期・秋学期の2セメスターに分けられています。学士の学位を得るためには、4か年以上（最長8年）在学し所定の単位を修得しなければなりません。学士の学位取得に必要な単位数およびその内容に関する規程はきわめて厳格なものであり、1単位の不足があっても学士の学位を得ることはできません。学生のみなさんが科目の履修をする際はこの「履修の手引き」をよく読み、誤りのないよう十分注意してください。

単位制度とは

本学における教育課程はすべて単位制度を採用しています。各授業科目の単位数は文部科学省の定める次の基準に従っています。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

上記の時間数には授業時間のほか、予習・復習および実習授業の準備などの時間を含んでいます。

単位は、履修科目を登録し授業を終了した科目について、平素の学習状況、出席状況、筆記試験やレポート・論文提出による成績評価の結果、合格した場合に与えられます。

修業年限および在学年限

- 1 本学の修学年限は最短4ヶ年です。
- 2 休学期間を除き、本学に8ヶ年を超えて在学することはできません。
2年次転・編入学者は6ヶ年を超えて、3年次転・編入学者は4ヶ年を超えて、在学することはできません。
- 3 春学期セメスターに在学して秋学期セメスターに休学または退学・除籍になった場合、あるいは、秋学期セメスターに復学・復籍した場合、当該年度の在学期間は0.5年となります。

キャリアデザイン学部からの情報発信

各媒体の詳細または位置づけについては、学部- (82) ページに掲載しています。必ず併せて確認してください。

- **法政ポータルサイト (Hoppii) 内の学部web掲示板・市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 掲示板**
- **キャリアデザイン学部ホームページ**
法政大学 (www.hosei.ac.jp) > 在学生の方へ > 学部・大学院からのお知らせ「キャリアデザイン学部」
(2020年リニューアル予定)
- **キャリアデザイン学部Twitter**
アカウント @hosei_cd

目 次

2020年度キャリアデザイン学部スケジュール

キャリアデザイン学部からあなたへ

はじめに

この「履修の手引き」の使いかた

学部・学科の理念、目的、教育目標

教育課程について

単位制度とは

修業年限および在学年限

キャリアデザイン学部からの情報発信

カリキュラム

2017年度以降入学者用 学部- (1)

2014～2016年度入学者用 学部- (47)

学部共通項目

キャリアデザイン学部からの情報発信方法について 学部- (82)

授業・時間割に関すること 学部- (83)

定期試験について 学部- (83)

期末試験・期末レポート回収日に欠席した場合 学部- (86)

成績および進級・卒業発表に関すること 学部- (87)

卒業論文について 学部- (88)

スタディ・アブロード (SA) プログラムについて (2021年度) 学部- (90)

他学部公開科目について 学部- (92)

「会計関連科目」履修上の注意 学部- (93)

学部の特徴 学部- (94)

その他 学部- (97)

2020年度キャリアデザイン学部専任教員 学部- (99)

大学（市ヶ谷）共通項目

I	学籍	共通-	(1)
II	履修	共通-	(11)
III	キャンパス・サポート	共通-	(27)
IV	緊急時対応	共通-	(31)
V	その他	共通-	(35)

参考資料

I	学則	資料-	(1)
II	法政大学憲章	資料-	(24)
III	法政大学ダイバーシティ宣言	資料-	(25)
IV	校舎案内図・施設一覧	資料-	(26)

2017年度以降入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「17」「18」「19」「20」の学生用)

キャリアデザイン学部 2017年度以降入学者 カリキュラム

重要! 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

★カリキュラム以外にも、「キャリアデザイン学部生共通項目」や、
「市ヶ谷共通項目」のページがありますので、併せて確認してください。

卒業するためには

卒業して学士（キャリアデザイン学）の学位を得るためには、在学年限内にILAC（アイラック）科目と専門科目について下記の単位規定をすべて満たさなければなりません。

卒業所要単位（2017年度以降入学者用）

科目系列				必要単位数			
I L A C (アイ ラ ッ ク) 科 目	1 0 0 番 台	基 盤 科 目	0群	必修	2単位 (基礎ゼミ)	16単位 以上	24単位 以上
				選択			
			1群	選択 必修	4単位以上		
			2群	選択 必修	4単位以上		
			3群	選択 必修	4単位以上		
			5群	必修	2単位 (スポーツ総合演習)		
	選択	上限2単位					
	外国語科目	4群	英語	必修	4単位以上	8単位 以上	
			諸外国語*5	必修	4単位以上		
	2 0 0 番 台	リ ベ ラ ル ア ー ツ 科 目	0群	選択		6単位 以上	
			1群	選択 必修	2単位以上		
			2群	選択 必修	2単位以上		
			3群	選択 必修	2単位以上		
			4群	選択			
5群			選択				
外国語科目	4群	英語 諸外国語 共通*6	選択				
専 門 科 目	学 部 専 門 科 目	基 幹 科 目	必修 (キャリアデザイン学入門) (キャリア研究調査法入門)	4単位	20単位以上		
			選択必修 (キャリア研究調査法)	2単位以上			
			選択必修 (入門系科目)	6単位以上*1			
			選 択				
	展 開 科 目	52単位以上 (*1で選択した領域から、36単位以上含む) (体験型選択必修科目4単位(1ペア)以上含む)					
	演 習 科 目*2						
	関 連 科 目						
	自 由 科 目 *3	他学部公開科目					
		ERP科目*4					
		ESOP科目*4					
グローバル・オープン科目							
インターン・ボランティア*4							
短期語学研修*4							

ILAC科目・
専門科目合計
132単位以上

- *1 基幹科目の入門系科目のうち、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」から1つの領域を選択し、その選択した領域で6単位を修得しなければなりません。
- *2 基幹科目（入門系科目）および展開科目で選択した領域と同じ領域を選択しなければなりません。
- *3 自由科目は卒業所要単位として16単位まで修得可能です。
- *4 グローバル教育センター設置科目です。必要手続きを経て単位認定を行います。
- *5 留学生は、日本語を履修する。
- *6 留学生は、英語（のみ）を履修する。

- 注意**
1. 学部専門科目は、基幹科目、展開科目、演習科目、関連科目に大別され、科目群によっては必修科目や選択必修科目があります。必修科目はすべて単位を修得しないと卒業の要件を満たしません。選択必修科目とは、予め指定された科目群の中から所定の単位数以上の修得が条件とされている科目のことで。
 2. ILAC科目と学部専門科目のそれぞれ最低必要単位数を合計すると108単位(=36+72)になります。

卒業所要総単位数との差24単位（=132-108）については、I L A C科目、専門科目（学部専門科目および自由科目）のいずれから修得しても構いません。

3. 休学者の進級および卒業については別掲「市ヶ谷共通項目」の「学籍」のページを確認してください。
4. 3年次終了までに卒業所要単位を修得していても、4年次に4単位以上を修得しなければ卒業することはできません。（進級に関する規程参照）
5. 必要単位数欄が空欄になっている系列の科目は、仮に単位の修得がなくても他の系列の科目によって右側に示されている必要単位数を修得していれば卒業の要件を満たせることを表しています。

(※) 前ページの「卒業所要単位」の表は各「科目系列」ごとに科目を履修し合計して何単位取得すると卒業要件を満たすかを示したものです。さらにそれらの科目のうちに4単位分の「**体験型選択必修科目**」を含んで履修し単位を取得することも併せて卒業要件となっています。それらの科目は後述の「体験型選択必修科目」一覧表に示すものですが、春学期・秋学期とも表に示した科目をペアで、かつ「事前指導」や「I」を先に履修し単位を修得した後「実習」や「II」を履修しそれぞれ2単位、合計4単位取得することが卒業要件となります。これらのペア科目は定員を定めています。年度末のガイダンスに出席し、履修希望申請書を必ず提出してください。これらのペア科目は2年次から履修できます。できるだけ他の学部専門科目の履修に影響が少ない2年次に履修することを推奨します。

「体験型選択必修科目」一覧

年次	春学期+秋学期 でペアとなる科目		定員 (予定)
	春学期科目名 (各2単位)	秋学期科目名 (各2単位)	
2年～	キャリアサポート事前指導	キャリアサポート実習	20×4クラス
	キャリア体験事前指導	キャリア体験学習	25×4クラス 32×1クラス
	キャリア体験事前指導 (国際)	キャリア体験学習 (国際)	10×2クラス
	多文化教育 I	多文化教育 II	50
	メディアリテラシー実習 I	メディアリテラシー実習 II	16
	地域学習支援 I	地域学習支援 II	35

進級するためには

キャリアデザイン学部において進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次で下記の単位規定を満たさなければなりません。1単位でも不足したり間違いがあったりすると、進級できないので注意してください。

進級に関する規程（キャリアデザイン学部）

- 第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに24単位以上修得していなければならない。
- 第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。ただし、SSI所属学生は第1号のみ適用する。
- (1) 第2年次修了までに48単位以上
 - (2) 基幹科目の必修科目（キャリアデザイン学入門）（キャリア研究調査法入門）
- 第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。
- (1) *市ヶ谷基礎科目のうち4群及び5群の卒業所要単位
 - (2) 前号の単位を含め88単位以上
- 第4条 4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。但し、法政大学学則第49条第4項に定める場合を除く。
- 第5条 進級は学年度初め（4月1日付）をもって行う。

*進級に関する修得単位数に教職・資格科目（卒業要件外科目）は含みません。

※2017年度以降入学者は、「I L A C科目」として履修します。

＜参考＞

法政大学学則第49条

第49条 4ヵ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

- 2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、秋学期に入学し、第1項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は春学期末に行う。但し、本人の申請により秋学期末に行うことができる。
- 4 第1項の規定にかかわらず、3ヵ年以上在学し、卒業所要単位を優秀な成績で修得した者は学士の学位を与え、学位記を授与することができる。
- 5 前項の早期卒業に関する要件は別に定める。
- 6 前5項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

(以下、省略)

早期卒業について

キャリアデザイン学部早期卒業に関する規程（規定第927号）第2条

第2条 早期卒業を認める学生は、次の各号に定める要件を全て満たしていなければならない。

- (1) 3年次終了時まで卒業所要単位を取得し、かつGPAが3.0以上の者。
- (2) 専門科目および*市ヶ谷基礎科目の修得科目のうち、それぞれ9割以上がA評価以上であること。
- (3) 3年次にキャリアデザイン学演習を履修、修得していること。***
- (4) 卒業論文に準ずる論文や作品等を執筆または制作し、高い評価を得た者。

※2017年度以降入学者は「ILAC」科目として履修します。

***2012年度以降入学者は演習（発達・教育）（ビジネス）（ライフ）のいずれか。

早期卒業の手続きスケジュール等

～10月下旬	早期卒業申請受付
12月中旬	卒業論文に準ずる論文・作品提出 *4年生の卒業論文提出期間と同様
2月上旬	早期卒業希望者に対する面接（口頭試問）
3月上旬	面接（口頭試問）の結果通知 *4年生の卒業発表期間と同様
3月24日	条件を満たした場合、卒業

*詳細は掲示等でお知らせします。

履修登録について

履修に際しては、自分が関心を持つテーマに関連した学問分野の科目の単位を、確実にしかも段階を追って修得していく必要があります。ILAC科目の中には、学部の専門科目を学ぶ上で前提になるような基本的内容を取り上げている科目があります。また、学部科目の中にも、科目間の履修順序を守る必要がある科目があります。

「法政大学webシラバス」で各科目の内容説明を読み、自分にとってどの順番でそれぞれの科目を履修していくのが適切であるのかを、考えてください。



法政大学webシラバス

具体的な履修の計画をする前に、キャリアデザイン学部主催の各学年向け履修ガイダンスに必ず出席し説明を受けてください。さらに毎年4月に行われる履修相談会を活用して履修計画を立てることもできます。キャリアデザイン学部独自の制度として、学部生は、「キャリアアドバイザー」と呼ばれる学部専門職員に履修についての相談をすることができます。個別に履修相談がしたい場合は、キャリアアドバイザールーム（富士見坂校舎3階）のキャリアアドバイザーに相談してください。

1 登録制度とは

単位を修得するためには、指定の期日までに履修したい科目を登録する、「履修登録」という手続きを確実に行わなければなりません。履修登録は春学期 Semester 開始時に行います。また、秋学期 Semester 開始時に履修科目の追加や変更が可能です。この履修登録はとても重要で、登録を怠った場合は当該 Semester の単位の修得ができず留年となることもあります。登録エラーがあった場合、放置したままにすると登録自体が無効となり単位の修得ができません。

みなさんが履修登録の意思表示をした科目はコンピューター処理され、履修が手引きどおりになされているか判定されます。エラーを完全になくしないと正式な登録となりませんので、必ずこの手引きをよく読み、エラーを出さないよう注意してください。ただし、コンピューター処理をしているといっても、すべて細かい部分まで完全に判定できないこともあります。登録した科目に間違いがないか、履修条件に合っているかは、各自で必ず確認しなければなりません。

学則第22条 学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出て、承認を得なければならない。
学則第39条 新入生で指定された期日までに履修届を提出しない等、その他本学において修学する意志がないと認められる者は教授会の議を経て除籍する。

期限までに登録しない場合、当該 Semester の受験資格が認められず単位の取得ができないばかりか除籍となることもあります。十分注意してください。

2 履修登録前の準備（必ず行ってください）

キャリアデザイン学部では、一部の抽選科目を除き、履修登録期間よりも先に授業が始まります。まずは履修したい科目を学習支援システムに仮登録し、授業に臨んでください。学習支援システムには法政ポータルサイト(Hoppii)からアクセスすることができます。学習支援システムに仮登録することで、その授業に関するお知らせや教材の参照、休講や教室変更等の連絡を受け取ることができます。履修したい授業はすべて仮登録することを忘れないでください。

ただし、学習支援システムへの仮登録は履修登録とは異なります。あくまで、履修登録期間に履修登録をしないと単位が修得できませんので注意してください。

3 履修登録のしかた

学習支援システムへの登録は、あくまでも仮登録です。法政ポータルサイト（Hoppii）から情報システムにアクセスし、履修登録を行ってください。また、履修登録前には必ず「Web履修ガイド」（学部Web掲示板に記載）を読んでください。法政ポータルサイト（Hoppii）のURL、QRコードは以下のとおりです。

<https://hoppii.hosei.ac.jp>

履修登録期限については、つぎのことに注意が必要です。

- ・ 掲示された期日までに、必ず自分自身で申請してください。
- ・ 履修登録期間中に病気や不可抗力の事故等のため履修登録ができなかった場合には、診断書等の証明書をつけ、キャリアデザイン学部窓口に出してください。連絡や正当な理由がなく期日に遅れた場合、登録の申請は受けつけません。

履修登録期間後に、日時・時間を勘違いしていた、忘れていた、(締切間際にログインして) PC・システム等の操作方法がわからなかった、あるいはアルバイトがあったからといったような理由での事後登録もしくは登録内容の変更は一切認められません。

履修登録については、卒業・進級に関係してくる重大な事項ですので、必ず所定期間内に登録内容を確認し、手続きを完了させるようにしてください。

4 履修登録の確認

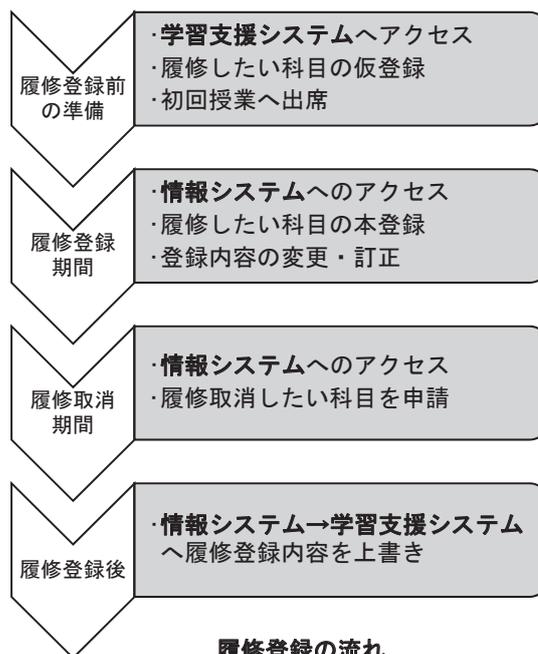
登録した内容を確認するために履修登録科目確認通知書を各自で印刷し、保管してください。履修登録科目確認通知書は、正確に登録されたかを本人が確認する手段となります。履修登録科目の確認を怠ったために、登録ミスに気づかず修得単位ゼロという例も毎年少なからずあります。自己責任が原則です。

5 履修登録の訂正

履修登録期間内は何度でも科目を変更することができますが、登録期限後は科目の変更はできません。

登録にミスがあり、登録ができない場合はミスをした部分の訂正をしないと履修登録が完了しません。

また、エラーの修正が遅れると教員へ渡す受講者名簿に名前が載らず出席をとってもらえないなどの不利益が生



法政ポータルサイト（Hoppii）

じる恐れがあります。

6 履修取消

登録期間後でも、一定期間内に申し出れば登録を取り消すことができます。登録取消の期間については、学部web掲示板で確認してください。

7 登録単位制限と重複登録について

登録できる単位数には、セメスター・年次ごとに上限があります。この制限を超えて登録すると、「登録ミス」となり、すべての科目の履修登録が無効となりますので、注意が必要です。

<注意>

- ・履修登録をしていない科目・曜日・時限の授業へ出席したり、試験を受けたりしても単位の修得はできません。
- ・大学から成績や緊急の連絡等に関する重要書類を郵送することがありますので、転居した際は必ず住所変更の手続きをとってください。
- ・留年および復学・復籍した場合、学生証番号・所属クラスが変更になる場合があります。留年・復学・復籍した当該年次のカリキュラムにもとづいて、登録してください。

履修登録が可能な単位数について

履修登録には次のようなルールがあります。

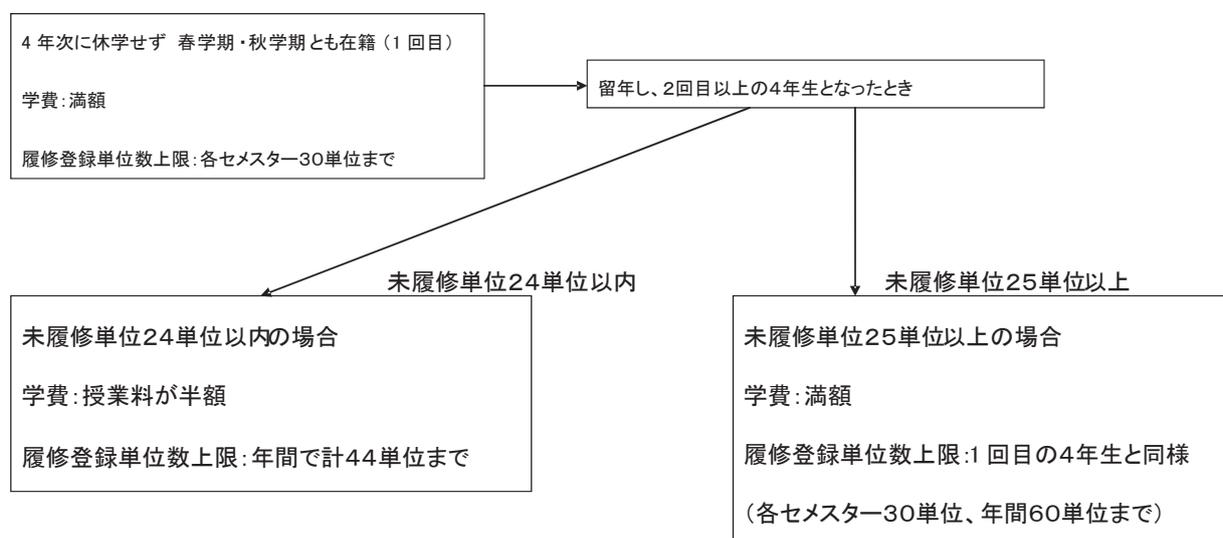
履修登録を怠ったり履修エラーを未修正で放置したりすると授業・試験を受けても単位は修得できませんので、注意してください。

2017年度以降入学者

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降4年生になった場合に履修登録できる単位数

- (1) 未履修単位24単位以内の場合：年間で計44単位まで
- (2) 未履修単位25単位以上の場合：各セメスターおよび年間の履修制限単位数まで

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降の4年生になった場合の学費および履修できる単位は、次のとおりです。



1 セメスター・年間の登録上限単位

各セメスターに履修登録できる単位数には上限があります。単位は週あたりの学習時間によって決められています。それゆえ、一定の期間に無制限に単位修得できるわけではありません。

キャリアデザイン学部では、各セメスターおよび年間（2つのセメスター）での履修登録において、科目の系列ごとに登録単位の上限を設けています。

2 単位数上限について

① I L A C科目と専門科目

合計で、半期30単位・年間48単位を上限として、履修登録することができます。

②教職・資格科目を履修する場合

教職・資格科目のうち、教職資格課程表や資格課程開設科目表（それぞれ教職課程履修要綱や資格関係科目履修要綱に掲載）上で、科目名に■が付いている科目は卒業所要単位とはなりません。

それらを履修する場合、上記①と合わせて半期30単位・年間60単位を上限として履修登録できます。

3 クラス指定・定員のある科目について

以下の科目は、原則としてクラス指定もしくは定員制が設けられているので、必ずしも希望通りの時間に履修できるとは限りません。

- (1) I L A C科目4群の必修外国語は、指定されたクラスで受講してください。
- (2) I L A C科目4群の選択外国語は、各授業とも受講者数に制限があります。
- (3) I L A C科目5群の科目は、通常授業のクラス指定か集中授業のいずれかになります。
- (4) I L A C科目3群のサイエンス・ラボA/Bは、受講者数に制限があります。
- (5) I L A C科目のうち、履修者が大人数となる授業については抽選があります。詳細については学部- (20) ページからの案内を読んでください。
- (6) 入門系の授業の受講は、クラス指定されている場合があります。
- (7) 国際コミュニケーション語学は、各授業とも受講者数に制限があります。
- (8) 情報実習室を使用する授業は、受講者数に制限があります。
- (9) 体験型選択必修科目は受講者数に制限があります。
- (10) 上記以外にも受講制限を行う場合があります。選抜方法の詳細についてはweb掲示板や講義概要(シラバス)を参照してください。

キャリアデザイン学部 カリキュラム構成図(2017年度以降入学者用)

ILAC(アイラック)科目

学部-(11)以降のILAC(アイラック)科目カリキュラム表を参照してください。

基幹科目

キャリアデザイン学入門	発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門Ⅰ)	労働法	ライフコース論
キャリア研究調査法入門	発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ)	ファシリテーション論	生活設計論Ⅰ(社会保障)
キャリア研究調査法(質的調査)(量的調査)	ビジネスキャリア入門A～D	若者の自立支援	生活設計論Ⅱ(生活設計)
発達・教育キャリア入門A・B	ライフキャリア入門A～D	職業選択論Ⅰ	キャリアモデル・ケーススタディ

展開科目

展開 体験型 科目	キャリアサポート事前指導	キャリア体験事前指導	メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ
	キャリアサポート実習	キャリア体験学習	地域学習支援Ⅰ・Ⅱ
	多文化教育Ⅰ・Ⅱ	キャリア体験事前指導(国際)	
		キャリア体験学習(国際)	
	発達・教育キャリア	ビジネスキャリア	ライフキャリア
	キャリア研究調査実習A キャリア研究調査実習B 外書講読A(発達・教育) 外書講読B(発達・教育) 生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ 臨床教育相談論Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ) 教育相談 教育心理学	キャリア研究調査実習C キャリア研究調査実習D 外書講読A(ビジネス) 外書講読B(ビジネス) 職業選択論Ⅱ 人材育成論Ⅰ・Ⅱ 産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ キャリア開発論 リーダーシップ論 経営統計論A(心理データ)	キャリア研究調査実習E キャリア研究調査実習F 外書講読A(ライフ) 外書講読B(ライフ) コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ 家族論 若者文化論 世代間交流論 身体表現論 地域文化論 アイデンティティ論 余暇集団論
	学校論Ⅰ(キャリア形成) 学校論Ⅱ(キャリア形成) 学校論Ⅲ(キャリア教育) 学校論Ⅳ(キャリア教育) 生涯学習論Ⅰ(生涯学習支援論Ⅰ) 生涯学習論Ⅱ(生涯学習支援論Ⅱ) 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ メディア教育論Ⅰ・Ⅱ 教育マネジメントⅠ・Ⅱ	企業会計論 経営統計論B(企業データ) 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 戦略経営論Ⅰ・Ⅱ 経営分析論Ⅰ・Ⅱ アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ	NPO論 公共サービス論 アート・マネジメント論 文化経営論 メディア文化論 文化マーケティング論 ブランド創造論 産業文化論 ミュージアム概論 ミュージアム経営論
	教育政策 現代教育思想 生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ) 生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ) 学習の社会史A・B 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 教育経済学	職業キャリア論 労働経済学 シティズンシップ論 生産システム論 国際経営論 日本経済論 産業論 広告ビジネス論 マーケティング論 流通・マーケティング戦略論 流通・サービスビジネス論 就業機会発見実務	多文化社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ アジア社会論Ⅰ・Ⅱ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 国際地域研究Ⅰ・Ⅱ
総合	就業機会とキャリア 職業能力ベーシックスキルⅠ・Ⅱ		

演習科目

演習(発達・教育、ビジネス、ライフ)	卒業論文(発達・教育、ビジネス、ライフ)	キャリアデザイン学総合演習
--------------------	----------------------	---------------

関連科目

国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ～Ⅴ)	税務会計論Ⅰ・Ⅱ	社会貢献・課題解決教育	図書館サービス概論	ミュージアム教育論
スタディ・アブロードⅠ～Ⅳ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ	教職入門	情報サービス演習	社会教育演習
就業機会とキャリア特講	原価計算論Ⅰ・Ⅱ	教育原理	図書館情報資源概論	現代生活・文化と社会教育Ⅰ・Ⅱ
地域活性化論	経営分析Ⅰ・Ⅱ	教育の制度・経営	図書館情報資源特論	
就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ	異文化適応論	教育課程論	読書と豊かな人間性	
財務会計論Ⅰ・Ⅱ	市民社会と政治	教育方法論	情報メディアの活用	
監査論Ⅰ・Ⅱ	労働環境法	図書館演習	ミュージアム資料論	

自由科目

他学部公開科目 ESOP科目 ERP科目 グローバル・オープン科目 インターン・ボランティア 短期語学研修

ILAC (アイラック) 科目カリキュラム表 ★2017年度以降入学者用★

カリキュラム
2017年度以降入学者用

群	科目配置	必修選択	科目ナンバリング	授 業 科 目	単 位	年 次	備 考
0群	基盤	必修	BSP100LA	基礎ゼミ	2	1	
		選択	BSP100LA	リベラルアーツ特別講座	2	1~4	2020年度新規開講
			SOW100LA等	課題解決型フィールドワーク	1または2	1~4	2019年度新規開講
			PRI100LA	情報処理演習	2	1~4	2020年度より春学期のみ開講
			CAR100LA	キャリアデザイン入門	2	1	
			CAR100LA	キャリアデザイン応用	2	1~4	(注1)参照
	IDN100LA	大学を知らう <法政学>への招待	2	1~4	(注2)参照		
	リベラル	選択	IDN200LA	法政学の探究LA	2	1~4	
		IDN200LA	法政学の探究LB	2	1~4		
1群	基盤	選択必修	LIT100LA	日本古典文学A/B	各2	1~4	
			LIT100LA	日本近・現代文学A/B	各2	1~4	
			LIT100LA	日本文学A/B	各2	1~4	
			LIT100LA	外国文学A/B	各2	1~4	
			BSP100LA	文章論	2	1~4	定員制
			LNG100LA	言語学A/B	各2	1~4	定員制
			PHL100LA	哲学 I / II	各2	1~4	
			PHL100LA	倫理学 I / II	各2	1~4	
			PHL100LA	論理学 I / II	各2	1~4	
			HIS100LA	東洋史 I / II	各2	1~4	
			HIS100LA	西洋史 I / II	各2	1~4	
			HIS100LA	日本史 I / II	各2	1~4	
			PHL100LA	宗教論 I / II	各2	1~4	
			ART100LA	芸術A/B	各2	1~4	
	リベラル	選択必修	LIT200LA	日本文学と文化LA/LB	各2	1~4	
			LIT200LA	日本文学と文化LC/LD	各2	1~4	
			LIT200LA	日本文学と文化LE/LF	各2	1~4	
			LIT200LA	日本文学と文化LG/LH	各2	1~4	
			LIT200LA	外国文学と文化LA/LB	各2	1~4	
			LIT200LA	外国文学と文化LC/LD	各2	1~4	2020年度休講
			LIT200LA	外国文学と文化LE/LF	各2	1~4	
			LIT200LA	文学と社会LA/LB	各2	1~4	2020年度休講
			LIT200LA	文学と社会LC/LD	各2	1~4	
			LIT200LA	文学と社会LE/LF	各2	1~4	
			LNG200LA	音声学L	2	1~4	定員制
			PHL200LA	哲学L I / L II	各2	1~4	
			PHL200LA	倫理学L I / L II	各2	1~4	
			PHL200LA	論理学L I / L II	各2	1~4	
			HIS200LA	東洋史L I / L II	各2	1~4	
			HIS200LA	西洋史LA/LB	各2	1~4	
		HIS200LA	日本史L I / L II	各2	1~4		
		PHL200LA	宗教論L I / L II	各2	1~4		
2群	基盤	選択必修	LAW100LA	法学 I / II	各2	1~4	
			LAW100LA	法学(日本国憲法)	2	1~4	
			ECN100LA	経済学 I / II	各2	1~4	
			PSY100LA	心理学 I / II	各2	1~4	
			GEO100LA	地理学 I / II	各2	1~4	
			POL100LA	政治学 I / II	各2	1~4	
			SOC100LA	社会学 I / II	各2	1~4	
			CUA100LA	文化人類学	2	1~4	
	SOS100LA	社会思想 I / II	各2	1~4			
	リベラル	選択必修	ECN200LA	経済学LA/LB	各2	1~4	
			PSY200LA	心理学LA/LB	各2	1~4	
			GEO200LA	地理学LA/LB	各2	1~4	
			GEO200LA	地理学LC/LD	各2	1~4	
			POL200LA	政治学LA/LB	各2	1~4	
		SOC200LA	社会学LA/LB	各2	2~4		
		SOC200LA	社会学LC/LD	各2	1~4		
		CUA200LA	文化人類学L	2	1~4		
		SOS200LA	社会思想LA/LB	各2	1~4		
3群	基盤	選択必修	MAT100LA	教養数学A/B	各2	1~4	
			MAT100LA	基礎数学 I / II	各2	2~4	
			PHY100LA	入門物理学A/B	各2	1~4	
			BIO100LA	入門生物学A/B	各2	1~4	
			CHM100LA	入門化学A/B	各2	1~4	
			NAS100LA	サイエンス・ラボA/B	各2	1~4	定員制
			ASR100LA	天文学A/B	各2	1~4	
			SHS100LA	科学史A/B	各2	1~4	
	リベラル	選択必修	MAT200LA	数学特講LA/LB	各2	1~4	
			MAT200LA	発展数学L I / L II	各2	2~4	
			PHY200LA	教養物理学LA/LB	各2	2~4	
			BIO200LA	教養生物学LA/LB	各2	1~4	
			BIO200LA	教養生物学LC/LD	各2	1~4	
			BIO200LA	教養生物学LE/LF	各2	1~4	2020年度休講
		CHM200LA	教養化学LA	2	1~4		
		CHM200LA	教養化学LB	2	1~4		

群	科目配置	必修選択	科目ナンバリング	授 業 科 目	単 位	年 次	備 考	
4群	リベラル	選択	ARSa200LA	ドイツの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			ARSa200LA	ドイツ語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名	
			ARSa200LA	フランスの文化と社会LA/LB	各2	1~4	定員:30名	
			ARSa200LA	フランス語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			ARSa200LA	フランス生活文化論LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			ARSa200LA	ロシアの文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員制	
			ARSa200LA	ロシア語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名/2020年度休講	
			ARSe200LA	中国の文化と社会LA、LC/LB、LD	各2	2~4	定員:60名	
			ARSe200LA	中国語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:60名	
			ARSe200LA	スペイン語の世界LA/LB	各2	1~4	定員:40名	
			ARSe200LA	朝鮮の文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			ARSe200LA	日本の文化と社会LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			ARSe200LA	日本語の世界LA/LB	各2	2~4	定員:30名	
			外国語科目	英語	必修	LANe100LA	英語1- I / II	各1
	LANe100LA	英語2- I / II				各1	1	
	選択	LANe200LA			Practical English(オーラル・コミュニケーション)A- I / II	各1	1~4	定員:25名
		LANe200LA			Practical English(オーラル・コミュニケーション)B- I / II	各1	1~4	定員:25名
		LANe200LA			Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A- I / II	各1	1~4	定員:25名
		LANe200LA			Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B- I / II	各1	1~4	定員:25名
		LANe200LA			Practical English(英語検定試験対策)A- I / II	各1	1~4	定員:25名
		LANe200LA			Practical English(英語検定試験対策)B- I / II	各1	1~4	定員:25名
	LANe200LA	English for Study Abroad I / II		各1	1~4	定員:25名		
	LANe100LA	入門英語(SSD) I / II		各1	1~4	SSI生のみ履修可、定員:48名		
	ドイツ語	必修		LANd100LA	ドイツ語1- I / II	各1	1	
				LANd100LA	ドイツ語2- I / II	各1	1	
		選択		LANd100LA	ドイツ語表現法 I / II	各1	2~4	定員:20名
				LANd100LA	入門ドイツ語(SSD) I / II	各1	1~3	SSI生のみ履修可、定員:30名
				LANd200LA	検定ドイツ語 I / II	各1	2~4	定員:30名
				LANd200LA	ドイツ語コミュニケーション I / II	各1	2~4	定員:20名
	LANd200LA	ドイツ語視聴覚 I / II		各1	2~4	定員:30名		
	LANd200LA	時事ドイツ語 I / II		各1	2~4	定員:30名		
	フランス語	必修		LANf100LA	フランス語1- I / II	各1	1	
				LANf100LA	フランス語2- I / II	各1	1	
		選択		LANf200LA	フランス語視聴覚(入門) I / II	各1	1~4	定員:30名/2020年度休講
				LANf200LA	フランス語視聴覚(初・中級) I / II	各1	2~4	定員:30名
				LANf200LA	フランス語コミュニケーション(初級) I / II	各1	1~4	定員:30名
				LANf200LA	時事フランス語 I / II	各1	1~4	定員:30名
	LANf200LA	検定フランス語(初級) I / II		各1	1~4	定員:30名/2020年度休講		
	LANf200LA	情報フランス語 I / II		各1	1~4	定員:30名/2020年度休講		
	ロシア語	必修		LANr100LA	ロシア語1- I / II	各1	1	
				LANr100LA	ロシア語2- I / II	各1	1	
		選択	LANc100LA	中国語1- I / II	各1	1		
LANc100LA			中国語2- I / II	各1	1			
LANc200LA			中国語視聴覚初級 I / II	各1	2~4	定員:35名		
LANc200LA			中国語作文初級 I / II	各1	2~4	定員:15名		
LANc200LA	中国語コミュニケーション基礎 I / II	各1	1~4	定員:20名/2020年度休講				
LANc200LA	中国語コミュニケーション初級 I / II	各1	2~4	定員:20名				
LANc200LA	資格中国語初級 I / II	各1	2~4	定員:40名				
スペイン語	必修	LANs100LA	スペイン語1- I / II	各1	1			
		LANs100LA	スペイン語2- I / II	各1	1			
	選択	LANs200LA	時事スペイン語 I / II	各1	2~4	定員:30名		
		LANs200LA	スペイン語コミュニケーション I / II	各1	3~4	定員:30名		
朝鮮語	必修	LANK100LA	朝鮮語1- I / II	各1	1			
		LANK100LA	朝鮮語2- I / II	各1	1			
	選択	LANK200LA	朝鮮語3C- I / II	各1	2~4	定員:30名		
		LANK200LA	朝鮮語4B- I / II	各1	2~4	定員:30名		
		LANK200LA	朝鮮語5A- I / II	各1	3~4	定員:30名		
LANK200LA	朝鮮語5B- I / II	各1	3~4	定員:30名				
日本語	必修	LANj100LA	日本語1- I / II	各1	1	留学生のみ		
		LANj100LA	日本語2- I / II	各1	1			
5群	基盤	必修	HSS100LA	スポーツ総合演習	2	1		
		選択	HSS100LA	スポーツ総合演習S	2	1~4		
	リベラル	選択	HSS200LA	健康の科学LA/LB	各2	1~4	定員制	

科目配置の「基盤」は基盤科目を、「リベラル」はリベラルアーツ科目を指します。

2017年度をもって、「キャリアデザイン演習」、「就業基礎力養成 I / II」は閉講しました。

(注1)2017年度以前に「就業基礎力養成 I」を修得済みの場合は、「キャリアデザイン応用」を履修できません。

(注2)2019年度より「法政学への招待」は、「大学を知ろう <法政学>への招待」へ科目名称が変更となりました。

2018年度以前に「法政大学への招待」を修得済みの場合は、「大学を知ろう <法政学>への招待」を履修できません。

ILAC (アイラック) 科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表

※単位数や履修年次は、科目一覧で確認して下さい。

2017年度以降入学生			2014～2016年度入学生		備考	
群	科目配置	必修選択	授業科目	群		授業科目
0群	基盤	必修	基礎ゼミ リベラルアーツ特別講座 課題解決型フィールドワーク	0群	基礎ゼミ リベラルアーツ特別講座 課題解決型フィールドワーク	2020年度新規開講 2019年度新規開講
		選択	情報処理演習 キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 キャリアデザイン演習 就業基礎力養成 I / II 大学を知らう <法政学>への招待		情報処理演習 キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 キャリアデザイン演習 就業基礎力養成 I / II 大学を知らう <法政学>への招待	2020年度より春学期のみ開講 2017年度で閉講 2017年度で閉講 2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	リベラル	選択	法政学の探究LA ◇ 法政学の探究LB ◇		法政学の探究A 法政学の探究B	
1群	基盤	選択必修	日本古典文学A ◇ 日本古典文学B ◇ 日本近・現代文学A ◇ 日本近・現代文学B ◇ 日本文学A ◇ 日本文学B ◇ 外国文学A ◇ 外国文学B ◇ 文章論 ◇ 言語学A ◇ 言語学B ◇ 哲学 I / II 倫理学 I / II 論理学 I / II 東洋史 I / II 西洋史 I / II 日本史 I / II 宗教論 I / II 芸術A 芸術B	1群	文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文章論 I 哲学 I / II 倫理学 I / II 論理学 I / II 東洋史 I / II 西洋史 I / II 日本史 I / II 宗教論 I / II 芸術 I 芸術 II 文学 I 文学 II	
			外国文学と文化LA/LC/LE/LG ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF/LH ◇ 外国文学と文化LA/LC/LE ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF ◇ 文学と社会LA/LC/LE ◇ 文学と社会LB/LD/LF ◇ 音声学L ◇ 哲学L I / L II ◇ 倫理学L I / L II ◇ 論理学L I / L II ◇ 東洋史L I / L II ◇ 西洋史LA ◇ 西洋史LB ◇ 日本史L I / L II ◇ 宗教論L I / L II ◇		2020年度休講 (外国文学と文化LC) 2020年度休講 (外国文学と文化LD) 2020年度休講 (文学と社会LA) 2020年度休講 (文学と社会LB) ※1	
	リベラル	選択必修	日本文学と文化LA/LC/LE/LG ◇ 日本文学と文化LB/LD/LF/LH ◇ 外国文学と文化LA/LC/LE ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF ◇ 文学と社会LA/LC/LE ◇ 文学と社会LB/LD/LF ◇ 音声学L ◇ 哲学L I / L II ◇ 倫理学L I / L II ◇ 論理学L I / L II ◇ 東洋史L I / L II ◇ 西洋史LA ◇ 西洋史LB ◇ 日本史L I / L II ◇ 宗教論L I / L II ◇		文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 哲学 I / II 倫理学 I / II 論理学 I / II 東洋史 I / II 西洋史 I 西洋史 II 日本史 I / II 宗教論 I / II	
2群	基盤	選択必修	法学 I / II 法学(日本国憲法) 経済学 I / II 心理学 I / II 地理学 I / II 政治学 I / II 社会学 I / II 文化人類学 ◇ 社会思想 I / II	2群	法学 I / II 法学(日本国憲法) 経済学 I / II 心理学 I / II 地理学 I / II 政治学 I / II 社会学 I / II 文化人類学 I 社会思想 I / II	
			経済学LA ◇ 経済学LB ◇ 心理学LA ◇ 心理学LB ◇ 地理学LA/LC ◇ 地理学LB/LD ◇ 政治学LA ◇ 政治学LB ◇ 社会学LA/LC ◇ 社会学LB/LD ◇ 文化人類学L ◇ 社会思想LA ◇ 社会思想LB ◇		経済学 I 経済学 II 心理学 I 心理学 II 地理学 I 地理学 II 政治学 I 政治学 II 社会学 I 社会学 II 文化人類学 II 社会思想 I 社会思想 II	
	リベラル	選択必修	経済学LA ◇ 経済学LB ◇ 心理学LA ◇ 心理学LB ◇ 地理学LA/LC ◇ 地理学LB/LD ◇ 政治学LA ◇ 政治学LB ◇ 社会学LA/LC ◇ 社会学LB/LD ◇ 文化人類学L ◇ 社会思想LA ◇ 社会思想LB ◇		経済学 I 経済学 II 心理学 I 心理学 II 地理学 I 地理学 II 政治学 I 政治学 II 社会学 I 社会学 II 文化人類学 II 社会思想 I 社会思想 II	
3群	基盤	選択必修	教養数学A 教養数学B 基礎数学 I / II 入門物理学A ◇ 入門物理学B ◇ 入門生物学A ◇ 入門生物学B ◇ 入門化学A ◇ 入門化学B ◇ サイエンス・ラボA サイエンス・ラボB 天文学A 天文学B 科学史A 科学史B	3群	教養数学A 教養数学B 基礎数学 I / II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II サイエンス・ラボA サイエンス・ラボB 天文学 I 天文学 II 科学史 I 科学史 II	
			数学特講LA ◇ 数学特講LB ◇ 発展数学 I / L II ◇ 教養物理学LA ◇ 教養物理学LB ◇ 教養生物学LB/LD/LF ◇ 教養生物学LA/LC/LE ◇ 教養化学LA ◇ 教養化学LB ◇		教養数学A 教養数学B 発展数学 I / II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II	2020年度休講 (教養生物学LF) 2020年度休講 (教養生物学LE)
	リベラル	選択必修	数学特講LA ◇ 数学特講LB ◇ 発展数学 I / L II ◇ 教養物理学LA ◇ 教養物理学LB ◇ 教養生物学LB/LD/LF ◇ 教養生物学LA/LC/LE ◇ 教養化学LA ◇ 教養化学LB ◇		教養数学A 教養数学B 発展数学 I / II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II	

カリキュラム
2017年度以降入学者用

2017年度以降入学生				2014～2016年度入学生		備考			
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目				
4群	リベラル	選択	ドイツの文化と社会LA ◇	総合科目		※1			
			ドイツの文化と社会LB ◇			※1			
			ドイツ語の世界LA ◇			※1			
			ドイツ語の世界LB ◇			※1			
			フランスの文化と社会LA ◇			※1			
			フランスの文化と社会LB ◇			※1			
			フランス語の世界LA ◇			※1			
			フランス語の世界LB ◇			※1			
			フランス生活文化論LA			※1			
			フランス生活文化論LB			※1			
			ロシアの文化と社会LA ◇			※1			
			ロシアの文化と社会LB ◇			※1			
			ロシア語の世界LA ◇			※1			
			ロシア語の世界LB ◇			※1			
			中国の文化と社会LA/LC ◇			※1			
			中国の文化と社会LB/LD ◇			※1			
			中国語の世界LA ◇			※1			
			中国語の世界LB ◇			※1			
			スペイン語の世界LA ◇			※1			
			スペイン語の世界LB ◇			※1			
			朝鮮の文化と社会LA ◇			※1			
	朝鮮の文化と社会LB ◇		※1						
	日本の文化と社会LA ◇		※1						
	日本の文化と社会LB ◇		※1						
	日本語の世界LA ◇		※3						
	日本語の世界LB ◇		※3						
	外国語科目	英語	必修	英語1- I / II 英語2- I / II	4群	英語1- I / II 英語2- I / II			
			選択	Practical English(オーラル・コミュニケーション)A- I / II Practical English(オーラル・コミュニケーション)B- I / II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A- I / II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B- I / II Practical English(英語検定試験対策)A- I / II Practical English(英語検定試験対策)B- I / II English for Study Abroad I / II 入門英語(SS1) I / II		Practical English(オーラル・コミュニケーション)A- I / II Practical English(オーラル・コミュニケーション)B- I / II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A- I / II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B- I / II Practical English(英語検定試験対策)A- I / II Practical English(英語検定試験対策)B- I / II English for Study Abroad I / II 入門英語(SS1) I / II			
		ドイツ語		必修		ドイツ語1- I / II ドイツ語2- I / II ドイツ語表現法 I / II 入門ドイツ語(SS) I / II ◇ 検定ドイツ語 I / II	ドイツ語1- I / II ドイツ語2- I / II ドイツ語表現法 I / II スポーツ・ドイツ語 I / II 検定ドイツ語 I / II		
				選択		ドイツ語コミュニケーション I / II ドイツ語視聴覚 I / II 時事ドイツ語 I / II	ドイツ語コミュニケーション I / II ドイツ語視聴覚 I / II 時事ドイツ語 I / II		
		フランス語		必修		フランス語1- I / II フランス語2- I / II フランス語視聴覚(入門) I / II ◇ フランス語視聴覚(初・中級) I / II ◇	フランス語1- I / II フランス語2- I / II フランス語視聴覚 I / II フランス語視聴覚 III / IV スポーツ・フランス語 I / II 観光フランス語 I / II フランス語コミュニケーション I / II	2020年度休講 ※2 ※2	
			選択	フランス語コミュニケーション(初級) I / II ◇ 時事フランス語 I / II 検定フランス語(初級) I / II ◇ 情報フランス語 I / II		時事フランス語 I / II 検定フランス語 I / II 情報フランス語 I / II	2020年度休講 2020年度休講		
				ロシア語		必修	ロシア語1- I / II ロシア語2- I / II	ロシア語1- I / II ロシア語2- I / II	
				中国語		必修	中国語1- I / II 中国語2- I / II 中国語視聴覚初級 I / II ◇ 中国語作文初級 I / II ◇ 中国語コミュニケーション基礎 I / II ◇ 中国語コミュニケーション初級 I / II ◇ 資格中国語初級 I / II ◇	中国語1- I / II 中国語2- I / II 中国語視聴覚 I / II 中国語表現法 I / II 中国語コミュニケーション I / II 中国語コミュニケーション I / II 検定中国語 I / II	2020年度休講
		選択	スペイン語			必修	スペイン語1- I / II スペイン語2- I / II 時事スペイン語 I / II スペイン語コミュニケーション I / II	スペイン語1- I / II スペイン語2- I / II 時事スペイン語 I / II スペイン語講読 I / II スペイン語コミュニケーション I / II	※2 2019年度より閉講
		朝鮮語	必修	朝鮮語1- I / II 朝鮮語2- I / II 朝鮮語3C(コミュニケーション) I / II ◇ 朝鮮語4B(視聴覚) I / II ◇ 朝鮮語5A(購読) I / II ◇ 朝鮮語5B(表現法) I / II ◇		朝鮮語1- I / II 朝鮮語2- I / II 朝鮮語コミュニケーション I / II 朝鮮語視聴覚 I / II 朝鮮語講読 I / II 朝鮮語表現法 I / II			
			選択	日本語		必修	日本語1- I / II 日本語2- I / II	日本語1- I / II 日本語2- I / II	
		5群	リベラル	必修		スポーツ総合演習	5群	スポーツ総合演習	
				選択		スポーツ総合演習S ◇	0群	スポーツ総合演習	※1

※1・・・2017年度以降入学者のみ履修可
 ※2・・・2016年度以前入学者のみ履修可
 ※3・・・2016年度以前入学者は、0群科目として履修

◇・・・2017年度以降入学者と2016年度以前入学者で科目名が異なるもの。

**2020年度開講市ヶ谷リベラルアーツセンター主催 グローバル・オープン科目
単位修得時の認定先について
※対象学部：法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン学部**

**2020年度に開講される下記のグローバル・オープン科目は、上記の学部に関し、
ILAC科目(2017年度以降入学生)/市ヶ谷基礎科目(2016年度以前入学生)として認定されます。**

開講学期	科目名		<2017年度以降入学生> 認定先のILAC科目の区分・系列	<2016年度以前入学生> 認定先の市ヶ谷基礎科目の区分・系列
秋	Elementary Information Technology	⇒	100番台・0群選択基盤科目	基礎科目0群(選択)
秋	Elementary Career Development			
春	Humanities B	⇒	200番台・1群リベラルアーツ科目	基礎科目1群
秋	Humanities A			
春	Elementary Social Science A	⇒	100番台・2群基盤科目	基礎科目2群
秋	Elementary Social Science B			
秋	Elementary Humanities A	⇒	100番台・1群基盤科目	基礎科目1群
秋	Elementary Humanities B			
春	Social Science B	⇒	200番台・2群リベラルアーツ科目	基礎科目2群
秋	Social Science A			
春	Natural Science B	⇒	200番台・3群リベラルアーツ科目	基礎科目3群
春	Health and Physical Education	⇒	200番台・5群リベラルアーツ科目	基礎科目5群(選択)
春	Information Technology	⇒	200番台・0群リベラルアーツ科目	基礎科目0群(選択)
春	Career Development Skills			
秋	Elementary Health and Physical Education	⇒	100番台・5群基盤科目(選択)	基礎科目5群(選択)
春	English Academic Writing I ※	⇒	200番台選択外国語科目	基礎科目4群(選択)
秋	English Academic Writing II ※			
春	English Presentation I ※			
秋	English Presentation II ※			
春	English Reading and Vocabulary I			
秋	English Reading and Vocabulary II			
秋	Intercultural Communication A	⇒	200番台・4群リベラルアーツ科目 2017年度以前に左記科目を履修した際は 「200番台選択外国語科目」として認定されま したが、2018年度以降は「200番台・4群リベラ ルアーツ科目」として認定されます。	基礎科目4群(選択)
秋	Intercultural Communication B			
秋	Intercultural Communication C			
春	Intercultural Communication D			
春	Intercultural Communication F	⇒	200番台選択外国語科目	基礎科目4群(選択)
春	Intercultural Communication H			
秋	Intercultural Communication E			
秋	Intercultural Communication G			
秋	Natural Science A (Human Impact on the Global Environment と同一授業)	⇒	300番台総合科目(履修年次2~4年) 人間環境・キャリアデザイン学部生は 公開科目として認定	総合科目(履修年次2~4年) 人間環境・キャリアデザイン学部生は 公開科目として認定
春	Liberal Arts Seminar I	⇒	300番台総合科目(履修年次2~4年) 人間環境・キャリアデザイン学部生は 公開科目として認定	総合科目(履修年次2~4年) 人間環境・キャリアデザイン学部生は 公開科目として認定
秋	Liberal Arts Seminar II			

※<2016年度以前入学生の方へ>「English Academic Writing I/II」は4群選択科目「英語アカデミック・ライティングI/II」と同じ科目です。法・文・経営・国際文化学部の方は、4群選択科目として履修してください
※<2016年度以前入学生の方へ>「English Presentation I/II」は4群選択科目「映画で学ぶ英語I/II」と同じ科目です。法・文・経営・国際文化学部の方は、4群選択科目として履修してください。

カリキュラム
2017年度以降入学者用

専門科目 カリキュラム表 (2017年度以降入学者用)

	科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考	
基幹科目	必修	BSP100MA	キャリアデザイン学入門		基幹必修	1～2年	2	2単位	
		BSP100MA	キャリア研究調査法入門		基幹必修	1～2年	2	2単位	
	選択必修	BSP200MA	キャリア研究調査法(質的調査)		基幹スキル	2年～	2	2単位以上	履修するためには「キャリア研究調査法入門」の単位を修得済である必要がある
		BSP200MA	キャリア研究調査法(量的調査)		基幹スキル	2年～	2		
	選択必修	BSP100MA	発達・教育キャリア入門A	発達・教育キャリア	基幹入門	1年～	2	一つの領域から6単位以上*1	
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門Ⅰ)		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ)		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門A	ビジネスキャリア	基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門C		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門D		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門A	ライフキャリア	基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門C		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門D		基幹入門	1年～	2		
	選択	CAR100MA	労働法		基幹共通	1年～	2		
		BSP100MA	ファンリテーション論		基幹共通	1年～	2		
		BSP100MA	若者の自立支援		基幹共通	1年～	2		
CAR100MA		職業選択論Ⅰ		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		ライフコース論		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		生活設計論Ⅰ(社会保障)		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		生活設計論Ⅱ(生活設計)		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		キャリアモデル・ケーススタディ		基幹共通	1年～	2			
展開科目	選択必修	BSP200MA	キャリアサポート事前指導		★展開体験	2年～	2	1ペア4単位以上*2	基幹科目・展開科目 合計72単位以上
		BSP200MA	キャリアサポート実習		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	多文化教育Ⅰ		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	多文化教育Ⅱ		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	キャリア体験事前指導		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	キャリア体験学習		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	キャリア体験事前指導(国際)		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	キャリア体験学習(国際)		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	メディアリテラシー実習Ⅰ		★展開体験	2年～	2		
		BSP200MA	メディアリテラシー実習Ⅱ		★展開体験	2年～	2		
	BSP200MA	地域学習支援Ⅰ		★展開体験	2年～	2			
	BSP200MA	地域学習支援Ⅱ		★展開体験	2年～	2			
	選択必修	EDU200MA	キャリア研究調査実習A		展開調査	2年～	2	一つの領域から36単位以上*3	展開科目から52単位以上
		EDU200MA	キャリア研究調査実習B		展開調査	2年～	2		
		EDU200MA	外書講読A(発達・教育)		展開外書	2年～	2		
		EDU200MA	外書講読B(発達・教育)		展開外書	2年～	2		
		PSY200MA	生涯発達心理学Ⅰ		発達と学習	2年～	2		
		PSY200MA	生涯発達心理学Ⅱ		発達と学習	2年～	2		
		PSY200MA	臨床教育相談Ⅰ		発達と学習	2年～	2		
PSY200MA		臨床教育相談Ⅱ		発達と学習	2年～	2			
PSY200MA		キャリアカウンセリングⅠ		発達と学習	2年～	2			
PSY200MA		キャリアカウンセリングⅡ		発達と学習	2年～	2			
PSY200MA		キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ)		発達と学習	2年～	2			
PSY200MA		教育相談		発達と学習	2年～	2			
PSY200MA		教育心理学	発達・教育キャリア	発達と学習	2年～	2			
EDU200MA		学校論Ⅰ(キャリア形成)		学校教育と地域学習	2年～	2			
EDU200MA		学校論Ⅱ(キャリア形成)		学校教育と地域学習	2年～	2			
EDU200MA		学校論Ⅲ(キャリア教育)		学校教育と地域学習	2年～	2			
EDU200MA		学校論Ⅳ(キャリア教育)		学校教育と地域学習	2年～	2			
EDU200MA		生涯学習論Ⅰ(生涯学習支援論Ⅰ)		学校教育と地域学習	2年～	2			
EDU200MA		生涯学習論Ⅱ(生涯学習支援論Ⅱ)		学校教育と地域学習	2年～	2			
FRI200MA	図書館情報学概論Ⅰ		学校教育と地域学習	2年～	2				
FRI200MA	図書館情報学概論Ⅱ		学校教育と地域学習	2年～	2				
EDU200MA	メディア教育論Ⅰ		学校教育と地域学習	2年～	2				
EDU200MA	メディア教育論Ⅱ		学校教育と地域学習	2年～	2				
EDU200MA	教育マネジメントⅠ		学校教育と地域学習	2年～	2				
EDU200MA	教育マネジメントⅡ		学校教育と地域学習	2年～	2				

*1 選択する領域は、*3と同じ領域でなければなりません。

*2 ★印の科目は前半科目(Ⅰ、事前指導等)の単位を修得した場合、ペアとなる後半科目(Ⅱ、体験等)の履修登録が可能です。

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考
EDU200MA	教育政策	発達・教育キャリア	教育と社会	2年～	2	一つの領域から36単位以上 *3	基幹科目・展開科目 合計72単位以上 経営学部主催科目*4
EDU200MA	現代教育思想		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ)		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ)		教育と社会	2年～	2		
HIS200MA	学習の社会史A		教育と社会	2年～	2		
HIS200MA	学習の社会史B		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育社会学Ⅰ		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育社会学Ⅱ		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育経済学	教育と社会	2年～	2			
MAN200MA	キャリア研究調査実習C	ビジネスキャリア	展開調査	2年～	2		
MAN200MA	キャリア研究調査実習D		展開調査	2年～	2		
MAN200MA	外書講読A(ビジネス)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	外書講読B(ビジネス)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	職業選択論Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	人材育成論Ⅰ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	人材育成論Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	産業・組織心理学Ⅰ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	産業・組織心理学Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	キャリア開発論		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	リーダーシップ論		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	経営統計論A(心理データ)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	企業会計論		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営統計論B(企業データ)		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営組織論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営組織論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	戦略経営論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	戦略経営論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営分析論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営分析論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	アントレプレナーシップ論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	アントレプレナーシップ論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	職業キャリア論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	労働経済学		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	シティズンシップ論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	生産システム論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	国際経営論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	日本経済論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	産業論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	広告ビジネス論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	マーケティング論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	流通・マーケティング戦略論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	流通・サービスビジネス論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	就業機会発見実務	産業社会	2年～	2			
SOC200MA	キャリア研究調査実習E	ライフキャリア	展開調査	2年～	2		
SOC200MA	キャリア研究調査実習F		展開調査	2年～	2		
SOC200MA	外書講読A(ライフ)		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	外書講読B(ライフ)		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	コミュニティ社会論Ⅰ		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	コミュニティ社会論Ⅱ		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	家族論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	若者文化論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	世代間交流論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	身体表現論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	地域文化論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	アイデンティティ論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	余暇集団論		自己・他者・関係	2年～	2		
SOC200MA	NPO論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	公共サービス論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	アート・マネジメント論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	文化経営論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	メディア文化論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	文化マーケティング論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	ブランド創造論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	産業文化論		文化マネジメント	2年～	2		
CUM200MA	ミュージアム概論		文化マネジメント	2年～	2		
CUM200MA	ミュージアム経営論		文化マネジメント	2年～	2		
SOC200MA	多文化社会論Ⅰ		多文化・グローバル社会	2年～	2		
SOC200MA	多文化社会論Ⅱ		多文化・グローバル社会	2年～	2		

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

*4 試験・休講・教室変更等の諸連絡については各学部の掲示板を見ること。

		科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数			備考
展開科目	選択必修	SOC200MA	多文化社会論Ⅲ	ライフキャリア	多文化・グローバル社会	2年～	2	一つの領域から3～6単位以上	展開科目から5～2単位以上		
		ARSx200MA	アジア社会論Ⅰ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
		ARSx200MA	アジア社会論Ⅱ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
		ARSx200MA	国際関係論Ⅰ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
		ARSx200MA	国際関係論Ⅱ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
		ARSx200MA	国際地域研究Ⅰ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
		ARSx200MA	国際地域研究Ⅱ		多文化・グローバル社会	2年～	2				
	総合	CAR200MA	就業機会とキャリア			2年～	2				
		CAR200MA	職業能力ベーシックスキルⅠ			2年～	2				
CAR200MA		職業能力ベーシックスキルⅡ			2年～	2					
演習科目	選択	EDU200MA	演習(発達・教育)			2年～	各2			2年秋学期より履修可 10単位まで履修可 *3	
		MAN200MA	演習(ビジネス)			2年～	各2				
		SOC200MA	演習(ライブ)			2年～	各2				
		EDU400MA	卒業論文(発達・教育)			4年	4				
		MAN400MA	卒業論文(ビジネス)			4年	4				
		SOC400MA	卒業論文(ライブ)			4年	4				
		OTR400MA	キャリアデザイン学総合演習			3～4年	2				
関連科目	選択	LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ)			1年～	1			外国語科目英語(必修)に充当することはできない。	
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ)			1年～	1				
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ)			1年～	1				
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ)			1年～	1				
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ)			1年～	1				
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅠ			2年～	4				
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅡ			2年～	4				
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅢ			2年～	4				
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅣ			2年～	4				
		CAR200MA	就業機会とキャリア特講			2年～	2				
		CAR200MA	地域活性論			2年～	4				
		CAR300MA	就業応用力養成Ⅰ			3年～	2				
		CAR300MA	就業応用力養成Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	財務会計論Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	財務会計論Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	監査論Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	監査論Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	税務会計論Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	税務会計論Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	管理会計論Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	管理会計論Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	原価計算論Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	原価計算論Ⅱ			3年～	2				
		MAN300MA	経営分析Ⅰ			3年～	2				
		MAN300MA	経営分析Ⅱ			3年～	2				
		SOC100MA	異文化適応論			1年～	2				
		SOC200MA	市民社会と政治			1年～	2				
CAR200MA	労働環境法			2年～	2						
2020年度休講											
経営学部主催科目 *4											
会計の基礎知識を備えていることが受講の条件として指定されている科目が多いのでシラバスをよく読むこと。											
国際文化学部主催科目 *4											
2020年度休講											
人間環境学部主催科目 *4											

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

*4 試験・休講・教室変更等の諸連絡については各学部の掲示板を見ること。

	科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考
関連科目	選択	CAR300MA	社会貢献・課題解決教育			3年～	4	2020年度休講
		EDU100MA	教職入門			1年～	2	
		EDU100MA	教育原理			1年～	2	
		EDU100MA	教育の制度・経営			1年～	2	教職課程「教職に関する科目」 教職課程の履修方法やシラバスは別冊「教職課程履修要綱」を見ること。
		EDU200MA	教育課程論			2年～	2	
		EDU200MA	教育方法論			2年～	2	資格課程科目 各資格課程(図書館司書・司書教諭、博物館学芸員、社会教育主事)の履修方法やシラバスは別冊「資格関係科目履修要綱」を見ること。
		FRI200MA	図書館演習			2年～	4	
		FRI200MA	図書館サービス概論			2年～	2	
		FRI200MA	情報サービス演習			2年～	4	
		FRI200MA	図書館情報資源概論			2年～	2	
		FRI200MA	図書館情報資源特論			2年～	2	
		FRI200MA	読書と豊かな人間性			2年～	2	
		FRI200MA	情報メディアの活用			2年～	2	
		CUM100MA	ミュージアム資料論			1年～	2	
		CUM100MA	ミュージアム教育論			1年～	2	
		EDU200MA	社会教育演習			2年～	4	
		EDU200MA	現代生活・文化と社会教育 I			2年～	2	
EDU200MA	現代生活・文化と社会教育 II			2年～	2			
自由科目	-	他学部公開科目				2年～		16単位まで履修可
	-	ESOP科目 *5				1年～		
	-	ERP科目 *5				1年～		
	-	グローバル・オープン科目				1年～		
	-	「国際インターン」「国際ボランティア」*5 *6				1年～	各1	
	-	短期語学研修 *5 *6				1年～	2	

* 5 グローバル教育センター設置科目です。参加後に必要手続きを経て単位認定を行います。
 * 6 履修登録上限単位数の対象外となります。

学生証番号の頭 2 桁が「17」以降の方

履修上の注意 (2017 年度以降入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の科目を再履修する場合は、法政ポータルサイト(Hoppii)内の Web 掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hoppii.hosei.ac.jp>



※科目名については P.学部一 (11) を参照してください。

1. ILAC (アイラック) 科目 0 群～3 群の履修について

★0 群★

- 「キャリアデザイン入門」は、1 年次のみ履修可能です。
- 「キャリアデザイン応用」は、2017 年度までに「就業基礎力養成 I」の単位を修得した方は履修できません。

	2017 年度までに 就業基礎力養成 I の 単位を修得済み	2017 年度までに 就業基礎力養成 II の 単位を修得済み	2017 年度までに キャリアデザイン演習の 単位を修得済み
キャリアデザイン応用	×履修できません	○履修できます	○履修できます

- 「大学を知ろう <法政学>への招待」は、2018 年度までに「法政学への招待」の単位を修得した方は履修できません。

★1 群～3 群★

- 1 年次生が ILAC 科目 1 群～3 群の科目を履修する場合は、学部・学科・クラス等の指定があります。2～4 年次生が履修する場合は学部・学科・クラスの指定はありません。ILAC 科目時間割を確認し、選択してください。
- 「教養数学 A・B」は 1 年次生以上が履修可能です。「基礎数学 I・II」は 2 年次生以上が履修可能です。
- 「サイエンス・ラボ A」と「サイエンス・ラボ B」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、法政ポータルサイト(Hoppii)内の Web 掲示板等を参照してください。

2020 年度から

【注意：履修登録期間の前に実施】

ILAC 科目大人数授業の抽選実施について

本学では教育の質向上、学修環境の整備をはかり、単位制度の実質化を推進しています。学生の皆さんに適正な授業環境を提供することは、本学教育上の使命を果たす上での大前提とも言えます。

そこで、今年度 (2020 年度) より、以下の授業 (昨年度の履修登録者数を基に選定) について、抽選制を導入します。対象授業の履修を希望する場合には、抽選ガイド (※) をよく読み、手続きを行ってください。

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

抽選申し込み期間・方法・抽選結果発表について

詳細は、抽選ガイド(※)を確認してください。
(※) 抽選ガイドは、法政ポータルサイト Hoppii からアクセスできる Web 掲示板に掲載します。

Hoppii URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp>

QR コード : 

抽選のルール及び抽選対象授業について

- 抽選ルールは以下のとおりです。
- ・春学期・秋学期セット（例：以下の表の項番1）で当選とする。
 - ・抽選後、定員に満たなかった場合にも、追加受け入れはしない。
 - ・原則、当選した場合は春学期・秋学期授業ともに履修することとするが、やむを得ず履修を取りやめたい場合には、各学部の履修登録期間中に履修登録を削除すること。その場合、削除した科目（単位）分の履修追加が可能である（ただし、各学部の履修上限の範囲内）。
- ※留学期間中の履修登録の対応については、学部の指導に従ってください。

抽選に申し込む際には、落選する可能性があることを十分考慮して、履修計画を立ててください。

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

抽選対象授業は以下のとおりです。2016年度以前入学の学生は、ILAC/市ヶ谷基礎科目新旧対応表と照らし合わせ、科目名を確認してください。

項番	科目分類(※1)	優先順位(※2)	科目名	曜日時限	教員名	履修対象	抽選定員(※3)
1	1群 基盤	B	外国文学A/B	水曜 3時限	梁 禮先	法文営国環キ1~4年	308名
2	1群 基盤	A	東洋史I/II	月曜 5時限	齋藤 勝	法1年A~N、国キ1年、 法文営国環キ2~4年	502名
3	1群 リベラル	B	日本文学と文化 LG/LH	火曜 3時限	榎本 正樹	法文営国環キ1~4年	355名
4	1群 リベラル	B	日本文学と文化 LG/LH	火曜 4時限	榎本 正樹	法文営国環キ1~4年	466名
5	2群 基盤	A	社会思想I/II	月曜 3時限	熊沢 敏之	環1年、 法文営国環キ2~4年	400名
6	2群 リベラル	B	心理学LA/LB	水曜 5時限	海部 紀行	法文営国環キ1~4年	400名
7	2群 リベラル	B	心理学LA/LB	木曜 5時限	海部 紀行	法文営国環キ1~4年	466名
8	3群 リベラル	B	教養化学LA (※春学期のみ)	水曜 4時限	向井 知大	法文営国環キ1~4年	400名

(※1) 科目分類について 基盤：基盤科目、リベラル：リベラルアート科目を示します。

(※2) 優先順位について A：1年次生が優先です。 B：2～4年次生が優先です。

(※3) 抽選定員は教室定員と連動しているため、今後、変更となる可能性もあります。

2. ILAC (アイラック) 科目4群 (外国語) の履修について

(1) 必修外国語科目 (4群必修科目)

「英語」と、諸外国語の「ドイツ語」、「フランス語」、「ロシア語」、「中国語」、「スペイン語」、「朝鮮語」、「日本語」(留学生のみ)のうちから一つの合計2言語を学びます。1年次に、英語(4単位)と英語以外の諸外国語(4単位)の計8単位を履修します。

- a. 必修外国語はクラス指定があります。それぞれ指定されたクラスで履修してください。
- b. 英語は、習熟度別クラス編成を行っています。1年次にELPA英語プレースメントテストαが2回(4月・1月)行われ、4月実施のELPA英語プレースメントテストαのスコアでみなさんの必修英語のクラスを決定します。必ず受験してください。
- c. 4群(外国語)の必修単位は8単位です。1年次で2言語をそれぞれ週2回・年間8単位修得します。ただし、SSI生は英語4単位以上が必修です。
- d. SSI生は指定されたクラスで「英語1-I・II」、「英語2-I・II」を履修するか、SSI生用の授業「入門英語(SS I) I/II」を履修するか、いずれの方法でも単位修得は可能です。ただし、

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

- 教員免許を取得する場合には、「英語1-I/II」、「英語2-I/II」を2単位以上修得する必要があります。
- e. 3年次までに8単位以上（SSI生は英語4単位以上）を修得しなければなりません、できるだけ2年次までに履修を終えるようにしてください。
 - f. 入学時に選択した諸外国語は、原則、途中から他の外国語に変更することはできません。
この内容に問い合わせがある場合は、キャリアデザイン学部窓口を確認してください。

科目		科目名	必修単位	
SSI・留学生 以外の学生	英語	英語 1-I/II	4 単位以上	3 年次までに 8 単位以上修得
		英語 2-I/II		
	諸外国語	〇〇語 1-I/II	4 単位以上	
		〇〇語 2-I/II		
SSI 生	英語 右記より4単位以上選択 ・教員免許を取得する場合は、(英語 1・2-I/II)を2単位以上修得することが必要 ・入門英語 (SSI) は連続・重複履修可	英語 1-I/II	4 単位以上	3 年次までに 4 単位以上修得
		英語 2-I/II		
		入門英語 (SSI) I/II		
留学生	英語	英語 1-I/II	4 単位以上	3 年次までに 8 単位以上修得
		英語 2-I/II		
	日本語	日本語 1-I/II	4 単位以上	
		日本語 2-I/II		

(2) 外国語選択科目（4群選択外国語）

必修外国語以外に、次の外国語選択科目があります。いずれも、4群選択外国語科目に集計されます。また、英語の選択科目は必修英語科目に充当することができます。

英語の選択科目

英語の4群選択科目には次の科目があります。

Practical English (オーラル・コミュニケーション) A-I / II、Practical English (オーラル・コミュニケーション) B-I / II、Practical English (ビジネス・コミュニケーション) A-I / II、Practical English (ビジネス・コミュニケーション) B-I / II、Practical English (英語検定試験対策) A-I / II、Practical English (英語検定試験対策) B-I / II、English for Study Abroad I、English for Study Abroad II

いずれも定員は約25名で、履修年次は1～4年次です。Aは初級、Bは中級です。English for Study Abroad I / IIを除き、Iは春学期、IIは秋学期に開講されます。English for Study Abroad I / IIは外国に留学する場合の科目で、I / IIとも春学期に開講されます。

キャリアデザイン学部の留学制度 (Study Abroad) については学部- (90) を参照してください。

諸外国語の選択科目

英語以外の外国語についても、必修外国語の他にさらに諸外国語を学びたい学生のために選択外国語があります。選択外国語は、それぞれの言語を学びながら、諸外国の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。ロシア語以外の外国語には、クラス授業以外に履修できる選択科目があります。「ドイツ語」には、「コミュニケーション」「表現法」「視聴覚」「時事ドイツ語」「検定ドイツ語」などがあります。「フランス語」には、「コミュニケーション (初級)」「視聴覚 (入門)」「視聴覚 (初・中級)」「時事フランス語」「検定フランス語 (初級)」などがあります。「中国語」には、「コミュニケーション基礎」「コミュニケーション初級」「作文初級」「視聴覚初級」「資格中国語初級」などがあります。「スペイン語」には、「コミュニケーション」「時事スペイン語」などがあります。「朝鮮語」には、「3C (コミュニケーション)」「4B (視聴覚)」「5A (講読)」「5B (表現法)」な

学生証番号の頭 2 桁が「17」以降の方

どがあります。入学時に希望した諸外国語の選択科目のみ履修が可能です。留学生は日本語の選択科目のみ履修可能です。

なお、選択科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

- a. 春学期、秋学期を合わせて通年で履修（同一科目のⅠとⅡを連続して履修）することが原則となります。Ⅱ（秋学期）のみを履修する授業であっても、そのⅡに対応するⅠの科目の4月の春学期1回目の授業に出席し、受講許可を得て、9月に履修登録を行ってください。受講許可を得る時には、必ず同一科目をⅠ・Ⅱ（春学期+秋学期）とも履修するのか、それともⅠ（春学期）あるいはⅡ（秋学期）のみ履修するのかを、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員に申し出てください。
- b. 各科目（秋学期科目含む）とも、必ず4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。選抜を行った場合、法政ポータルサイト(Hoppii)内のWeb 掲示板にて発表します。

(3) 国際コミュニケーション語学（専門科目）

ILAC科目外国語科目の他に、英語について、専門科目の関連科目である国際コミュニケーション語学があります。

国際コミュニケーション語学の英語は、国際コミュニケーション語学・英語Ⅰ／Ⅱ（中級オーラル）、国際コミュニケーション語学・英語Ⅲ／Ⅳ（中級～上級オーラル）、国際コミュニケーション語学・英語Ⅴ（中級ライティング）があります。いずれも定員は約25名です。なお2017年度以降入学者は、ILAC科目100番台の外国語科目英語（必修）に充当することはできません。（教員免許を取得する場合は英語1-Ⅰ・Ⅱ／2-Ⅰ・Ⅱから2単位以上修得する必要があります。）

国際コミュニケーション語学は、ILAC科目ではありませんが、ILAC科目の必修外国語、4群選択外国語科目と併せて履修するようにして下さい。

なお外国語科目については、1年生むけの履修ガイダンスで詳しく説明します。

3. ILAC 科目（2017 年度以降入学生）/基礎科目（2016 年度以前入学生）5 群（体育科目）の履修について

(1) 科目名・履修年次・単位

科目名(系列)	履修年次	単位	
(必修科目) スポーツ総合演習	原則として 1年次に履修	2単位	3年次修了までに必ず修得する必要があります。
(選択科目) <2017 年度以降入学生> スポーツ総合演習S <2016 年度以前入学生> スポーツ総合演習	1～4 年次	2単位	<u>必修ではありません。</u> 2単位まで履修できます。 修得した単位は ILAC 科目/基礎科目の単位として卒業所要単位に計上されます。

(2) 内容

体育についての演習（講義および実技）

(3) 授業形態・実施場所・期間

授業形態	授業期間	種目	場所
通常授業	春学期または秋学期	複数の種目の複合	①市ヶ谷総合体育館 ②富士見坂体育館

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

(4) 保健体育ガイダンス(保健体育時間割の説明・受講授業の決定・仮登録)

対象	内容	日時	場所
2020年度 入学生	学部ガイダンスで説明 (日時・場所は入学時配布の「新入生連絡事項」を参照)		
2019年度以前 入学生	必修科目の再履修ガイダンス ★必修単位未修得者は必ず参加する ★再履修で集中授業を希望する者もここに参加する	日時・場所については、web 掲示板を確認してください。	
全入学年度 共通	選択科目のガイダンス ★希望者のみ参加する		

(5) 履修登録(日時等詳細は学部ガイダンスで説明)

①新入生の必修科目

Webの申請画面に事前登録されるので各自でWeb履修登録を完了してください。

②選択科目希望者

ガイダンスに参加して受講希望票を提出し、受講許可を得てから各自でWeb履修登録を完了してください。

(6) 健康診断等

大学実施の健康診断を必ず受けてください。

(7) 体育会入部者

授業の受講に代えて、体育会(準加盟部は除く)の活動により、5群科目の必修単位を修得することができます。

体育会活動による単位の修得は体育会での1年間の活動で2単位です。

在学中に体育会活動によって修得できる単位の上限は2単位です。

この制度を実施していない学部もあるので注意してください。

春学期履修登録期間内(部員本人の所属学部の指示する日)に申請手続きが必要となりますので、所属学部窓口にて用意してある所定用紙に記入の上、提出してください。

(8) 連絡

体育科目に関わる連絡は、法政ポータルサイト(Hoppii)内の Web 掲示板、市ヶ谷総合体育館1F で行います。

(9) 心身の状態についての相談

体育の授業を履修するにあたり、心身の状態について心配があり、相談したいという場合は、保健体育センターに問い合わせてください。

※問い合わせ先 保健体育センター市ヶ谷体育課: 電話03-3264-9498

ILAC 科目の目的と内容

※ 履修上の注意は P. 学部一 (20) ～を参照してください。

ILAC科目100番台～300番台／0群～5群について

ILAC (アイラック) 科目は半期 (春学期・秋学期) ごとに授業を完結する Semester 制を採用しており、科目名の後に「I / II」、「A/B/C/D・・・」と表記します。成績評価は半期ごとに出され、単位を修得していきます。科目名称によって、以下のような特徴があります。履修計画の参考としてください。

- ①「I / II」とは、連続履修することで、より理解が深まるとされる科目を示しています。II については I を履修していることが前提となっている科目もあるので、履修登録前に、必ず WEB シラバスで確認してください。特に外国語科目 (必修および選択科目) は、原則として I / II を連続履修することが前提とされていますので、注意が必要です。
- ②「A/B/C/D・・・」とは、「I / II」のように履修の順次性を問わない科目を示しています。例えば、「〇〇学 A」と「〇〇学 B」では、「〇〇学 B」は必ずしも「〇〇学 A」の履修を前提としていません。「〇〇学 A」と「〇〇学 B」とで、異なる分野の学習を通じて、相互の理解を深めることができます。
- ③ リベラルアーツ科目は、科目名の後に「L」が付きます (例: □□学 L I / L II、△△論 LA/LB/LC/LD・・・)。これは、基盤科目との違いを明示するものです。リベラルアーツ科目には、基盤科目を履修していることが前提になっている科目もあります (例: 倫理学 L I は、倫理学 I の内容をさらに発展させて学ぶ)。履修登録前に、WEB シラバスで必ず確認し、計画的な学習を心掛けてください。

単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。

ただし、I と II、A と B、A と LA 等は異なる科目です。例えば、〇〇学 A と 〇〇学 LA であれば、どちらも履修することができます。科目名称のルールを理解し、計画的に履修してください。

なお、以降の説明では、特別な場合を除き「I」「II」(または「III」「IV」) 等の記述を省きます。

(1) ILAC 科目修得により目指すもの

ILAC 科目は、人文科学・社会科学・自然科学・情報科学・外国語・保健体育・キャリアデザインなどの各分野をバランスよく学ぶことによって、社会や世界で活躍するために必要な、幅広い知識や柔軟な思考法、自主的に課題を発見しそれを解決する力や文章作成能力、他者との円滑なコミュニケーション能力など、真の意味での「教養」を身につけるために開設されています。基礎力を養成する基盤科目から、応用・発展的なリベラルアーツ科目、専門性の高い総合科目[※]など、段階に応じて多様で体系的な学修が可能となります。

※キャリアデザイン学部生は、公開科目として2年次以上で履修します。

(2) ILAC 科目のカリキュラムについて

各科目には次のような番号 (ナンバリング) が付されています。これは「学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組み」です。

100 番台には、基盤科目・外国語科目・選択基盤科目が設置されています。大学生としての基本的な学問への臨み方、および各分野の知識・考え方を身につけ、大学4年間の学習の土台づくりを行うことを目的としています。

200 番台には、リベラルアーツ科目と外国語科目が設置されています。リベラルアーツ科目では、基盤科目の内容をさらに発展、または専門的にした授業が開講されており、みなさんの興味に応じて、教養を深め、視野を広げることができます。また、外国語科目では、1年次に履修した語学のスキルや教養としての外国語をさらに向上させます。

300 番台には、総合科目・教養ゼミが設置されています。100 番台・200 番台の科目の学びをさら

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

に発展させ、真のリベラルアーツの修得を目的としています。少人数で開講される教養ゼミでは、教員や受講生との議論・学び合いを行うことができます。

移り変わりの激しい時代を生きる私たちには、学問の壁を越えて、柔軟な発想で知識・考え方を取り入れ、直面する問題を打開し、自由な世界を切り開いていく必要があります。リベラルアーツとは単に教養科目を意味するものではなく、自由な世界を切り開く知識・考え方、それを修得する力を示します。真のリベラルアーツを、ILAC科目で修得していきましょう。

科目名称	基礎科目	外国語科目	選択基礎科目	リベラルアーツ科目	外国語科目	総合科目・教養ゼミ
分野	1・2・3・5群の科目	4群(英語、諸外国語)の必修科目	0群の科目	0～5群の科目	4群・選択外国語	1～5群の科目
科目	日本古典文学A/B 社会学I/II 入門生物学A/B等	English1 I/II English2 I/II ○○語1 I/II ○○語2 I/II	基礎ゼミ、情報処理演習I キャリアデザイン入門 法政学への招待等	日本史I/II 地理学IA/LB フランスの文化と社会 IA/LB 健康の科学IA/LB等	English3 I/II ビジネス・イングリッシュ I/II ○○語3 I/II ○○語4 I/II 中国語コミュニケーション基礎I/II	美術論A/B 人間行動学A/B 集合論A/B 教養ゼミ(各教養ゼミごとにテーマあり)など
概要	教養(リベラルアーツ)・専門学部の学びの基礎となる、人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの学問分野における基礎的な知識と基本的な考え方や、および保健体育科目をバランス良く学びます。	大学の初年次生として必要な基礎的な語学力を養うと同時に、異文化や世界の情勢への理解を深めるため、英語をはじめ諸外国語(ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語)をバランス良く学びます。	既存の学問分野にとらわれない汎用性のある知識や技能を身に付けるため、基礎ゼミや情報処理、就業力育成など、初年次に修得すべき科目を学びます。法政学では法政大学の歴史や現状について学ぶことができます。	基礎科目で修得した基礎的な知識の上に、さらに深い教養を身につけます。各学問分野をより高度に、バランス良く修得するとともに、専門科目の枠組みに縛られない体系的・学際的な学びを可能にします。	学生の選択に基づき、より高度な語学力や異文化理解力の向上を目指し、現代のグローバル社会に通用する国際感覚を養います。英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・日本語の全てが開講されています。	リベラルアーツ科目と連動した発展的な学びから、単独で完結する学びまで、多様な科目を配置し、真のリベラルアーツの修得を目指します。教養ゼミではゼミナール形式で、学部専門科目とは異なる高度な学びを実現します。
年次	100番台 ※1 (1年生以上)		200番台 ※2 (1・2年生以上)		300番台 ※3 (2年生以上)	

- ※1 100番台・・・主として基礎的な内容の科目を意味しています。
- ※2 200番台・・・主として応用的な内容の科目を意味しています。
- ※3 300番台・・・主として発展的な内容の科目を意味しています。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバスとあわせて、ぜひ参考にしてください。

URL : <http://www.hoseikyoiku.jp/ilac/index.html>

カリキュラム・マップ	ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目と学習到達目標の相関関係を表で示したもの	
カリキュラム・ツリー	学習目標を達成するために、ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目がどの分野、年次に配当されているかなどを図で示したもの	

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

(3) 各分野の概要について

ILAC 科目0群

ILAC 科目0群を開設する目的は、ILAC 科目の1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を学び、基本的な知識を備えるためです。

- ・「大学を知ろう <法政学>への招待」(2018 年度まで「法政学への招待」)、「法政学の探究」は法政大学の歴史と現状を知ること、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- ・「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身につけるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。
- ・「基礎ゼミ」は、1年次生を対象として開講されます。キャリアデザイン学部専任教員による少人数クラスで行う必修の科目です。
- ・「情報処理演習」は、コンピュータの操作の基礎を学ぶ、1 Semester 完結の科目です。担当教員によって取り上げる内容・レベルに違いがあるため、WEB シラバスをよく読んで自分に合った授業を選んでください。なお、PC台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合は抽選となります。また、教員免許を取得するために必要な科目です。

ILAC 科目1群(人文科学分野)

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

ILAC 科目2群(社会科学分野)

2群の開講科目は、「法学」「政治学」「経済学」「社会学」「心理学」「地理学」「文化人類学」「社会思想」の8分野です。

これらの科目は、いずれも、人間社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって分析・検討するものです。各科目では、それぞれの分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会のさまざまな現象を理解するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、特にリベラルアーツ科目を通じてそれぞれの分野が築き上げてきた理論や手法を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がそのなかの一員である社会について理解を深めて、人間社会のさまざまな現象や問題について考える基礎としてほしいと思います。

ILAC 科目3群(自然科学分野)

3群は、さまざまな自然科学の授業によって構成されています。

基盤科目では、自然科学の学習に必要な基礎的知識を習得します。リベラルアーツ科目では、さまざまなテーマを発展的に学習します。さらに、専門科目である総合科目や教養ゼミを通して、それらのテーマをより深く探求できるようなカリキュラム構成となっています。

基盤科目は、「教養数学」「基礎数学」「入門物理学」「入門化学」「入門生物学」「天文学」「科学史」および「サイエンス・ラボ」からなる選択必修科目です。いずれも、文科系の初学者にもわかりやすく学ぶことができるよ

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

う工夫されています。

リベラルアーツ科目は、「数学特講」「発展数学」「教養物理学」「教養化学」および「教養生物学」からなる選択必修科目です。各自の興味に合わせて発展的な学習を行ってください。

なお、基礎数学および発展数学は順次性のある科目です。Ⅰ→Ⅱの順に履修することが望まれます。

3群の履修を通して、学生の皆さんが自然科学そのものに興味を持つだけでなく、自然科学を通したものの見方を習得し、各自の専門分野における学習・研究に役立てることが期待されています。

ILAC 科目4群(外国語科目)

必修外国語のほか、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語、日本語についてのおさまな選択科目があります。

必修外国語は卒業所要単位です。選択科目の外国語関係科目も、修得すれば卒業所要単位に含めることができ、なるべくあわせて履修することが望まれます。また、他学部公開科目にある総合科目の中にはさまざまな外国語関係科目があり、履修・修得すれば、専門科目としての単位になります。なお、他に、専門科目の関連科目群に含まれる選択科目の国際コミュニケーション語学があります。4群の科目ではありませんが、4群の選択科目の外国語関係科目と、体系的な履修ができるようになっています。

★受講定員のある科目:春学期1回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。

★春学期のみ、秋学期のみ履修を希望する場合も、必ず春学期の1回目の授業で教員にその旨を申し出て、受講の許可を受けてください。

選抜結果は市ヶ谷リベラルアーツセンター(ILAC)WEB 掲示板で発表します。

<英語>

基礎科目の「英語」は、高校までに身につけた運用能力を発展させると共に、広く英語圏の文化への理解を深めるためのものです。

<諸外国語>

外国語科目は、必修諸外国語（1年次）と選択外国語、さらにリベラルアーツ科目と総合科目*から構成されています。

必修諸外国語では、大学で新しく出会う外国語の基礎を1年次に学びます。また、学び始めた外国語の能力をより高めたい場合には、選択外国語科目として「〇〇語コミュニケーション」「〇〇語視聴覚」「時事〇〇語」などバラエティ豊かな科目が設置され、さまざまなアプローチから外国語に接し、語学力の修得とともに生きた外国語の世界に触れながら4年次まで学習を続けることができます。

リベラルアーツ科目には、1年次から履修できる「〇〇語の世界L」という入門のための科目があります。2年次から履修できる「〇〇の文化と社会L」では、その言語が話される地域の文化や生活を広く深く学ぶことができます（「フランスの文化と社会L」のみ1年次から履修できます）。

総合科目*では、それまでに学習した外国語の能力を十分に生かしつつ、より高度で専門的な内容を学んでいきます。また、英語と諸外国語を一つ学んだのちに、さらにもう一つの外国語の世界に触れてみたいと思うグローバルな関心を抱く学生のために「第三外国語としての〇〇語」という科目があります。

このように、法政大学では、とても多彩な外国語の世界がみなさんを待っています。

なお、選択外国語科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

※キャリアデザイン学部生は2年次以上で公開科目として履修します。

公開科目のうち、キャリアデザイン学部生のみ履修可能な科目もあります。積極的に履修してください。詳しくは、WEBシラバスを確認してください。

学生証番号の頭2桁が「17」以降の方

ILAC 科目5群(保健体育分野)

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週1回半期型、②自由に選択履修できる週1回半期型の2つの形式で開講されています。

①は必修科目で、原則学部・学科・所属クラスを単位として履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。卒業のためには、上記のいずれかの形式で2単位を取得することが必須となりますが、5群の単位としては①、②の授業を各1回、計4単位を上限として履修・取得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験およびレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、学部ガイダンスの際に説明します。また、2年次以降にも選択科目の内容を深めた5群科目も用意されています。

専門科目の履修

キャリアデザイン学部では、人が生涯にわたってたどる人生の軌跡の総体を「キャリア」として捉え、自己のキャリアを自律的・主体的にデザインするとともに、他者のキャリア形成を支援する能力を身につけていきます。そこで、とくにキャリアの設計・再設計をめぐる調査・研究を進めることができる知識・能力の養成を重視し、講義型科目および体験型科目双方を車の両輪としたカリキュラムを用意しています。こうしたカリキュラムを系統的に履修・学習することによって、自ら社会に働きかけていくことができる人材の育成を目指しているのです。

本学部では、キャリア形成の代表的な場として、(1)発達・教育キャリア領域（教育組織や人の発達など生涯学習社会におけるキャリア形成）、(2)ビジネスキャリア領域（人材育成や組織マネジメントなど産業社会におけるキャリア形成）および(3)ライフキャリア領域（家族や地域コミュニティなど生活に密接した場におけるキャリア形成）という三つの領域を設けています。専門性の高いキャリアデザイン研究を行うためには、基盤となる知識群について広く学際的に学んだ上で、一定の領域に絞って、専門的な知識群を深く学んでいく必要があります。このため、本学部のカリキュラムでは、基盤となる知識群を履修・学習した上で、上記(1)～(3)のいずれかの領域を選択し、当該領域を重点的に学ぶことによって高度な専門性をもった知識を身に付けるように体系づけられています。

科目履修の設計に際しては、卒業後の進路を念頭に置くとともに、学部教育を通じてどのような力をつけたいかを考え、履修計画を立ててください。そのために確認したいことや質問したいことがあれば、キャリアアドバイザーや基礎ゼミの担当教員等に相談して下さい。

本学部のカリキュラムの全体像については、下記の「カリキュラムの全体図」をご覧ください。

4年秋学期	学生研究発表会				
演習科目 2年秋学期～	専門演習(ゼミ 2年秋学期～)・卒業論文(4年) キャリアデザイン学総合演習(3～4年) ※演習全10単位・卒論4単位				
展開科目 (プログラム科目) 2年春学期～ ※52単位以上 (選択した領域で36単位以上)	教育と社会(マクロ) 現代教育思想 教育社会学Ⅰ・Ⅱ など	産業社会(マクロ) 労働経済学 職業キャリア論 など	多文化・グローバル社会(マクロ) 多文化社会論Ⅰ～Ⅲ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 国際地域研究Ⅰ・Ⅱ など	体験型選択 必修科目 2年春学期～	ペーパー科目 キャリアサポート実習 キャリア体験学習 キャリア体験学習(国際) 多文化教育Ⅰ・Ⅱ メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ 地域学習支援Ⅰ・Ⅱ(学部認定資格)
	学校教育と地域学習(メソ) 学校論Ⅰ～Ⅳ 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ など	集団・組織(メソ) 戦略経営論Ⅰ・Ⅱ 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経営分析論Ⅰ・Ⅱ など	文化マネジメント(メソ) アート・マネジメント論 ミュージアム概論 など		
	発達と学習(ミクロ) キャリアカウンセリングⅠ～Ⅲ 生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ など	個人・人間(ミクロ) 産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ 人材育成論Ⅰ・Ⅱ リーダーシップ論 など	自己・他者・関係(ミクロ) アイデンティティ論 家族論 コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ など	総合科目 2年春学期～	就業機会とキャリア 職業能力ベーシックスキルⅠ・Ⅱ
	外書講読(2クラス)	外書講読(2クラス)	外書講読(2クラス)		
	発達・教育キャリア領域	ビジネスキャリア領域	ライフキャリア領域		
基幹科目 1年～ ※20単位以上	キャリアデザイン学入門 (2単位 必修) キャリア研究調査法入門 (2単位 必修)、キャリア研究調査法 (2単位選択必修) :①質的調査 ②量的調査 入門系科目 (全24単位中、各自が選択した領域から6単位選択必修) 発達・教育キャリア入門A～D/ビジネスキャリア入門A～D/ライフキャリア入門A～D 共通基幹科目 キャリアモデル・ケーススタディ 労働法など				
ILAC(アイラック科目) ※36単位以上	基礎ゼミ(必修) 情報処理演習 必修外国語 等				



関連科目	◆教職・資格課程科目 (教職・図書館司書・博物館学芸員・社会教育主事)の一部 ◆日本語教育関係科目 ◆国際コミュニケーション語学 ◆経営学部主催科目 ◆国際文化学部主催科目 ◆人間環境学部主催科目
------	---

自由科目	他学部公開科目 ERP科目 ESOP科目 グローバル・オープン科目 インターン・ボランティア 短期語学研修
------	--

1 科目の構成

上記の「カリキュラムの全体図」に沿って、具体的にカリキュラムの内容について説明していきます。

キャリアデザイン学部の科目は、領域とグレードという二種類の軸に従って配置されています。まず、領域とは、(1)発達・教育キャリア領域、(2)ビジネスキャリア領域、および(3)ライフキャリア領域、という三領域です（前頁全体図の横軸）。

(1)発達・教育キャリア領域では、人間発達、学校教育および学習社会における基本的な概念や理論を理解すると同時に、多様な現場実習によって、臨床的・実践的な基礎能力とスキルの向上を目標としています。(2)ビジネスキャリア領域では、働くこと、すなわちワークキャリアについて理解を深め、自らの働き方だけでなく働く場のあり方について、自ら研究を深めていくことを目標とします。(3)ライフキャリア領域では、私たちの生活に密着する家族やコミュニティについて理解を深め、社会の「仕組み」を読み解く視点を育てることを目標としています。この他、三領域に含まれない科目群として「関連科目」があります。これはキャリアに関連した教職や資格等に結びついた科目や生涯学習に必要なスキル（技能）を養成する科目が配置されています。

続いて、グレードは、基礎から応用までの相対的な位置を示します（上記全体図の縦軸）。基礎から応用に向かって、①基幹科目、②展開科目および③演習科目があり、これらの科目とは別に④体験系科目があります。以下、各グレード・領域別に、履修上、留意すべき点について説明します。

2 基幹科目

基幹科目は、本学部における学習目標を実現するため、基礎的・基盤的知識の修得を目指します。

まず、「基礎ゼミ」「キャリア研究調査法入門」「キャリア研究調査法」および「キャリアデザイン学入門」の四科目は必修科目です。これらのうち、「基礎ゼミ」と「キャリア研究調査法」は、少人数のゼミ形式で行われ、大学における学習の基礎的スキルや、キャリア研究調査の方法論をさまざまな演習をまじえて丁寧に学ぶ場です。

入門系科目は、(1)発達・教育キャリア領域、(2)ビジネスキャリア領域、(3)ライフキャリア領域に応じて配置してあります。上述のとおり、上級学年に至ると、(1)～(3)のいずれかの領域を重点的に学びますが、その基盤となる知識を修得する科目です。したがって、入門系科目の履修は、上級学年時に、重点的に学びたい領域を想定して行ってください。

共通基幹科目は、(1)～(3)の領域において共通に必要なとされるものです。

3 展開科目

展開科目では、上記基幹科目の知識の上に、各自、三領域のうちのいずれかに重点を置き、専門的な知識を修得していきます。以下では、各領域別に、科目構成の特徴を説明します。

(1) 発達・教育キャリア領域

発達・教育領域は、(a)教育と社会、(b)学校教育と地域学習、(c)発達と学習に分けられます。(a)教育と社会はマクロ的な視点、(b)学校教育と地域学習はメゾ的な視点、(c)発達と学習はミクロ的な視点、に基づく科目を配置しています。

(a) 教育と社会には、「教育経済学」、「教育社会学Ⅰ・Ⅱ」、「学習の社会史A・B」などの科目があります。私たちは真空の世界に生きているわけではありません。社会とのかかわりの中で生きています。これらの科目では、教育や学習における歴史・制度・文化などの影響や諸外国との比較などを扱います。

(b) 学校教育と地域学習には、「学校論Ⅰ～Ⅳ」、「教育マネジメントⅠ・Ⅱ」などの科目があります。学校や地域、家族といった単位が対象です。個人の発達や教育を考えるうえで、学校や地域、家族に注目することは重要なテーマとなります。

(c) 発達と学習には、「教育心理学」、「キャリアカウンセリングⅠ～Ⅲ」などの科目があります。「発達」、「学習」、「パーソナリティ」といった事柄に関する知識やアプローチの方法について、科学的に理解していきます。

(2) ビジネスキャリア領域

ビジネスキャリア領域の科目は、(a)産業社会、(b)集団・組織および(c)個人・人間に分けられます。(a)産業社会はマクロ的な視点、(b)集団・組織はメゾ的な視点、(c)個人・人間はミクロ的な視点、に基づく科目を配置しています。

(a) 産業社会には、「労働経済学」、「職業キャリア論」などの科目があります。社会全体、市場および産業といった単位が対象です。労働市場における需要と供給の関係をはじめ、ワークキャリアを取り巻く社会経済関係にマクロ的にアプローチします。

(b) 集団・組織には、「戦略経営論Ⅰ・Ⅱ」、「経営組織論Ⅰ・Ⅱ」、「経営分析論Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。ワークキャリアを形成する場、すなわち企業という単位が対象です。企業はどのような仕組みや論理に基づいて経営されているかなど、ワークキャリアを形成する場である企業の経営について多角的に理解します。

(c) 個人・人間には、「産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ」、「人材育成論Ⅰ・Ⅱ」、「リーダーシップ論」などの科目があります。個人あるいは人間といった単位が対象です。働く人の感情、考え、振る舞いや、人間関係に焦点をあてます。ワークキャリアを形成する個人あるいは人間という単位にミクロ的にアプローチします。

(3) ライフキャリア領域

ライフキャリア領域の科目は、(a)多文化・グローバル社会、(b)文化マネジメントおよび(c)自己・他者・関係に分けられます。(a)多文化・グローバル社会はマクロ的な視点、(b)文化マネジメントはメゾ的な視点、(c)自己・他者・関係はミクロ的な視点、にそれぞれ基づく科目を配置しています。

(a) 多文化・グローバル社会には、「多文化社会論Ⅰ～Ⅲ」、「国際関係論Ⅰ・Ⅱ」、「国際地域研究Ⅰ・Ⅱ」などがあります。より広い範囲で、自己のキャリアと社会がつながりうることを知り、国際交流や文化比較なども視野に入れて学んでいきます。

(b) 文化マネジメントには、「アート・マネジメント論」、「ミュージアム概論」などの科目があります。文化やアートなどを通して、人びとや地域社会がいかにつながっていくのか、人びとの生活やまちづくりにおいて、文化活動の意味や位置づけはどういったものか、などをテーマとします。

(c) 自己・他者・関係には、「アイデンティティ論」、「家族論」、「コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。自己が他者や社会とつながることについて、身近なコミュニティや家族の関係などを通して、キャリア形成や自己理解を視野に入れつつ学びます。

4 演習科目

1年次春学期には、本学部で学ぶための基礎的な能力（アカデミック・スキルの基礎）を修得するための少人数授業として「基礎ゼミ」を設置しています。この授業は、20名程度の人数で、各クラス共通した内容で行います。

1年次秋学期に「キャリア研究調査法入門」、2年次春学期に「キャリア研究調査法（質的調査）」、「キャリア研究調査法（量的調査）」を設置しています。これらは自らデータを収集して分析する能力を養うことを目的としており、2年次秋学期からの「キャリアデザイン学演習」への橋渡しをする必修科目です。「キャリア研究調査法（質的調査）」と「キャリア研究調査法（量的調査）」は、2年次春学期にいずれかを履修することが必須ですが、その後もう一方を履修することも可能であり、推奨します。

さらに、「キャリア研究調査実習」を、3領域ごとに開設しています。本科目は、具体的な調査の主題をあらかじめ設定し、上記の「キャリア研究調査法」で修得した方法を実際中使用し、自分で使えるレベルにまで調査能力を高めることを目的としています。自分の関心の強いテーマ、あるいは、「演習」のテーマに近いクラスを選択することにより調査能力のみならず、特定の専門分野への関心をも喚起するので、推奨します。

2年次秋学期から4年次秋学期までの「演習」は、学生が自らの専門性向上のために主体的に学び合う、少人数形式の授業です。担当教員により進め方は様々ですが、学生によるプレゼンテーションやディスカッションを中心として行われ、教員は助言や支援、コーディネートなどの役割を担うのが主たる形式です。

1年次の「基礎ゼミ」とは異なり、授業内容は、各担当教員の専門分野に沿った、多様なものとなっています。学生が、自分の関心のある専門領域に関する理解を深め、研究を行うことを目的としています。担当教員により異なりますが、原則として、本学部での学びの集大成として、4年次には卒業研究として卒業論文の提出が求められ

ます。

「演習」は、(1)発達・教育キャリア、(2)ビジネスキャリア、(3)ライフキャリアの三領域に担当教員が配分され、学生自身が希望する担当教員1名を選んで応募する形をとっていますが、少人数形式という科目の特性上、応募者が多い場合には教員による選考により履修者が決定されます。

また、3～4年次の科目として、これまでの学びの集大成として、(1)発達・教育キャリア、(2)ビジネスキャリア、(3)ライフキャリアの三領域を横断してキャリアデザインを研究する「キャリアデザイン学総合演習」を配置しています。キャリアデザイン学総合演習の履修は必須ではありませんが、本学部で培った幅広い視野でキャリアデザインを研究する総合性の高い科目として、意欲ある学生の履修を期待しています。

演習 履修決定の手続きとスケジュール (予定)

履修決定は5月～7月にかけて行います。詳細なスケジュールは後日掲示でお知らせします。

5 体験型選択必修科目

卒業要件には、卒業所用単位数を満たすだけでなく、それらの中に「体験型選択必修科目」が4単位以上含まれていることが謳われています。「体験型選択必修科目」は、ほぼすべての科目で教室を離れて人やコミュニティと直接かかわる活動を行います。「事前指導」や「Ⅰ」を先に履修し単位を取得した後、「実習」や「Ⅱ」を履修するもので、春学期と夏学期、ペアで履修することが必要です。また、教室外での実習を伴うため、授業に真摯に取り組む態度が求められます。

「体験型選択必修科目」には合わせて六つのペア科目があるので、前掲の「体験型選択必修科目」一覧表で確認してください。以下では、体験型科目の三つについて紹介します。

<キャリアサポート事前指導・キャリアサポート実習>

キャリアデザイン学部は自らのキャリアをデザインするとともに、人のキャリアデザインをサポートする能力を養成することを目指しています。そのため、このペア科目では、学内外でさまざまなサポート活動を行いながら、その活動を通じて学ぶという体験を中心にしています。そのサポート活動を実際に行うのが「キャリアサポート実習」ですが、そのための意識や知識、スキルなどをしっかりと身に付けるために事前に行うのが「キャリアサポート事前指導」です。

「キャリアサポート事前指導」では、人の話を「聴く」ことからはじめ、他者との円滑なコミュニケーションの方法を学びます。ディスカッションの進行役（ファシリテーター）を経験したり、他者のキャリア形成をサポートするためのプログラムを実際に作成したりします。必要に応じて学期の途中で実習を行うことがあります。

「キャリアサポート事前指導」での学びがあった上で、「キャリアサポート実習」では、実際にさまざまな現場でサポート活動を行います。主に高校に出かけ、高校生たちとともにキャリア教育や進路相談をテーマにしたワークショップを行います。この活動体験の成果はレポートにまとめて提出し、指導教員やキャリアアドバイザーからコメントをもらうほか、成果報告会で発表し、受講生同士で互いにコメントするなどして振り返りを行います。

キャリアデザイン学部の専門科目には、活動しながら学ぶ授業が多く設けられています。それらに臨むためにも、ぜひこの科目を通じて、必要な力をつけてください。

<キャリア体験事前指導・キャリア体験学習／キャリア体験事前指導（国際）・キャリア体験学習（国際）>

これら2つの体験学習ペア科目は、国内外の一般企業（多種多様な業種）、非営利団体（NPO）、自治体その他の公共機関や各種業界団体等のさまざまな職場において、一定期間に実際の業務を体験すること（インターンシップ）、あるいはそういった機関で活動する人との課題解決学習や協働活動等を通じて、多様な文化や価値観に触れ、仕事に対する感覚や理解を涵養し、自分自身のキャリアデザインの一助とすることを目的としています。

キャリア体験学習は、主に企業における就業体験をメインに行います。企業や団体の現場で実際に働く経験をすすめるインターンシップ型とグループで企業の課題解決に取り組むプロジェクト型の授業があります。インターンシップ型のAコース（実習先を学部で用意する）とBコース（実習先を履修生が自主開拓する）、プロジェクト型のCコース（中小製造業との産学連携活動として実習する）の3つのコースがあります。

キャリア体験学習（国際）では、ベトナム（ホーチミン）、台湾（台北）でのキャリア体験学習を実施します。訪問する国の実情に合わせて、インターンシップだけではなく、文化体験や企業訪問、現地の大学生との協働活動など、多様なかたちでキャリア体験学習を実施します。

実習が中心となるのはもちろんですが、実習先の概要や仕事の中身などについて各自で調べ、学習することも不可欠です。また実習の成果については、公開でプレゼンテーションを行ったり、報告書にまとめて公表したりします。それぞれのクラスの特徴をよく理解したうえで応募してください。

地域学習支援Ⅰ・Ⅱの履修と「地域学習支援士」の認定について

（１）地域学習支援Ⅰ・Ⅱ

この科目は、現代の地域社会でニーズが高まっている地域学習支援の方法について学び、多様な職業分野で期待されている学習支援者としての専門性を習得することを目的としています。具体的には、地域づくり学習、ユースワーク、多文化理解、コミュニティ・メディア、地域文化創造、フィールドミュージアムなどの学習活動分野のプログラム編成、組織運営マネジメントなどについて理論面と実際面から学び、コーディネーターとして地域社会のネットワークの形成や地域活性化に寄与しうる力量を形成することをめざします。地域学習支援Ⅱでは、それぞれの分野ごとに専門の教員が指導をおこないます。

地域学習支援のマネジメントやコーディネーターの専門性は、国・自治体、公共機関の職員はもとより、地場産業や観光・サービス関連産業の事業経営、一般企業の地域貢献、経済団体連合会や商工会議所などの地域振興事業、自立支援・地域づくり・文化・環境分野などのNPO市民活動、グローバルな交流にとりくむ国際機関・NGO活動などにおいて幅広く求められています。地域学習支援に関わる専門性を身につけて多様な職業分野への就業力を高めるとともに、NPOやボランティア活動などにも参加して、勤労者・市民として社会を担う実践的な知識や行動力を培うことを目的とします。

この科目は学部認定資格「地域学習支援士」資格を取得する場合には必修です。もちろん、資格取得に関係なく、体験型選択必修科目として履修することができます。

（２）学部独自の認定資格「地域学習支援士」

別表に示すように、地域学習支援Ⅰ・Ⅱ合わせて4単位と選択必修科目8単位及び選択科目18単位の合計30単位を履修した学生には、4年次の卒業単位認定の時期に、所定の申請手続きを経て、学部から「地域学習支援士」資格取得の認定証が交付されます。この資格の取得を履歴書などに明記することができます。

本学部では教職・社会教育専門職などの国家資格を取得することができますが、地域学習支援士はこれらに加え、より多様な職業分野における新たな現代的、社会的ニーズに対して、「学びを通じて人を支援する」専門性を身につけていることを学部として認定するものです。

別表 地域学習支援士資格認定科目

<p>共通必修科目 (4単位)</p>	<p>地域学習支援 I 地域学習支援 II</p>
<p>選択必修科目 (8単位)</p>	<p>生涯学習論Ⅲ・Ⅳ (成人教育論Ⅰ・Ⅱ) 学校論Ⅲ (キャリア教育)・Ⅳ (キャリア教育) 多文化教育Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ メディア教育論Ⅰ・Ⅱ アート・マネジメント論 文化経営論 メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ ミュージアム概論 ミュージアム経営論</p>
<p>選択科目 (18単位)</p>	<p>生涯学習論Ⅰ・Ⅱ NPO論 ミュージアム教育論 メディア文化論 多文化社会論Ⅲ 情報メディアの活用 ファシリテーション論 図書館情報資源概論・図書館情報資源特論 産業文化論 文化マーケティング論 家族論 若者の自立支援 世代間交流論 職業選択論Ⅰ・Ⅱ アジア社会論Ⅰ・Ⅱ アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ シティズンシップ論</p>

カリキュラム
2017年度以降入学者用

6 自由科目

「他学部公開科目」「ESOP科目」「ERP科目」「グローバル・オープン科目」「国際インターン・国際ボランティア」「短期語学研修」が該当します。卒業までに合計16単位を上限として履修可能です。ただし受講資格と単位認定は以下のとおりそれぞれ異なりますので、履修の際は十分注意してください。また、自由科目として修得した単位は Semester・年間の履修登録上限単位数の対象となります(但し、インターン・ボランティア、短期語学研修は対象外)。

(1) 他学部公開科目

受講資格は2・3・4年次生に限られます。詳細は、Webシラバス(講義概要)を参照してください。

(2) ESOP科目

全学年受講が可能です。本人申請により単位認定を行います。海外から受け入れた交換留学生用の、日本という国に関わるテーマをとりあげた英語の講義・ゼミです。履修要綱は学部窓口にて配布します。開講科目など詳しくはグローバル教育センター事務部国際交流課(E-mail: ic@hosei.ac.jp、電話番号: 03-3264-9402)にお問い合わせください。

(3) ERP科目

全学年受講が可能です。本人申請により単位認定を行います。英語による少人数(10名~20名)・双方向授業を授業形態として実施されている、英語4技能(listening、speaking、reading、writing)の養成とその統合を目的とした授業です。卒業所要単位として単位修得することを希望する場合、履修登録時に指定すると自由科目として履修できます。履修要綱はグローバル教育センターのホームページで確認してください。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部グローバルラーニング課(E-mail: global@hosei.ac.jp、電話番号: 03-3264-4088)にお問い合わせください。

(4) グローバル・オープン科目

全学年受講できます。法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために全学で開講されている学部横断型の科目群です。詳細は、グローバル教育センターのホームページで確認してください。

(5) インターン・ボランティア

全学年受講が可能です。本人申請により単位認定を行います。

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」「国際ボランティア」プログラムです。実施されるプログラムは実施期間により異なります。詳細はグローバル教育センターのホームページで確認してください。

(6) 短期語学研修

全学年受講が可能です。本人申請により単位認定を行います。

グローバル教育センターが主催している集中語学研修です。実施されるプログラムは実施期間により異なります。詳細はグローバル教育センターのホームページで確認してください。

キャリアアドバイザーより新入生のみなさんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。キャリアデザイン学部へようこそ！
私たちキャリアアドバイザーは、キャリアデザイン学部の学生の皆さんの学生生活がより充実したものになるよう、さまざまな面からサポートしていきます。

内容と使い方

このページは、新入生の皆さんが疑問に感じることを一つでも多く解決できるよう作成したものです。
作成にあたり、キャリアデザイン学部の先輩たちが入学時に感じた不安や疑問、2年生になってあらためて振り返ったときに「1年生の時にもっとこうしていれば良かった」と思った率直なエピソードや、「知っていれば便利だった」といった情報、今までキャリアアドバイザーが受けた質問や相談から参考になる事柄をできるだけ多く掲載するようにしました。
目次には、ひとつでも多く皆さんの疑問を解決できるよう、具体的な項目をあげました。これからの学生生活に役立ててください。

目次

- 1. キャリアアドバイザー活用法…………… 学部- (40)
 - (1) キャリアアドバイザーとは？
 - (2) キャリアアドバイザーに相談できること
 - (3) キャリアアドバイザーに相談できる場所
 - (4) 相談の予約
- 2. 大学生活スタート 大学で学ぶ科目を決めよう！…………… 学部- (42)
 - Step 1 履修科目をチェックする
 - Step 2 初回の授業に出席する
 - Step 3 時間割を見直す
 - Step 4 Web履修登録をする
- 3. 資格にチャレンジする！…………… 学部- (44)
 - (1) 大学で資格を取るには
 - (2) キャリアアップ奨励金を活用しよう
 - (3) エクステンション・カレッジを利用しよう

1. キャリアアドバイザー活用法

(1) キャリアアドバイザーとは？

キャリアデザイン学部には、キャリアアドバイザーが常勤しています。

キャリアアドバイザーは、皆さんの学生生活やキャリア支援のために、相談業務だけでなく、授業のサポートやイベントの企画や情報の発信などを行っています。

★授業サポート

キャリアサポート事前指導・実習

キャリア体験事前指導・学習（A・Bコース, Cコース, 国際） など

★イベントおよび行事

新入生対象の履修相談会 就職活動準備のためのワークショップ

体験型学習及びゼミ履修説明会 など

(2) キャリアアドバイザーに相談できること

学習や進路、大学生活に関する相談ができます。「こんなこと聞いてもいいかな?」「どうしたらいいんだろう」と思ったとき、ぜひ気軽に声をかけてください。

<相談例>

① 履修、学習に関すること

- ・ 時間割をどう組んでいこうか迷っている
- ・ ゼミや領域をどう選んだら良いかわからない
- ・ 勉強の進め方などで心配事がある

② 進路に関すること

- ・ この学部で何を身につけたいか考えたい
- ・ 将来の職業について考えたい
- ・ 将来就きたい職業があるが、今、具体的にどんなことをしたら良いかわからない
- ・ 資格を取りたいので、相談にのってほしい

③ その他大学生活に関すること

- ・ 何かを始めようと思うが、具体的に何をしたら良いかわからない
- ・ 挑戦したいことがあるが、どのような準備が必要なのか知りたい
- ・ 留学制度やどのような準備が必要か知りたい
- ・ 人間関係について悩んでいる

(3) キャリアアドバイザーに相談できる場所

☆キャリアアドバイザールーム（富士見坂校舎3階）

キャリアアドバイザーが常駐しており、ここで相談することができます。



☆キャリア相談ルーム（ボアソナード・タワー12階）

プライバシーが保たれた空間で、ゆったりと落ち着いて話ができます。



※キャリアアドバイザールームの開室時間は、原則、平日10:00-18:00です。変更になる場合もありますので、詳しくは学部掲示板をご覧ください。

(4) 相談の予約

事前に予約をお願いします。部屋は、キャリアアドバイザールーム、キャリア相談ルームから選ぶことができます。お気軽に声をかけてご相談ください。

<予約方法>

予約は、下記のメールアドレスで受け付けています。予約の際は、「氏名」「学生証番号」「複数の相談希望日時」「連絡のとれる電話番号」「簡単な相談内容」をご連絡ください。

Eメール cdadv@hosei.ac.jp

相談受付時間 10:15~17:00



Check>> Web掲示板は毎日チェック!

履修登録に関する情報、選抜のある授業の履修方法、課題の提出、休講の連絡や教室の変更など、大学生活に必要な情報は、すべてWeb掲示板に掲載されます。「うっかり見逃して、課題の提出に間に合わなかった!」ということにならないよう、毎日必ずWeb掲示板をチェックする習慣を身につけましょう! また、履修の手引きを読んでも分からない疑問点は、うやむやにしないで内容に応じてキャリアアドバイザーに相談するか、学部窓口で問合わせましょう。

- キャリアデザイン学部からの連絡
 - 専門科目に関する情報・伝達
 - キャリアアドバイザーからのお知らせなど
 - I L A C 科目・体育に関する情報・伝達
 - 教職・資格に関する情報・伝達
- } → 【キャリアデザイン学部掲示板】
- 【市ヶ谷リベラルアーツセンター（I L A C）掲示板】
- 【教職・資格掲示板】

2. 大学生活スタート 大学で学ぶ科目を決めよう!

大学の授業は自分で履修する科目を選び、指定された期間（後日Hoppiiで発表）に、“Web履修登録”をしなくてはなりません。春学期履修登録時に「春学期科目+秋学期科目」をセットでWeb履修登録しますので注意してください。なお、履修登録の手順は、「キャリアデザイン学部履修の手引き」に、履修科目の内容は「Webシラバス（講義概要）」に詳しく書かれていますので、必ず読んでください。ここでは、履修登録までの流れを簡単に説明します。

履修登録までの手順 *シラバスをよく読もう*

Step 1 履修科目をチェックする Step 2 初回の授業に出席する Step 3 時間割を見直す Step 4 Web履修登録をする

Step 1 履修科目をチェックする

(1) まず、必修科目を確認して時間割を組んでみよう。

キャリアデザイン学部では、卒業するために必ず修得しなくてはならない「必修科目」と、一定の範囲の中から選択し必ず何単位か習得しなくてはならない「選択必修科目」、自由に選択で履修できる「選択科目」があります。時間割を組む際には、まず「必修科目」「選択必修科目」をチェックしましょう。なお、以下はあくまでも一例です。実際の時間割は毎年変更があるので、各自で必ず確認してください。

() 内は単位数 丸で囲んだ数字はILAC科目の群

	月	火	水	木	金	土
1限	英語1-I (1)④		ドイツ語1-I (1)④			
2限		英語2-I (1)④			スポーツ総合演習(2)⑤	
3限	キャリアデザイン学入門(2)		基礎ゼミ(2)⑩			
4限					ドイツ語2-I (1)④	
5限						
6限						

(2) 次に、単位の上限数は考えず、学びたい科目で時間割を作ってみよう。

() 内は単位数 丸で囲んだ数字はILAC科目の群

	月	火	水	木	金	土
1限	英語1-I (1)④		ドイツ語1-I (1)④	ビジネスキャリア入門C(2)	ビジネスキャリア入門B(2)	
2限		英語2-I (1)④		科学史A (2)③	スポーツ総合演習(2)⑤	
3限	キャリアデザイン学入門(2)	ライフキャリア入門C(2)	基礎ゼミ(2)⑩			
4限	ライフキャリア入門A (2)	発達・教育キャリア入門A(2)	発達・教育キャリア入門C(2)	情報処理演習(2)⑩	ドイツ語2-I (1)④	
5限			心理学 I (2)②			
6限			入門生物学A (2)③		文化人類学(2)②	

単位数計

5単位

5単位

9単位

6単位

7単位

< ILAC科目 >

①; 0群、①; 1群、②; 2群

③; 3群、④; 4群、⑤; 5群

ILAC科目は0群から5群まであり、卒業までに履修する必要単位数が決まっています。専門科目と同様に、計画的に履修していきましょう。

合計 32単位

Check>> セメスター・年間の登録には上限がある!

上限を超えて履修することはできません。

春学期に32単位は取れない!!

Step 2 初回の授業に出席する

大学では、初回の授業で授業の内容や進め方や評価の方法などが説明されます。初回の授業は何科目出席しても構いません。Step1 (2) で作った時間割表をもとに、履修したい科目・興味のある科目の初回授業はできるだけすべて出席するようにしましょう。

◆先輩からのアドバイス◆

『国際コミュニケーション語学は、しっかり学びたい人にオススメです！』

『履修するにあたり、抽選のある科目があります。希望通りの時間に当たるとは限りませんので注意しましょう。』

Point >> 初回の授業でチェックすべき項目

(1) 自分が学びたいことが学べるか？

講義概要（シラバス）を読んだだけでは、授業の様子はつかめません。初回の授業で、自分の学びたいことが学べる授業かどうかをしっかりとチェックしましょう。

◆先輩の体験談◆ 講義概要（シラバス）を読んで興味を持ったので、最初の授業に出席したのですが、私が想像していた内容と違いました。結局、履修登録では、他の科目を履修することにしました。

(2) 半年間継続して履修できるか？

履修登録した科目は、半年間変更することができません。時間割に合わせて、半年間生活スタイルを計画することも大切です。

◆先輩の体験談◆ 火曜日は1時限と6時限を履修しました。空き時間ができたので、大学の近くの店でアルバイトをして、時間を有効に使うことができました。

(3) 授業の進め方などもポイント！？

キャリアデザイン学部の授業は講義形式のものから、グループワーク中心のもの、フィールドワークのあるものなど多様であり、授業の進め方はシラバスに記載されています。「苦手だった科目が、先生の話が面白かったので好きになった」そんな経験を持つ方も少なくないでしょう。実際に授業に出て、先生の授業の進め方を確認したうえで、履修するかどうか決めるのもおすすめです。

Step 3 時間割を見直す

抽選や選考で決まった科目や、初回の授業に出席した様子などから、実際に履修する時間割を考えてみましょう。

時間割を決めるには、これから大学でどのような学びをしたいのかをしっかりと考える必要があります。また、サークルやボランティア活動、資格取得や趣味、仕事など、生活の予定と両立させていく努力も重要です。時間割づくりに迷っている人だけでなく、これで完璧！と思っている人も見直してみましょう。

() 内は単位数 丸で囲んだ数字はILAC科目の群

	月	火	水	木	金	土
1限	英語1-I (1)④		ドイツ語1-I (1)④	ビジネスキャリア入門C(2)	ビジネスキャリア入門B(2)	
2限		英語2-I (1)④			スポーツ総合演習 (2)⑤	
3限	キャリアデザイン学入門(2)		基礎ゼミ (2) ⑩			
4限		発達・教育キャリア入門A (2)	発達・教育キャリア入門C (2)	情報処理演習 (2)⑩	ドイツ語2-I (1)④	
5限			心理学 I (2)②			
6限					文化人類学 (2)②	

単位数計

3 単位

3 単位

7 単位

4 単位

7 単位

合計 24 単位

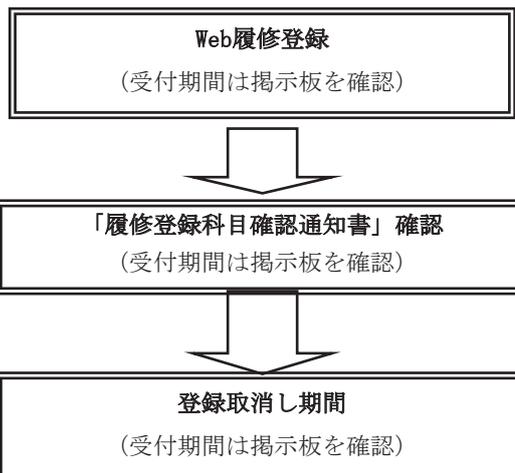
春学期の履修上限単位（卒業所要単位のみ）は30単位ですが、授業以外の活動も考慮して24単位に調整しました。

Step 4 Web履修登録をする

Check> 登録後の確認も忘れずに！

履修登録を終えたら、「履修登録科目確認通知書」を印刷しましょう。履修登録が終わったからと安心せず、必ずこの通知書で正しく登録できているか確認しましょう。

履修登録のエラー訂正を怠ったり、間違った科目を登録したままにしたために、「進級できない！」というケースもあります。通知書は決められた期間に受け取り、内容を確認することが必要です。詳細については、「履修の手引き」・学部掲示板で確認してください。



3. 資格にチャレンジする！

(1) 大学で資格（教職・図書館司書・社会教育主事・学芸員）を取るには

大学では、一定の科目を履修することで、「教員免許」、「図書館司書」、「社会教育主事」、「博物館学芸員」などの資格を取得することができます。

これらの資格を取得するには、学部の授業以外に、指定された科目を履修しなければなりません。興味のある方は、「教職課程履修要綱」「資格関係科目履修要綱」を教職資格課程窓口で入手し、4月上旬に行われる各ガイドンスに必ず出席してください。

Check> 教職・資格課程の科目について

教職・資格課程では、1年生から履修できる科目はそれほど多くありません。

とりたい資格があった場合は、どの学年でどれだけの科目が履修できるのか、4年間を通して考えてみましょう。教職課程を履修する場合は、教育実習が就職活動時期と重なることが多いようです。「とりあえず履修」という気持ちではなく、何のために教職・資格課程を履修するのかを考え、科目登録しましょう。

■教職課程センター（富士見坂校舎3階）教員免許状の取得から教員採用試験に合格するまでをサポートします。

(2) キャリアアップ奨励金を活用しよう

キャリアデザイン学部には、資格取得を目指す学生を支援する制度があります。制度の概要や詳細については「履修の手引き」・学部掲示板で確認してください。

(3) エクステンション・カレッジを利用しよう（外濠校舎2階キャリアセンター内）

エクステンション・カレッジでは資格・語学など提携先の講座を、割引価格で案内しています。詳細は、法政大学エクステンション・カレッジのホームページ（HOME → キャリア → エクステンション・カレッジ）をご覧ください。

(補足) キャリアデザイン学部生 お役立ち情報

(1) 法政大学の施設を使いこなそう

大学の情報を得るには法政ポータルサイト (Hoppii) 内の学部web掲示板をチェック！
休講情報や各種届出方法、イベント情報など、大学生活での有力な情報が得られます。



法政ポータルサイト (Hoppii)

Hoppii URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp>

学内施設については、大学ホームページに詳しい案内があります。利用方法を確認し積極的に活用しましょう。

- 各種相談窓口 (学部窓口、学生センター、キャリアセンター等) ■図書館 ■AVライブラリー
- 情報カフェテリア ■スタディールーム など

Check>> 山手線沿線の大学の図書館も利用できる！

山手線沿線の私立大学が協力して、コンソーシアムを形成し、相互に所蔵図書を検索・貸出できるシステムを持っています。詳しくは、法政大学図書館ホームページで確認しましょう。

(2) キャリアデザイン学部の施設を活用しよう

■授業やゼミに必要な機材の貸出し (キャリア情報ルーム)

大内山校舎3階のキャリアデザイン学部の情報ルームでは、ノートパソコン・ICレコーダー・デジタルカメラ・ビデオカメラなど様々な機器を借りることができます。

■授業やゼミに必要な資料作成 (CAL S)

ボアソナード・タワー12階のCAL Sは、少人数授業の共同発表資料や、ゼミ報告集などを作成するときに使えます。使用するには事前申込みが必要です (個人やサークルでは使えません)。

■ゼミ合宿で (株) エイチ・ユーが「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設を利用した場合に宿泊料補助を行っていますので、ぜひご利用ください。詳細は、以下の大学HPにて掲載しています。

(HOME > キャンパスライフ > 学生生活サポート > ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助)

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/index.html>

(3) 各種相談窓口：

詳細は大学ホームページ (HOME→キャンパスライフ→健康管理・相談窓口) を確認してください。

■心の専門家に相談したい (市ヶ谷学生相談室)

電話：03-3264-9493

富士見坂校舎4階にある学生相談室では、大学生活におけるさまざまな悩みを、心理カウンセラーなどの専門スタッフに相談することができます。

■ハラスメントに悩んでいる (ハラスメント相談窓口)

電話：03-3264-4409

セクシャル・ハラスメント「相手の意に反して行われる性的言動」の被害や、「優位な立場の者がその権力を利用した不当な行為」によって、教育、研究、就学上の不利益などを被るといったアカデミック・ハラスメントの被害などにあった場合、ハラスメント相談室がサポートしてくれます。被害にあったら一人で悩まず、相談してみましょう。

■体調が悪い… (市ヶ谷診療所)

電話：03-3264-9503

ボアソナード・タワー2階には、ちょっと具合が悪くなったときに診てもらえる診療所があります。いざというときに備えて、覚えておきましょう。受診時には、学生証と保険証の提示が必要です。

■就職などの将来の相談 (キャリアセンター)

外濠校舎2階のキャリアセンターは就職活動中の3、4年生だけではなく、1年生から利用できます。1年生から参加できるプログラムもあります。

■留学のことを知りたい (グローバル教育センター)

大内山校舎2階のグローバル教育センターは、海外留学に関する各種手続きを行っています。

■ボランティアについて知りたい (ボランティアセンター)

外濠校舎1階のボランティアセンターは、ボランティアに関する情報を得られることはもちろん、ボランティア関係講座やスキルアップ講座を開催しています。

■勉強の進め方がわからない (学習ステーション)

富士見坂校舎2階の学習ステーションには、学生アシスタントの先輩が常駐しています。

(4) 知っておくと便利な情報

■コピーをとる

コピー機は学内の所定の場所に置いてあります。コイン式とカード式があります。コピーカードは、図書館ロビーにある自動販売機で購入でき、コイン式を利用するよりも割安です。

■食堂（フォレストガーデン、つどひ、富士見坂食堂）

フォレストガーデンはボアソナード・タワー地下1階、つどひは富士見ゲート3階、富士見坂食堂は富士見坂校舎地下1階にあります。その他、外濠校舎1階のセブンイレブンや富士見ゲート1階のOrange café、同じく地下1階の生協売店でお弁当やおにぎり、パンなどが買えます。

■生協など（書籍、文具、プレイガイドなど）

富士見ゲート地下1階に、法政大学生協（書籍・文具・旅行や運転免許等のプレイガイド）、書店、写真店があります。また外濠校舎6階にも旅行代理店があり、ゼミ・サークル合宿などの相談ができます。

Miniコラム あなたも狙われている！？

「大学入学後、全く知らない人から親しげに電話がかかってきて気持ち悪かった」、「街頭でキャンペーン中で格安だと言われたので、ローンで英会話教材を契約したところ、後で高額な代金を請求された」、「大学の近くでアンケートに協力したら、その後、勧誘の電話が何度もかかってきた」など・・・特に4月は、大学新生を狙った悪質商法の勧誘活動が、あちこちで行われています。悪質商法で嫌な思いをしないよう、くれぐれも注意してください。

【こんな言葉で近づいてくる相手には注意！】

1. 「当社が行う簡単なテストに合格すれば公認会計士を取得できます」などと言って契約させる。
2. 「すいませーん。アンケートにご協力いただけませんかあ？」などと声をかけ怪しげな展示会に連れて行き、物を購入させる。
3. 「最近お肌の調子はどうですか？一度当社に来て頂けたらあなたにピッタリの化粧品を作ってあげられますよ」と声をかけ、高額な化粧品を購入させる。
4. 「ねえねえ、ここらへんでカワイイお店知らない？」、「音楽とか映像とか興味ない？」、「上京してきたばかりで、友達欲しいから連絡先教えて」などと、親しげに声をかけ、友達になるふりをし、高額なセミナー（自己啓発セミナーなど）への参加を迫る。
5. 「当社の紹介するベンチャー企業へ融資すれば、確実に年15%の高配当を約束します。もし、融資先が倒産した場合でも当社が元本を肩代わりして保証しますのでご安心下さい」と説明し融資させる。数ヶ月後に利息が支払われなくなり、元本も戻らず。

【悪質商法からの防衛策】

1. 出所のはっきりしないアンケートには、名前や電話番号、メールアドレスを書かない。
2. 初めて参加するコンパなどで、気軽に名前や電話番号、メールアドレスを教えない（実際にコンパで書いた名前や電話番号がもとで、悪質商法にしつこく勧誘された先輩もいた）。
3. 電話や路上で商品購入を勧められても、すぐ契約せず、必ず信頼できる人に相談してから決める。
4. 街中で見ず知らずの人に誘われても、応じない。気軽に電話番号やメールアドレスを教えない。
5. もし商品購入の契約をしてしまった場合には、すぐに両親や信頼できる人、東京都消費生活総合センターの相談窓口などに相談する。

【カルト団体による勧誘行為】

カルト団体による法大生に対する勧誘活動が、大学の内外で行われているという情報が学生センターに寄せられています。

不審な勧誘活動にはくれぐれも注意し、個人情報や簡単に教えることのないように注意してください。

Check>> 民間業者のパフレットについてくれぐれもお願い！！

キャリアセンターやキャリア情報ルームに置いてある、資格取得やインターンシップ、就職支援に関する民間業者のパフレットは、参考資料として置いてあるものです。参加・申し込みの際には、十分に検討の上、よく判断し自己責任の範囲で行ってください。

2014～2016年度入学者用

(学生証番号の先頭2桁が「14」「15」「16」の学生用)

キャリアデザイン学部 2014～2016年度入学者 カリキュラム

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

重要! 卒業要件や履修科目は、入学年度によって異なります。
必ず自分が該当するページを見てください。

★カリキュラム以外にも、「キャリアデザイン学部生共通項目」や、
「市ヶ谷共通項目」のページがありますので、併せて確認してください。

卒業するためには

卒業して学士（キャリアデザイン学）の学位を得るためには、在学年限内に市ヶ谷基礎科目と専門科目について下記の単位規定をすべて満たさなければなりません。

卒業所要単位（2014～2016年度入学者用）

科目系列			必要単位数			
市ヶ谷基礎科目	0群	必修（基礎ゼミ）	2単位	2単位以上	36単位以上	
		選択				
	1群		4単位以上	20単位以上		
	2群		4単位以上			
	3群		4単位以上			
	4群	英語	4単位以上	8単位以上		
		選択（諸外国語）	4単位以上			
選択外国語						
5群（体育）		2単位以上				
学部専門科目 専門科目	基幹科目	必修 （キャリアデザイン学入門）	2単位	20単位以上	72単位以上	
		選択必修 （キャリア研究調査法）	2単位以上			
		選択必修 （入門系科目）	8単位以上*1			
		選択				
	展開科目		52単位以上 （*1で選択した領域から、36単位以上含む） （体験型選択必修科目4単位（1ペア）以上含む）			
	演習科目 *2					
	関連科目					
	他学部公開科目					
	自由科目 *3	ERP科目*4				
		ESOP科目*4	-			
		グローバル・オープン科目				
		インターン・ボランティア*4				
		短期語学研修*4				

*1 基幹科目の入門系科目のうち、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」から1つの領域を選択し、その選択した領域で8単位を修得しなければなりません。

*2 基幹科目（入門系科目）および展開科目で選択した領域と同じ領域を選択しなければなりません。

*3 自由科目は卒業所要単位として16単位まで修得可能です。

*4 グローバル教育センター設置科目です。必要手続きを経て単位認定を行います。

- 注意**
- 学部専門科目は、基幹科目、展開科目、演習科目、関連科目に大別され、科目群によっては必修科目や選択必修科目があります。必修科目はすべて単位を修得しないと卒業の要件を満たしません。選択必修科目とは、予め指定された科目群の中から所定の単位数以上の修得が条件とされている科目のことです。
 - 市ヶ谷基礎科目と学部専門科目のそれぞれ最低必要単位数を合計すると108単位（=36+72）になります。卒業所要総単位数との差24単位（=132-108）については、市ヶ谷基礎科目、専門科目（学部専門科目および自由科目）のいずれから修得しても構いません。
 - 休学者の進級および卒業については別掲「市ヶ谷共通項目」の「学籍」のページを確認してください。

4. 3年次終了までに卒業所要単位を修得していても、4年次に4単位以上を修得しなければ卒業することはできません。(進級に関する規程参照)

5. 必要単位数欄が空欄になっている系列の科目は、仮に単位の修得がなくても他の系列の科目によって右側に示されている必要単位数を修得していれば卒業の要件を満たせることを表しています。

(※)前ページの「卒業所要単位」の表は各「科目系列」ごとに科目を履修し合計して何単位取得すると卒業要件を満たすかを示したものです。さらにそれらの科目のうちに4単位分の「体験型選択必修科目」を含んで履修し単位を取得することも併せて卒業要件となっています。それらの科目は後述の「体験型選択必修科目」一覧表に示すものですが、春学期・秋学期とも表に示した科目をペアで、かつ「事前指導」や「I」を先に履修し単位を修得した後「実習」や「II」を履修しそれぞれ2単位、合計4単位取得することが卒業要件となります。これらのペア科目は定員を定めています。年度初めのガイダンスに出席し、履修希望申請書を必ず提出してください。これらのペア科目は2年次から履修できます。できるだけ他の学部専門科目の履修に影響が少ない2年次に履修することを推奨します。

「体験型選択必修科目」一覧

年次	春学期+秋学期 でペアとなる科目		定員 (予定)
	春学期科目名 (各2単位)	秋学期科目名 (各2単位)	
2年～	キャリアサポート事前指導	キャリアサポート実習	20×4クラス
	キャリア体験事前指導	キャリア体験学習	25×4クラス 32×1クラス
	キャリア体験事前指導 (国際)	キャリア体験学習 (国際)	10×2クラス
	多文化教育 I	多文化教育 II	50
	メディアリテラシー実習 I	メディアリテラシー実習 II	16
	地域学習支援 I	地域学習支援 II	35

進級するためには

キャリアデザイン学部において進級するためには、各年次2 Semester 在学し、各年次で下記の単位規定を満たさなければなりません。1単位でも不足したり間違いがあったりすると、進級できないので注意してください。

進級に関する規程 (キャリアデザイン学部)

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに24単位以上修得していなければならない。

第2条 第2年次から第3年次に進級する者は、第2年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。

ただし、SS I所属学生は第1号のみ適用する。

- (1) 第2年次修了までに48単位以上
- (2) 基幹科目の必修科目 (キャリアデザイン学入門)

第3条 第3年次から第4年次に進級する者は、第3年次修了までに次の各号に定める単位を修得しなければならない。

- (1) 市ヶ谷基礎科目のうち4群及び5群の卒業所要単位
- (2) 前号の単位を含め88単位以上

第4条 4年次においては、4単位以上を修得しなければならない。但し、法政大学学則第49条第4項に定める場合を除く。

第5条 進級は学年度初め (4月1日付) をもって行う。

*進級に関する修得単位数に教職・資格科目 (卒業要件外科目) は含みません。

<参考>

法政大学学則第49条

第49条 4ヵ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

- 2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、秋学期に入学し、第1項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は春学期末に行う。但し、本人の申請により秋学期末に行うことができる。
- 4 第1項の規定にかかわらず、3ヵ年以上在学し、卒業所要単位を優秀な成績で修得した者は学士の学位を与え、学位記を授与することができる。
- 5 前項の早期卒業に関する要件は別に定める。
- 6 前5項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

(以下、省略)

早期卒業について

キャリアデザイン学部早期卒業に関する規程（規定第927号）第2条

第2条 早期卒業を認める学生は、次の各号に定める要件を全て満たしていなければならない。

- (1) 3年次終了時までには卒業所要単位を取得し、かつGPAが3.0以上の者。
- (2) 専門科目および市ヶ谷基礎科目の修得科目のうち、それぞれ9割以上がA評価以上であること。
- (3) 3年次に演習（発達・教育）（ビジネス）（ライフ）を履修、修得していること。
- (4) 卒業論文に準ずる論文や作品等を執筆または制作し、高い評価を得た者。

早期卒業の手続きスケジュール等

～10月下旬	早期卒業申請受付
12月中旬	卒業論文に準ずる論文・作品提出 * 4年生の卒業論文提出期間と同様
2月上旬	早期卒業希望者に対する面接（口頭試問）
3月上旬	面接（口頭試問）の結果通知 * 4年生の卒業発表期間と同様
3月24日	条件を満たした場合、卒業

* 詳細は掲示等でお知らせします。

履修登録について

履修に際しては、自分が関心を持つテーマに関連した学問分野の科目の単位を、確実にしかも段階を追って修得していく必要があります。市ヶ谷基礎科目の中には、学部の専門科目を学ぶ上で前提になるような基本的内容を取り上げている科目があります。また、学部科目の中にも、科目間の履修順序を守る必要がある科目があります。「法政大学webシラバス」で各科目の内容説明を読み、自分にとってどの順番でそれぞれの科目を履修していくのが適切であるのかを、考えてください。

具体的な履修の計画をする前に、キャリアデザイン学部主催の各学年向け履修ガイダンスに必ず出席し説明を受けてください。さらに毎年4月に行われる履修相談会を活用して履修計画を立てることもできます。キャリアデザイン学部独自の制度として、学部生は、「キャリアアドバイザー」と呼ばれる学部専門職員に履修に関しての相談をすることができます。個別に履修相談がしたい場合は、キャリアアドバイザールーム（富士見坂校舎3階）のキャリアアドバイザーに相談してください。



法政大学webシラバス

1 登録制度とは

単位を修得するためには、指定の期日までに履修したい科目を登録する、「履修登録」という手続きを確実に行わなければなりません。履修登録は春学期・秋学期セメスター開始時の年2回行います。この履修登録はとても重要で、登録を怠った場合は当該セメスターの単位の修得はできず留年となることもあります。また、登録エラーがあった場合、放置したままにすると登録自体が無効となり単位の修得ができません。

みなさんが履修登録の意思表示をした科目はコンピューター処理され、履修が手引きどおりになされているか判定されます。エラーを完全になくしないと正式な登録となりませんので、必ずこの手引きをよく読み、エラーを出さないよう注意してください。ただし、コンピューター処理をしているといっても、すべて細かい部分まで完全に判定はできないこともあります。登録した科目に間違いがないか、履修条件に合っているかは、各自で必ず確認しなければなりません。

履修登録についての詳細は、法政ポータルサイト（Hoppii）内の学部web掲示板等にてお知らせしますので必ず確認してください。

学則第22条 学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出て、承認を得なければならない。

学則第39条 新入生で指定された期日までに履修届を提出しない等、その他本学において修学する意志がないと認められる者は教授会の議を経て除籍する。

期限までに登録しない場合、当該セメスターの受験資格が認められず単位の取得ができないばかりか除籍となることもあります。十分注意してください。

2 履修登録前の準備（必ず行ってください）

キャリアデザイン学部では、一部の抽選科目を除き、履修登録期間よりも先に授業が始まります。まずは履修したい科目を学習支援システムに仮登録し、授業に臨んでください。学習支援システムには法政ポータルサイト(Hoppii)からアクセスすることができます。学習支援システムに仮登録することで、その授業に関するお知らせや教材の参照、休講や教室変更等の連絡を受け取ることができます。履修したい授業はすべて仮登録することを忘れないでください。

ただし、学習支援システムへの仮登録は履修登録とは異なります。あくまで、履修登録期間に履修登録をしないと単位が修得できませんので注意してください。

3 履修登録のしかた

学習支援システムへの登録は、あくまでも仮登録です。法政ポータルサイト(Hoppii)から情報システムにアクセスし、履修登録を行ってください。また、履修登録前には必ず「Web履修ガイド」（学部Web掲示板に記載）を読んでください。法政ポータルサイト（Hoppii）のURL、QRコードは以下のとおりです。

<https://hoppii.hosei.ac.jp>

履修登録期限については、つぎのことに注意が必要です。

- ・ 掲示された期日までに、必ず自分自身で申請してください。
- ・ 履修登録期間中に病気や不可抗力の事故等のため履修登録ができなかった場合には、診断書等の証明書をつけ、キャリアデザイン学部窓口に出してください。連絡や正当な理由がなく期日に遅れた場合、登録の申請は受けつけません。

履修登録期間後に、日時・時間を勘違いしていた、忘れていた、(締切間際にログインして) PC・システム等の操作方法がわからなかった、あるいはアルバイトがあったからといったような理由での事後登録もしくは登録内容の変更は一切認められません。

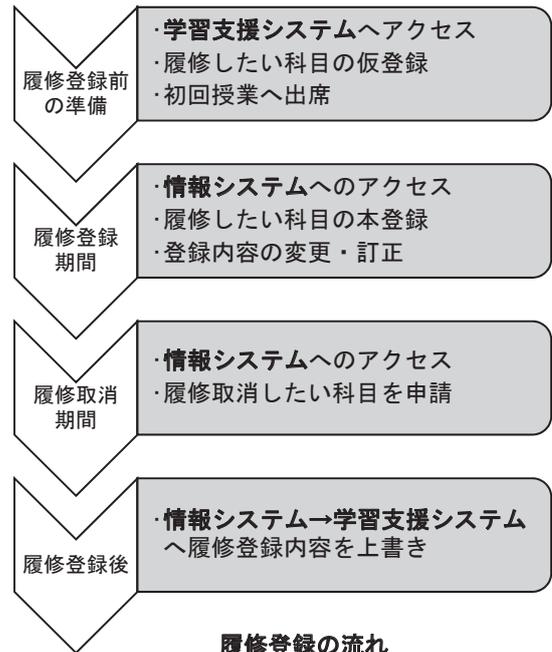
履修登録については、卒業・進級に関係してくる重大な事項ですので、必ず所定期間内に登録内容を確認し、手続きを完了させるようにしてください。

4 履修登録の確認

登録した内容を確認するために履修登録科目確認通知書を各自で印刷し、保管してください。履修登録科目確認通知書は、正確に登録されたかを本人が確認する手段となります。履修登録科目の確認を怠ったために、登録ミスに気づかず修得単位ゼロという例も毎年少なからずあります。自己責任が原則です。

5 履修登録の訂正

履修登録期間内は何度でも科目を変更することができますが、登録期限後は科目の変更はできません。登録にミスがあり、登録ができない場合はミスをした部分の訂正をしないと履修登録が完了しません。また、エラーの修正が遅れると教員へ渡す受講者名簿に名前が載らず出席をとってもらえないなどの不利益が生



法政ポータルサイト（Hoppii）

じる恐れがあります。

6 履修取消

登録期間後でも、一定期間内に申し出れば登録を取り消すことができます。登録取消の期間については、学部web掲示板で確認してください。

7 登録単位制限と重複登録について

登録できる単位数には、セメスター・年次ごとに上限があります。この制限を超えて登録すると、「登録ミス」となり、すべての科目の履修登録が無効となりますので、注意が必要です。

<注意>

- ・履修登録をしていない科目・曜日・時限の授業へ出席したり、試験を受けたりしても単位の修得はできません。
- ・大学から成績や緊急の連絡等に関する重要書類を郵送することがありますので、転居した際は必ず住所変更の手続きをとってください。
- ・留年および復学・復籍した場合、学生証番号・所属クラスが変更になる場合があります。留年・復学・復籍した当該年次のカリキュラムにもとづいて、登録してください。

履修登録が可能な単位数について

履修登録には次のようなルールがあります。

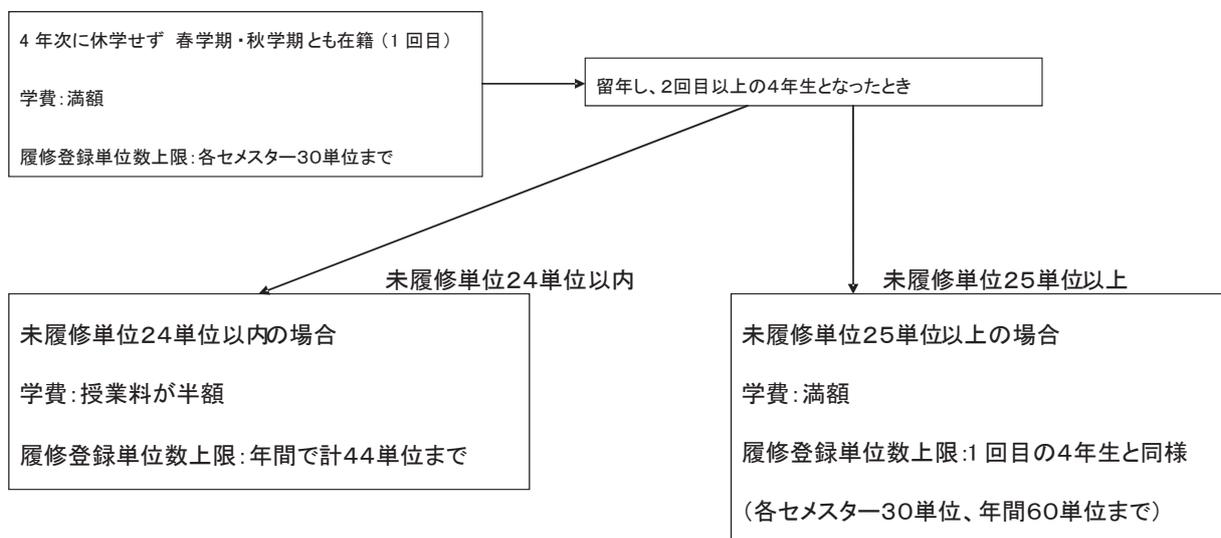
履修登録を怠ったり履修エラーを未修正で放置したりすると授業・試験を受けても単位は修得できませんので、注意してください。

2014年度～2016年度入学者

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降4年生になった場合に履修登録できる単位数

- (1) 未履修単位24単位以内の場合：年間で計44単位まで
- (2) 未履修単位25単位以上の場合：各セメスターおよび年間の履修制限単位数まで

4年次においてセメスターを2期在籍した学生で、留年して2回目以降の4年生になった場合の学費および履修できる単位は、次のとおりです。



1 セメスター・年間の登録上限単位

各セメスターに履修登録できる単位数には上限があります。単位は週あたりの学習時間によって決められています。それゆえ、一定の期間に無制限に単位修得できるわけではありません。

キャリアデザイン学部では、各セメスターおよび年間（2つのセメスター）での履修登録において、科目の系列ごとに登録単位の上限を設けています。

なお、年間科目（2つのセメスターにまたがる科目）については春学期セメスターでのみ履修登録ができ、春学期の履修上限に含めて計算されます。

2 単位数上限について

①市ヶ谷基礎科目と専門科目（関連科目を除く）

原則として1年春学期は24単位まで履修登録が可能です。

1年秋学期以降は、それぞれが修得した（S～C⁻までの評価を得た）単位数によって履修登録できる単位数の上限が決まります。ただし、いずれの場合でも、履修登録できる単位数は合計で半期30単位・年間で48単位が上限です

②専門科目（関連科目）

上記①とあわせて半期30単位・年間で48単位を上限として履修登録することができます。

③教職・資格科目を履修する場合

上記①②の履修登録単位数とあわせて各セメスターで30単位まで履修登録できます。

※SSIコース生は

【A】：市ヶ谷基礎科目と専門科目（関連科目も含む）で半期30単位、年間48単位まで履修登録できます。

【B】：【A】＋卒業所要単位外の教職・資格科目で半期30単位、年間60単位まで履修登録できます。

3 1年次春学期（1 Semester）に履修登録できる単位数

①市ヶ谷基礎科目と専門科目（関連科目を除く）は1年次春学期で24単位まで履修登録できます。あわせて、

②専門科目（関連科目）および③教職・資格科目を履修したい場合は、①とあわせて合計30単位まで履修登録できます。

①市ヶ谷基礎科目と専門科目(関連科目を除く)	②関連科目	③ 教職・資格科目 (教職資格課程表で■科目)
← 24単位まで →		
← ①と②で合計30単位まで →		
← ①と②と③で合計30単位まで →		

* ①と②合計で、年間では48単位までの登録となります。(例：春学期に30単位登録した場合、秋学期は18単位まで)

* 1年次秋学期以降は上記表の通りにはなりません。個人別で状況が異なりますので、各自で計算してください。

4 1年次秋学期（2セメスター）以降に履修登録できる単位数

履修制限単位数表（2014年度～2016年度入学者用）

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
市ヶ谷基礎科目+	累積上限単位数	24	42	66	84	108	126	150	168
専門科目(関連科目除く)	当セメスター履修登録可能単位数	24	42-★	66-★	84-★	108-★	126-★	150-★	168-★

★は、前セメスター終了時まで既に修得した(A+～Cの評価を得た)市ヶ谷基礎科目と専門科目(関連科目除く)の単位の合計です。
(ただし各セメスターとも30単位が上限です)

① 市ヶ谷基礎科目と専門科目(関連科目を除く)の履修登録上限単位数を考慮する場合
② 関連科目を履修する場合の履修登録上限単位数を考慮する場合
③ 卒業所要単位外の教職課程・資格課程科目

各セメスターの履修上限単位数

①市ヶ谷基礎科目と専門科目（関連科目を除く）の履修登録上限単位数を考慮する場合

上記①枠内の表を参照

②関連科目を履修する場合の履修登録上限単位数を考慮する場合

上記①で算出した単位数と専門科目の関連科目（②）で半期30単位、年間48単位まで

③教職・資格科目を履修する場合の履修登録上限単位数を考慮する場合

上記表①+②+③で、半期30単位、年間60単位まで

※SSIコース生は

【A】：市ヶ谷基礎科目と専門科目（関連科目も含む）で半期30単位、年間48単位まで履修登録できます。

【B】：【A】 + 卒業所要単位外の教職・資格科目で半期30単位、年間60単位まで履修登録できます。

5 留年した場合に履修登録できる単位数

留年した年次の春学期セメスターの上限単位を適用します。「履修制限単位数表」を参照してください。

6 クラス指定・定員のある科目について

以下の科目は、原則としてクラス指定もしくは定員制が設けられているので、必ずしも希望通りの時間に履修できるとは限りません。

- 市ヶ谷基礎科目4群の必修外国語は、指定されたクラスで受講してください。
- 市ヶ谷基礎科目4群の選択外国語は、各授業とも受講者数に制限があります。
- 市ヶ谷基礎科目5群の科目は、通常授業のクラス指定か集中授業のいずれかになります。
- 市ヶ谷基礎科目3群のサイエンス・ラボA/Bは、受講者数に制限があります。
- ILAC科目のうち、履修者が大人数となる授業については抽選があります。詳細については学部-(20)ページからの案内を読んでください。
- 入門系の授業の受講は、クラス指定されている場合があります。
- 国際コミュニケーション語学は、各授業とも受講者数に制限があります。
- 情報実習室を使用する授業は、受講者数に制限があります。
- 体験型選択必修科目は受講者数に制限があります。
- 上記以外にも受講制限を行う場合があります。選抜方法の詳細についてはweb掲示板や講義概要(シラバス)を参照してください。

キャリアデザイン学部 カリキュラム構成図(2014～2016年度入学者用)

2014～2016年度入学者用
カリキュラム

市ヶ谷基礎科目					
0群	1群	2群	3群	4群	5群
基礎ゼミ 情報処理演習 日本語の世界Ⅰ・Ⅱ キャリアデザイン入門 キャリアデザイン演習 就業基礎力養成Ⅰ・Ⅱ 法政学への招待 法政学の探究A・B	文学Ⅰ・Ⅱ 倫理学Ⅰ・Ⅱ 日本史Ⅰ・Ⅱ 東洋史Ⅰ・Ⅱ 西洋史Ⅰ・Ⅱ 哲学Ⅰ・Ⅱ 論理学Ⅰ・Ⅱ 宗教論Ⅰ・Ⅱ 文章論Ⅰ・Ⅱ 芸術Ⅰ・Ⅱ	法学Ⅰ・Ⅱ 法学(日本国憲法) 経済学Ⅰ・Ⅱ 心理学Ⅰ・Ⅱ 地理学Ⅰ・Ⅱ 政治学Ⅰ・Ⅱ 社会学Ⅰ・Ⅱ 文化人類学Ⅰ・Ⅱ 社会思想Ⅰ・Ⅱ	教養数学A・B 基礎数学Ⅰ・Ⅱ 原子から宇宙までⅠ・Ⅱ 物質と環境Ⅰ・Ⅱ サイエンス・ラボA・B 生命科学Ⅰ・Ⅱ 科学史Ⅰ・Ⅱ 天文学Ⅰ・Ⅱ 発展数学Ⅰ・Ⅱ	英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語 スペイン語 朝鮮語 日本語	スポーツ総合演習

基幹科目			
キャリア研究調査法(質的調査) キャリア研究調査法(量的調査) キャリアデザイン学入門 発達・教育キャリア入門A・B	発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門Ⅰ) 発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ) ビジネスキャリア入門A～D ライフキャリア入門A～D	労働法 ファシリテーション論 若者の自立支援 職業選択論Ⅰ	ライフコース論 生活設計論Ⅰ(社会保障) 生活設計論Ⅱ(生活設計) キャリアモデル・ケーススタディ

展開科目			
キャリアサポート事前指導 キャリアサポート実習 多文化教育Ⅰ・Ⅱ	キャリア体験事前指導 キャリア体験学習 キャリア体験事前指導(国際) キャリア体験学習(国際)	メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ 地域学習支援Ⅰ・Ⅱ	

発達・教育キャリア	ビジネスキャリア	ライフキャリア
キャリア研究調査実習A キャリア研究調査実習B 外書講読A(発達・教育) 外書講読B(発達・教育) 生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ 臨床教育相談論Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ) 教育相談 教育心理学	キャリア研究調査実習C キャリア研究調査実習D 外書講読A(ビジネス) 外書講読B(ビジネス) 職業選択論Ⅱ 人材育成論Ⅰ・Ⅱ 産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ キャリア開発論 リーダーシップ論 経営統計論A(心理データ)	キャリア研究調査実習E キャリア研究調査実習F 外書講読A(ライフ) 外書講読B(ライフ) コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ 家族論 若者文化論 世代間交流論 身体表現論 地域文化論 アイデンティティ論 余暇集団論
学校論Ⅰ(キャリア形成) 学校論Ⅱ(キャリア形成) 学校論Ⅲ(キャリア教育) 学校論Ⅳ(キャリア教育) 生涯学習論Ⅰ(生涯学習支援論Ⅰ) 生涯学習論Ⅱ(生涯学習支援論Ⅱ) 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ メディア教育論Ⅰ・Ⅱ 教育マネジメントⅠ・Ⅱ	企業会計論 経営統計論B(企業データ) 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 戦略経営論Ⅰ・Ⅱ 経営分析論Ⅰ・Ⅱ アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ	NPO論 公共サービス論 アート・マネジメント論 文化経営論 メディア文化論 文化マーケティング論 ブランド創造論 産業文化論 ミュージアム概論 ミュージアム経営論
教育政策 現代教育思想 生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ) 生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ) 学習の社会史A・B 教育社会学Ⅰ・Ⅱ 教育経済学	職業キャリア論 労働経済学 シティズンシップ論 生産システム論 国際経営論 日本経済論 産業論 広告ビジネス論 マーケティング論 流通・マーケティング戦略論 流通・サービスビジネス論 就業機会発見実務	多文化社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ アジア社会論Ⅰ・Ⅱ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 国際地域研究Ⅰ・Ⅱ
総合	就業機会とキャリア	職業能力ベーススキルⅠ・Ⅱ

演習科目		
演習(発達・教育、ビジネス、ライフ)	卒業論文(発達・教育、ビジネス、ライフ)	キャリアデザイン学総合演習

関連科目					
国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ～Ⅴ) 国際コミュニケーション語学(中国語Ⅰ・Ⅱ) 日本語教育概説 多文化社会における日本語教育A～E スタディ・アブロードⅠ～Ⅳ 就業機会とキャリア特講 地域活性化論 就業応用力養成Ⅰ・Ⅱ 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 監査論Ⅰ・Ⅱ 税務会計論Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 経営分析Ⅰ・Ⅱ 異文化適応論 市民社会と政治 労働環境法 社会貢献・課題解決教育 教職入門 教育原理 教育の制度・経営 教育課程論	社会・地歴科教育法 社会・公民科教育法 商業科教育法 道徳教育指導論 特別活動論 教育方法論 生徒・進路指導論 図書館演習 図書館制度・経営論 図書館サービス概論	児童サービス論 情報サービス論 情報サービス演習 図書館情報資源概論 図書館情報資源特論 情報資源組織論 情報資源組織演習 学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性 情報メディアの活用 学校図書館メディアの構成	ミュージアム資料論 ミュージアム教育論 ミュージアム資料保存論 ミュージアム展示論 ミュージアム情報・メディア論 博物館実習Ⅰ・Ⅱ 社会教育計画 社会教育演習 社会教育活動Ⅰ・Ⅱ 職業指導(仕事の場と学び) 現代生活・文化と社会教育Ⅰ・Ⅱ	

自由科目					
他学部公開科目	ESOP科目	ERP科目	グローバル・オープン科目	インターン・ボランティア	短期語学研修

市ヶ谷基礎科目 カリキュラム表 (2014～2016年度入学者用)

	科目ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	必要数	備考
0 群	BSP100LA	リベラルアーツ特別講座	1～4年	2	2単位必修	2020年度新規開講
	SOW100LA等	課題解決型フィールドワーク	1～4年	1または2		2019年度新規開講
	BSP100LA	基礎ゼミ	1～4年	2		できる限り1年次で履修すること
	PRI100LA	情報処理演習	1～4年	2		2020年度より春学期のみ開講
	ARSe100LA	日本語の世界 I	1～3年	2		留学生のみ
	ARSe100LA	日本語の世界 II	1～3年	2		
	CARI100LA	キャリアデザイン入門	1年	2		
	CARI100LA	キャリアデザイン応用	1～4年	2		2018年度新規開講
	-	キャリアデザイン演習	1年	2		2018年度より閉講
	-	就業基礎力養成 I	1～4年	2		2018年度より閉講
	-	就業基礎力養成 II	1～4年	2		2018年度より閉講
	IDN100LA	大学を知ろう <法政学>への招待	1～4年	2		2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	IDN100LA	法政学の探究A	1～4年	2		秋学期開講
IDN100LA	法政学の探究B	1～4年	2	春学期開講		
1 群	LIT100LA	文学 I	1～4年	2	4 単位以上	0～5 群合計で36単位以上(注・卒業要件は専門科目と合計で132単位以上)
	LIT100LA	文学 II	1～4年	2		
	PHL100LA	倫理学 I	1～4年	2		
	PHL100LA	倫理学 II	1～4年	2		
	HIS100LA	日本史 I	1～4年	2		
	HIS100LA	日本史 II	1～4年	2		
	HIS100LA	東洋史 I	1～4年	2		
	HIS100LA	東洋史 II	1～4年	2		
	HIS100LA	西洋史 I	1～4年	2		
	HIS100LA	西洋史 II	1～4年	2		
	PHL100LA	哲学 I	1～4年	2		
	PHL100LA	哲学 II	1～4年	2		
	PHL100LA	論理学 I	1～4年	2		
	PHL100LA	論理学 II	1～4年	2		
	PHL100LA	宗教論 I	1～4年	2		
	PHL100LA	宗教論 II	1～4年	2		
	BSP100LA	文章論 I	1～4年	2		
ART100LA	芸術 I	1～4年	2			
ART100LA	芸術 II	1～4年	2			
2 群	LAW100LA	法学 I	1～4年	2	4 単位以上	秋・秋学期とも開講/1回(2単位)のみ修得可
	LAW100LA	法学 II	1～4年	2		
	LAW100LA	法学(日本国憲法)	1～4年	2		
	ECN100LA	経済学 I	1～4年	2		
	ECN100LA	経済学 II	1～4年	2		
	PSY100LA	心理学 I	1～4年	2		
	PSY100LA	心理学 II	1～4年	2		
	GEO100LA	地理学 I	1～4年	2		
	GEO100LA	地理学 II	1～4年	2		
	POL100LA	政治学 I	1～4年	2		
	POL100LA	政治学 II	1～4年	2		
	SOC100LA	社会学 I	1～4年	2		
	SOC100LA	社会学 II	1～4年	2		
	CUA100LA	文化人類学 I	1～4年	2		
CUA100LA	文化人類学 II	1～4年	2			
SOS100LA	社会思想 I	1～4年	2			
SOS100LA	社会思想 II	1～4年	2			
3 群	MAT100LA	教養数学A	1～4年	2	4 単位以上	2020年度休講
	MAT100LA	教養数学B	1～4年	2		
	MAT100LA	基礎数学 I	2～4年	2		
	MAT100LA	基礎数学 II	2～4年	2		
	PHY100LA	原子から宇宙まで I	1～4年	2		
	PHY100LA	原子から宇宙まで II	1～4年	2		
	CHM100LA	物質と環境 I	1～4年	2		
	CHM100LA	物質と環境 II	1～4年	2		
	NAS100LA	サイエンス・ラボA	1～4年	2		
	NAS100LA	サイエンス・ラボB	1～4年	2		
	BIO100LA	生命科学 I	1～4年	2		
	BIO100LA	生命科学 II	1～4年	2		
	SHS100LA	科学史 I	1～4年	2		
	SHS100LA	科学史 II	1～4年	2		
	ASRI100LA	天文学 I	1～4年	2		
	ASRI100LA	天文学 II	1～4年	2		
	MAT200LA	発展数学 I	2～4年	2		
MAT200LA	発展数学 II	2～4年	2			

※同名科目(同名でもⅠとⅡでは異なる科目です)は、同セメスターで1科目2単位までしか履修できません。また、一度単位を修得した科目は、次セメスター以降重複して履修登録できません。

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

※同名科目は、同セメスターで1科目1単位までしか履修できません。また、一度単位を修得した科目は、次セメスター以降重複して履修登録できません。

	科目ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	必要数	備考		
4群 (必修)	LANe100LA	英語1-I	1年	1	4単位			
	LANe100LA	英語1-II	1年	1				
	LANe100LA	英語2-I	1年	1				
	LANe100LA	英語2-II	1年	1				
4群 (選択)必修	LANd100LA	ドイツ語1-I	1年	1	いずれかの言語で4単位			
	LANd100LA	ドイツ語1-II	1年	1				
	LANd100LA	ドイツ語2-I	1年	1				
	LANd100LA	ドイツ語2-II	1年	1				
	LANf100LA	フランス語1-I	1年	1				
	LANf100LA	フランス語1-II	1年	1				
	LANf100LA	フランス語2-I	1年	1				
	LANf100LA	フランス語2-II	1年	1				
	LANr100LA	ロシア語1-I	1年	1				
	LANr100LA	ロシア語1-II	1年	1				
	LANr100LA	ロシア語2-I	1年	1				
	LANr100LA	ロシア語2-II	1年	1				
	LANc100LA	中国語1-I	1年	1				
	LANc100LA	中国語1-II	1年	1				
	LANc100LA	中国語2-I	1年	1				
	LANc100LA	中国語2-II	1年	1				
	LANs100LA	スペイン語1-I	1年	1				
	LANs100LA	スペイン語1-II	1年	1				
	LANs100LA	スペイン語2-I	1年	1				
	LANs100LA	スペイン語2-II	1年	1				
	LANk100LA	朝鮮語1-I	1年	1				
	LANk100LA	朝鮮語1-II	1年	1				
	LANk100LA	朝鮮語2-I	1年	1				
	LANk100LA	朝鮮語2-II	1年	1				
	LANj100LA	日本語1-I	1年	1				
	LANj100LA	日本語1-II	1年	1				
	LANj100LA	日本語2-I	1年	1				
	LANj100LA	日本語2-II	1年	1				
4群 (選択)外国語	LANe100LA	Practical English(英語オールラウンド・コミュニケーション)A-I	1～4年	1	0～5群合計で36単位以上(注・卒業要件は専門科目と合計で)	市ヶ谷基礎科目4群、必修外国語(英語)に充当も可能 前年度からの連続履修も可能		
	LANe100LA	Practical English(英語オールラウンド・コミュニケーション)A-II	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(英語オールラウンド・コミュニケーション)B-I	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(英語オールラウンド・コミュニケーション)B-II	1～4年	1				
	LANe100LA	English for Study Abroad I	1～4年	1				
	LANe100LA	English for Study Abroad II	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A-1	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A-2	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(英語検定試験対策)A-1	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(英語検定試験対策)A-2	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B-1	1～4年	1				
	LANe100LA	Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B-2	1～4年	1				
	LANe100LA	入門英語 I	1～4年	1				
	LANe100LA	入門英語 II	1～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語コミュニケーション I	2～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語コミュニケーション II	2～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語表現法 I	2～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語表現法 II	2～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語視聴覚 I	2～4年	1				
	LANd200LA	ドイツ語視聴覚 II	2～4年	1				
	LANd200LA	時事ドイツ語 I	2～4年	1				
	LANd200LA	時事ドイツ語 II	2～4年	1				
	LANd200LA	検定ドイツ語 I	2～4年	1				
	LANd200LA	検定ドイツ語 II	2～4年	1				
	LANd100LA	スポーツ・ドイツ語 I	1～3年	1				
	LANd100LA	スポーツ・ドイツ語 II	1～3年	1				
							132単位以上)	留学生のみ
								SSI生のみ

	科目ナンバリング	科目名	履修年次	単位数	必要数	備考
4群 (選択外国語)	LANf200LA	フランス語コミュニケーションⅠ	2～4年	1	0 5 群 合 計 で 36 単 位 以 上 (注・卒業要件は専門科目と合計で132単位以上)	
	LANf200LA	フランス語コミュニケーションⅡ	2～4年	1		
	LANf100LA	フランス語視聴覚Ⅰ	1～4年	1		2020年度休講
	LANf100LA	フランス語視聴覚Ⅱ	1～4年	1		
	LANf200LA	フランス語視聴覚Ⅲ	2年	1		
	LANf200LA	フランス語視聴覚Ⅳ	2年	1		
	LANf200LA	時事フランス語Ⅰ	2年	1		
	LANf200LA	時事フランス語Ⅱ	2年	1		
	LANf200LA	検定フランス語Ⅰ	2～4年	1		
	LANf200LA	検定フランス語Ⅱ	2～4年	1		2020年度休講
	LANf200LA	情報フランス語Ⅰ	2年	1		
	LANf200LA	情報フランス語Ⅱ	2年	1		2020年度休講
	-	観光フランス語Ⅰ	1～4年	1		
	-	観光フランス語Ⅱ	1～4年	1		2018年度より閉講
	-	スポーツ・フランス語Ⅰ	1～3年	1		
	-	スポーツ・フランス語Ⅱ	1～3年	1		SSI生のみ、2018年度より閉講
	LANc200LA	中国語コミュニケーションⅠ	2～4年	1		
	LANc200LA	中国語コミュニケーションⅡ	2～4年	1		
	LANc200LA	中国語表現法Ⅰ	2～4年	1		
	LANc200LA	中国語表現法Ⅱ	2～4年	1		
	LANc200LA	中国語視聴覚Ⅰ	2～4年	1		
	LANc200LA	中国語視聴覚Ⅱ	2～4年	1		
	LANc200LA	検定中国語Ⅰ	2～4年	1		
	LANc200LA	検定中国語Ⅱ	2～4年	1		
	LANs200LA	スペイン語コミュニケーションⅠ	3～4年	1		
	LANs200LA	スペイン語コミュニケーションⅡ	3～4年	1		
	-	スペイン語講読Ⅰ	2～4年	1		
	-	スペイン語講読Ⅱ	2～4年	1		2019年度より閉講
	LANs200LA	時事スペイン語Ⅰ	2～4年	1		
	LANs200LA	時事スペイン語Ⅱ	2～4年	1		
	LANk200LA	朝鮮語コミュニケーションⅠ	2～4年	1		
	LANk200LA	朝鮮語コミュニケーションⅡ	2～4年	1		
LANk200LA	朝鮮語講読Ⅰ	3～4年	1			
LANk200LA	朝鮮語講読Ⅱ	3～4年	1			
LANk200LA	朝鮮語表現法Ⅰ	3～4年	1	朝鮮語(4群必修)を修得している場合のみ履修可		
LANk200LA	朝鮮語表現法Ⅱ	3～4年	1			
LANk200LA	朝鮮語視聴覚Ⅰ	2～4年	1			
LANk200LA	朝鮮語視聴覚Ⅱ	2～4年	1			
-	日本語コミュニケーションⅠ	2～4年	1			
-	日本語コミュニケーションⅡ	2～4年	1	留学生のみ、2018年度より閉講		
5群	HSS100LA	スポーツ総合演習	1年	2	2単位必修	

※同名科目は、同セメスターで1科目1単位までしか履修できません。また、一度単位を修得した科目は、次セメスター以降重複して履修登録できません。

ILAC (アイラック) 科目/市ヶ谷基礎科目 新旧科目対応表

※単位数や履修年次は、科目一覧で確認して下さい。

2017年度以降入学生			2014～2016年度入学生			備考
群	科目配置	必修選択	授業科目	群	授業科目	
0群	基盤	必修	基礎ゼミ リベラルアーツ特別講座 課題解決型フィールドワーク 情報処理演習	0群	基礎ゼミ リベラルアーツ特別講座 課題解決型フィールドワーク 情報処理演習	2020年度新規開講 2019年度新規開講 2020年度より春学期のみ開講
		選択	キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 キャリアデザイン演習 就業基礎力養成 I/II 大学を知らう <法政学>への招待		キャリアデザイン入門 キャリアデザイン応用 キャリアデザイン演習 就業基礎力養成 I/II 大学を知らう <法政学>への招待	2017年度で閉講 2017年度で閉講 2019年度より「法政学への招待」から名称変更
	リベラル	選択	法政学の探究LA ◇ 法政学の探究LB ◇		法政学の探究A 法政学の探究B	
1群	基盤	選択必修	日本古典文学A ◇ 日本古典文学B ◇ 日本近・現代文学A ◇ 日本近・現代文学B ◇ 日本文学A ◇ 日本文学B ◇ 外国文学A ◇ 外国文学B ◇ 文章論 ◇ 言語学A ◇ 言語学B ◇ 哲学 I/II 倫理学 I/II 論理学 I/II 東洋史 I/II 西洋史 I/II 日本史 I/II 宗教論 I/II 芸術A 芸術B	1群	文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文学 I 文学 II 文章論 I	
			外国文学と文化LA/LC/LE/LG ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF/LH ◇ 外国文学と文化LA/LC/LE ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF ◇ 文学と社会LA/LC/LE ◇ 文学と社会LB/LD/LF ◇ 音声学L ◇ 哲学L I/L II ◇ 倫理学L I/L II ◇ 論理学L I/L II ◇ 東洋史L I/L II ◇ 西洋史LA ◇ 西洋史LB ◇ 日本史L I/L II ◇ 宗教論L I/L II ◇		哲学 I/II 倫理学 I/II 論理学 I/II 東洋史 I/II 西洋史 I/II 日本史 I/II 宗教論 I/II	※1
	リベラル	選択必修	日本文学と文化LA/LC/LE/LG ◇ 日本文学と文化LB/LD/LF/LH ◇ 外国文学と文化LA/LC/LE ◇ 外国文学と文化LB/LD/LF ◇ 文学と社会LA/LC/LE ◇ 文学と社会LB/LD/LF ◇ 音声学L ◇ 哲学L I/L II ◇ 倫理学L I/L II ◇ 論理学L I/L II ◇ 東洋史L I/L II ◇ 西洋史LA ◇ 西洋史LB ◇ 日本史L I/L II ◇ 宗教論L I/L II ◇		文学 I 文学 II 文学 I 文学 II	2020年度休講 (外国文学と文化LC) 2020年度休講 (外国文学と文化LD) 2020年度休講 (文学と社会LA) 2020年度休講 (文学と社会LB)
2群	基盤	選択必修	法学 I/II 法学(日本国憲法) 経済学 I/II 心理学 I/II 地理学 I/II 政治学 I/II 社会学 I/II 文化人類学 ◇ 社会思想 I/II	2群	法学 I/II 法学(日本国憲法) 経済学 I/II 心理学 I/II 地理学 I/II 政治学 I/II 社会学 I/II 文化人類学 I 社会思想 I/II	
			経済学LA ◇ 経済学LB ◇ 心理学LA ◇ 心理学LB ◇ 地理学LA/LC ◇ 地理学LB/LD ◇ 政治学LA ◇ 政治学LB ◇ 社会学LA/LC ◇ 社会学LB/LD ◇ 文化人類学L ◇ 社会思想LA ◇ 社会思想LB ◇		経済学 I 経済学 II 心理学 I 心理学 II 地理学 I 地理学 II 政治学 I 政治学 II 社会学 I 社会学 II 文化人類学 II 社会思想 I 社会思想 II	
	リベラル	選択必修	経済学LA ◇ 経済学LB ◇ 心理学LA ◇ 心理学LB ◇ 地理学LA/LC ◇ 地理学LB/LD ◇ 政治学LA ◇ 政治学LB ◇ 社会学LA/LC ◇ 社会学LB/LD ◇ 文化人類学L ◇ 社会思想LA ◇ 社会思想LB ◇		経済学 I 経済学 II 心理学 I 心理学 II 地理学 I 地理学 II 政治学 I 政治学 II 社会学 I 社会学 II 文化人類学 II 社会思想 I 社会思想 II	
3群	基盤	選択必修	教養数学A 教養数学B 基礎数学 I/II 入門物理学A ◇ 入門物理学B ◇ 入門生物学A ◇ 入門生物学B ◇ 入門化学A ◇ 入門化学B ◇ サイエンス・ラボA サイエンス・ラボB 天文学A 天文学B 科学史A 科学史B	3群	教養数学A 教養数学B 基礎数学 I/II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II サイエンス・ラボA サイエンス・ラボB 天文学 I 天文学 II 科学史 I 科学史 II	
			教養数学A 教養数学B 発展数学 I/II ◇ 教養物理学LA ◇ 教養物理学LB ◇ 教養生物学LB/LD/LF ◇ 教養生物学LA/LC/LE ◇ 教養化学LA ◇ 教養化学LB ◇		発展数学 I/II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II	2020年度休講 (教養生物学LF) 2020年度休講 (教養生物学LE)
	リベラル	選択必修	教養数学A 教養数学B 基礎数学 I/II 入門物理学A ◇ 入門物理学B ◇ 入門生物学A ◇ 入門生物学B ◇ 入門化学A ◇ 入門化学B ◇ サイエンス・ラボA サイエンス・ラボB 天文学A 天文学B 科学史A 科学史B		教養数学A 教養数学B 発展数学 I/II 原子から宇宙までI 原子から宇宙までII 生命科学I 生命科学II 物質と環境I 物質と環境II	2020年度休講 (教養生物学LF) 2020年度休講 (教養生物学LE)

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

2017年度以降入学生			2014~2016年度入学生			備考			
群	科目配置	授業科目	群	授業科目					
4群	リベラル	必修	ドイツの文化と社会LA ◇ ドイツの文化と社会LB ◇ ドイツ語の世界LA ◇ ドイツ語の世界LB ◇ フランスの文化と社会LA ◇ フランスの文化と社会LB ◇ フランス語の世界LA ◇ フランス語の世界LB ◇ フランス生活文化論LA フランス生活文化論LB ロシアの文化と社会LA ◇ ロシアの文化と社会LB ◇ ロシア語の世界LA ◇ ロシア語の世界LB ◇ 中国の文化と社会LA/LC ◇ 中国の文化と社会LB/LD ◇ 中国語の世界LA ◇ 中国語の世界LB ◇ スペイン語の世界LA ◇ スペイン語の世界LB ◇ 朝鮮の文化と社会LA ◇ 朝鮮の文化と社会LB ◇ 日本の文化と社会LA ◇ 日本の文化と社会LB ◇ 日本語の世界LA ◇ 日本語の世界LB ◇	総合科目		※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1 ※1			
		選択				日本語の世界I 日本語の世界II ※3			
		英語	必修		英語1-I/II 英語2-I/II	4群	英語1-I/II 英語2-I/II		
			選択		Practical English(オーラル・コミュニケーション)A-I/II Practical English(オーラル・コミュニケーション)B-I/II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A-I/II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B-I/II Practical English(英語検定試験対策)A-I/II Practical English(英語検定試験対策)B-I/II English for Study Abroad I/II 入門英語(SSD)I/II		Practical English(オーラル・コミュニケーション)A-I/II Practical English(オーラル・コミュニケーション)B-I/II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)A-I/II Practical English(ビジネス・コミュニケーション)B-I/II Practical English(英語検定試験対策)A-I/II Practical English(英語検定試験対策)B-I/II English for Study Abroad I/II 入門英語(SSD)I/II		
			ドイツ語		必修		ドイツ語1-I/II ドイツ語2-I/II	ドイツ語1-I/II ドイツ語2-I/II	
					選択		ドイツ語表現法I/II 入門ドイツ語(SSD)I/II ◇ 検定ドイツ語I/II ドイツ語コミュニケーションI/II ドイツ語視聴覚I/II 時事ドイツ語I/II	ドイツ語表現法I/II スポーツドイツ語I/II 検定ドイツ語I/II ドイツ語コミュニケーションI/II ドイツ語視聴覚I/II 時事ドイツ語I/II	
					フランス語		必修	フランス語1-I/II フランス語2-I/II	フランス語1-I/II フランス語2-I/II
			選択				フランス語視聴覚(入門)I/II ◇ フランス語視聴覚(初・中級)I/II ◇ フランス語コミュニケーション(初級)I/II ◇ 時事フランス語I/II 検定フランス語(初級)I/II ◇ 情報フランス語I/II	フランス語視聴覚I/II フランス語視聴覚III/IV スポーツ・フランス語I/II 観光フランス語I/II フランス語コミュニケーションI/II 時事フランス語I/II 検定フランス語I/II 情報フランス語I/II	2020年度休講 ※2 ※2
			ロシア語				必修	ロシア語1-I/II ロシア語2-I/II	ロシア語1-I/II ロシア語2-I/II
			中国語		必修		中国語1-I/II 中国語2-I/II	中国語1-I/II 中国語2-I/II	
					選択		中国語視聴覚初級I/II ◇ 中国語作文初級I/II ◇ 中国語コミュニケーション基礎I/II ◇ 中国語コミュニケーション初級I/II ◇ 資格中国語初級I/II ◇	中国語視聴覚I/II 中国語表現法I/II 中国語コミュニケーションI/II 中国語コミュニケーションI/II 検定中国語I/II	2020年度休講
					スペイン語		必修	スペイン語1-I/II スペイン語2-I/II	スペイン語1-I/II スペイン語2-I/II
			選択				時事スペイン語I/II スペイン語コミュニケーションI/II	時事スペイン語I/II スペイン語講読I/II スペイン語コミュニケーションI/II	※2 2019年度より閉講
			朝鮮語		必修		朝鮮語1-I/II 朝鮮語2-I/II	朝鮮語1-I/II 朝鮮語2-I/II	
					選択		朝鮮語3C(コミュニケーション)I/II ◇ 朝鮮語4B(視聴覚)I/II ◇ 朝鮮語5A(購読)I/II ◇ 朝鮮語5B(表現法)I/II ◇	朝鮮語コミュニケーションI/II 朝鮮語視聴覚I/II 朝鮮語講読I/II 朝鮮語表現法I/II	
	日本語		必修	日本語1-I/II 日本語2-I/II	日本語1-I/II 日本語2-I/II				
			選択	日本語コミュニケーションI/II	日本語コミュニケーションI/II		※2		
	5群	基盤	必修 選択	5群	スポーツ総合演習 スポーツ総合演習S ◇				
		リベラル	選択	0群	健康の科学LA ◇ 健康の科学LB ◇	※1			

※1・・・2017年度以降入学者のみ履修可

※2・・・2016年度以前入学者のみ履修可

※3・・・2016年度以前入学者は、0群科目として履修

◇・・・2017年度以降入学者と2016年度以前入学者で科目名が異なるもの。

専門科目 カリキュラム表 (2014～2016年度入学者用)

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

	科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考	
基幹科目	選択必修	BSP200MA	キャリア研究調査法(質的調査)	基幹スキル	1年～	2	2単位以上		
		BSP200MA	キャリア研究調査法(量的調査)	基幹スキル	1年～	2			
	必修	BSP100MA	キャリアデザイン学入門	基幹必修	1年～2年	2	2単位		
	選択必修	BSP100MA	発達・教育キャリア入門A	発達・教育キャリア	基幹入門	1年～	2		一つの領域から8単位以上*1
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門C(生涯学習入門Ⅰ)		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	発達・教育キャリア入門D(生涯学習入門Ⅱ)		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門A	ビジネスキャリア	基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門C		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ビジネスキャリア入門D		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門A	ライフキャリア	基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門B		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門C		基幹入門	1年～	2		
		BSP100MA	ライフキャリア入門D		基幹入門	1年～	2		
	選択	CAR100MA	労働法		基幹共通	1年～	2		20単位以上
		BSP100MA	ファシリテーション論		基幹共通	1年～	2		
		BSP100MA	若者の自立支援		基幹共通	1年～	2		
		CAR100MA	職業選択論Ⅰ		基幹共通	1年～	2		
		CAR100MA	ライフコース論		基幹共通	1年～	2		
CAR100MA		生活設計論Ⅰ(社会保障)		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		生活設計論Ⅱ(生活設計)		基幹共通	1年～	2			
CAR100MA		キャリアモデル/ケーススタディ		基幹共通	1年～	2			
展開科目	選択必修	BSP200MA	キャリアサポート事前指導	★展開体験	2年～	2	1ペア4単位以上	「キャリア体験学習」と「キャリア体験学習(国際)」は同時に履修することができません	
		BSP200MA	キャリアサポート実習	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	多文化教育Ⅰ	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	多文化教育Ⅱ	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	キャリア体験事前指導	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	キャリア体験学習	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	キャリア体験事前指導(国際)	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	キャリア体験学習(国際)	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	メディアリテラシー実習Ⅰ	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	メディアリテラシー実習Ⅱ	★展開体験	2年～	2			
		BSP200MA	地域学習支援Ⅰ	★展開体験	2年～	2	*2		
		BSP200MA	地域学習支援Ⅱ	★展開体験	2年～	2			
	選択必修	EDU200MA	キャリア研究調査実習A		展開調査	2年～		2	一つの領域から36単位以上
		EDU200MA	キャリア研究調査実習B		展開調査	2年～		2	
		EDU200MA	外書講読A(発達・教育)		展開外書	2年～		2	
		EDU200MA	外書講読B(発達・教育)		展開外書	2年～		2	
		PSY200MA	生涯発達心理学Ⅰ	発達・教育キャリア	発達と学習	2年～		2	
		PSY200MA	生涯発達心理学Ⅱ		発達と学習	2年～		2	
		PSY200MA	臨床教育相談論Ⅰ		発達と学習	2年～		2	
		PSY200MA	臨床教育相談論Ⅱ		発達と学習	2年～		2	
PSY200MA		キャリアカウンセリングⅠ	発達と学習		2年～	2			
PSY200MA		キャリアカウンセリングⅡ	発達と学習		2年～	2			
PSY200MA	キャリアカウンセリングⅢ(ケーススタディ)	発達と学習	2年～		2				
PSY200MA	教育相談	発達と学習	2年～		2				
PSY200MA	教育心理学	発達と学習	2年～		2				
EDU200MA	学校論Ⅰ(キャリア形成)	学校教育と地域学習	2年～		2				
EDU200MA	学校論Ⅱ(キャリア形成)	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	学校論Ⅲ(キャリア教育)	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	学校論Ⅳ(キャリア教育)	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	生涯学習論Ⅰ(生涯学習支援論Ⅰ)	学校教育と地域学習	2年～	2	*3				
EDU200MA	生涯学習論Ⅱ(生涯学習支援論Ⅱ)	学校教育と地域学習	2年～	2					
FRI200MA	図書館情報学概論Ⅰ	学校教育と地域学習	2年～	2					
FRI200MA	図書館情報学概論Ⅱ	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	メディア教育論Ⅰ	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	メディア教育論Ⅱ	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	教育マネジメントⅠ	学校教育と地域学習	2年～	2					
EDU200MA	教育マネジメントⅡ	学校教育と地域学習	2年～	2					

*1 選択する領域は、*3と同じ領域でなければなりません。

*2 ★印の科目は、ペア前半(Ⅰまたは事前指導等)科目の単位を修得した場合、ペア後半(Ⅱまたは体験科目等)科目の履修登録が可能です。

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考
EDU200MA	教育政策	発達・教育キャリア	教育と社会	2年～	2	一つの領域から36単位以上 *3	基幹科目・展開科目 合計72単位以上 経営学部主催科目*4
EDU200MA	現代教育思想		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	生涯学習論Ⅲ(成人教育論Ⅰ)		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	生涯学習論Ⅳ(成人教育論Ⅱ)		教育と社会	2年～	2		
HIS200MA	学習の社会史A		教育と社会	2年～	2		
HIS200MA	学習の社会史B		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育社会学Ⅰ		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育社会学Ⅱ		教育と社会	2年～	2		
EDU200MA	教育経済学	教育と社会	2年～	2			
MAN200MA	キャリア研究調査実習C	ビジネスキャリア	展開調査	2年～	2		
MAN200MA	キャリア研究調査実習D		展開調査	2年～	2		
MAN200MA	外書講読A(ビジネス)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	外書講読B(ビジネス)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	職業選択論Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	人材育成論Ⅰ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	人材育成論Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	産業・組織心理学Ⅰ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	産業・組織心理学Ⅱ		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	キャリア開発論		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	リーダーシップ論		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	経営統計論A(心理データ)		個人・人間	2年～	2		
MAN200MA	企業会計論		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営統計論B(企業データ)		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営組織論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営組織論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	戦略経営論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	戦略経営論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営分析論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	経営分析論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	アントレプレナーシップ論Ⅰ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	アントレプレナーシップ論Ⅱ		集団・組織	2年～	2		
MAN200MA	職業キャリア論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	労働経済学		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	シティズンシップ論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	生産システム論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	国際経営論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	日本経済論		産業社会	2年～	2		
ECN200MA	産業論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	広告ビジネス論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	マーケティング論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	流通・マーケティング戦略論		産業社会	2年～	2		
MAN200MA	流通・サービスビジネス論	産業社会	2年～	2			
MAN200MA	就業機会発見実務	産業社会	2年～	2			
SOC200MA	キャリア研究調査実習E	展開調査	2年～	2			
SOC200MA	キャリア研究調査実習F	展開調査	2年～	2			
SOC200MA	外書講読A(ライフ)	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	外書講読B(ライフ)	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	コミュニティ社会論Ⅰ	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	コミュニティ社会論Ⅱ	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	家族論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	若者文化論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	世代間交流論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	身体表現論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	地域文化論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	アイデンティティ論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	余暇集団論	自己・他者・関係	2年～	2			
SOC200MA	NPO論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	公共サービス論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	アート・マネジメント論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	文化経営論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	メディア文化論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	文化マーケティング論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	ブランド創造論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	産業文化論	文化マネジメント	2年～	2			
CUM200MA	ミュージアム概論	文化マネジメント	2年～	2			
CUM200MA	ミュージアム経営論	文化マネジメント	2年～	2			
SOC200MA	多文化社会論Ⅰ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
SOC200MA	多文化社会論Ⅱ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
SOC200MA	多文化社会論Ⅲ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	アジア社会論Ⅰ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	アジア社会論Ⅱ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	国際関係論Ⅰ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	国際関係論Ⅱ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	国際地域研究Ⅰ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
ARSx200MA	国際地域研究Ⅱ	多文化・グローバル社会	2年～	2			
CAR200MA	就業機会とキャリア			2年～	2	総合	
CAR200MA	職業能力ベーシックスキルⅠ			2年～	2		
CAR200MA	職業能力ベーシックスキルⅡ			2年～	2		

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

*4 試験・休講・教室変更等の諸連絡については各学部の掲示板を見ること。

		科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数	備考
演習科目	選択	EDU200MA	演習(発達・教育)			2年～	各2		2年秋学期より履修可 10単位まで履修可 *3
		MAN200MA	演習(ビジネス)			2年～	各2		
		SOC200MA	演習(ライフ)			2年～	各2		
		EDU400MA	卒業論文(発達・教育)			4年	4		
		MAN400MA	卒業論文(ビジネス)			4年	4		
		SOC400MA	卒業論文(ライフ)			4年	4		
		OTR400MA	キャリアデザイン学総合演習			3～4年	2		
関連科目	選択	LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅰ)			1年～	1		市ヶ谷基礎科目4群(必修外国語 「英語」)に充当も可能 2017年度以降閉講 2017年度以降閉講 2020年度休講 経営学部主催科目 *4 会計の基礎知識を備えていることが 受講の条件として指定されている科目 が多いのでシラバスをよく読むこと。 国際文化学部主催科目 *4 2020年度休講 人間環境学部主催科目 *4 2020年度休講 教職課程「教職に関する科目」 教職課程の履修方法やシラバス は別冊「教職課程履修要綱」を見 ること。 資格課程科目 各資格課程(図書館司書・司書 教諭、博物館学芸員、社会教育 主事)の履修方法やシラバスは別 冊「資格関係科目履修要綱」を見 ること。
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅱ)			1年～	1		
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅲ)			1年～	1		
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅳ)			1年～	1		
		LANe100MA	国際コミュニケーション語学(英語Ⅴ)			1年～	1		
		-	国際コミュニケーション語学(中国語Ⅰ)			1年～	1		
		-	国際コミュニケーション語学(中国語Ⅱ)			1年～	1		
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅠ			2年～	4		
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅡ			2年～	4		
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅢ			2年～	4		
		LANe200MA	スタディ・アブロードⅣ			2年～	4		
		CAR200MA	就業機会とキャリア特講			2年～	2		
		CAR200MA	地域活性化論			2年～	4		
		CAR300MA	就業応用力養成Ⅰ			3年～	2		
		CAR300MA	就業応用力養成Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	財務会計論Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	財務会計論Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	監査論Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	監査論Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	税務会計論Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	税務会計論Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	管理会計論Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	管理会計論Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	原価計算論Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	原価計算論Ⅱ			3年～	2		
		MAN300MA	経営分析Ⅰ			3年～	2		
		MAN300MA	経営分析Ⅱ			3年～	2		
		SOC100MA	異文化適応論			1年～	2		
		SOC200MA	市民社会と政治			1年～	2		
		CAR200MA	労働環境法			2年～	2		
		CAR300MA	社会貢献・課題解決教育			3年～	4		
		EDU100MA	教職入門			1年～	2		
		EDU100MA	教育原理			1年～	2		
		EDU100MA	教育の制度・経営			1年～	2		
		EDU200MA	教育課程論			2年～	2		
		EDU200MA	社会・地歴科教育法			2年～	4		
		EDU200MA	社会・公民科教育法			2年～	4		
		EDU200MA	商業科教育法			2年～	4		
		EDU200MA	道徳教育指導論			2年～	2		
		EDU200MA	特別活動論			2年～	2		
		EDU200MA	教育方法論			2年～	2		
		EDU200MA	生徒・進路指導論			2年～	2		
		FRI200MA	図書館演習			2年～	4		
		FRI200MA	図書館制度・経営論			2年～	2		
		FRI200MA	図書館サービス概論			2年～	2		
		FRI200MA	児童サービス論			2年～	2		
		FRI200MA	情報サービス論			2年～	2		
		FRI200MA	情報サービス演習			2年～	4		
		FRI200MA	図書館情報資源概論			2年～	2		
		FRI200MA	図書館情報資源特論			2年～	2		
FRI200MA	情報資源組織論			2年～	2				
FRI200MA	情報資源組織演習			2年～	2				
FRI200MA	学校経営と学校図書館			2年～	2				

*3 選択する領域は、*1と同じ領域でなければなりません。

*4 試験・休講・教室変更等の諸連絡については各学部の掲示板を見ること。

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

		科目ナンバリング	科目名	領域	区分	受講学年	単位数	必要数			備考
関連科目	選択	FRI200MA	学習指導と学校図書館			2年～	2				資格課程科目 各資格課程(図書館司書・司書教諭、博物館学芸員、社会教育主事)の履修方法やシラバスは別冊「資格関係科目履修要綱」を見ること。
		FRI200MA	読書と豊かな人間性			2年～	2				
		FRI200MA	情報メディアの活用			2年～	2				
		FRI200MA	学校図書館メディアの構成			2年～	2				
		CUM100MA	ミュージアム資料論			1年～	2				
		CUM100MA	ミュージアム教育論			1年～	2				
		CUM100MA	ミュージアム資料保存論			1年～	2				
		CUM100MA	ミュージアム展示論			1年～	2				
		CUM100MA	ミュージアム情報・メディア論			1年～	2				
		CUM200MA	博物館実習Ⅰ			2年～	2				
		CUM200MA	博物館実習Ⅱ			2年～	2				
		EDU200MA	社会教育経営論			2年～	4				
		EDU200MA	社会教育演習			2年～	4				
		EDU200MA	社会教育活動Ⅰ			2年～	2				
		EDU200MA	社会教育活動Ⅱ			2年～	2				
		EDU200MA	職業指導(仕事の場と学び)			2年～	4				
		EDU200MA	現代生活・文化と社会教育Ⅰ			2年～	2				
EDU200MA	現代生活・文化と社会教育Ⅱ			2年～	2						
自由科目		-	他学部公開科目			2年～					16単位まで履修可
		-	ESOP科目 *5			1年～					
		-	ERP科目 *5			1年～					
		-	グローバル・オープン科目			1年～					
		-	「国際インターン」・「国際ボランティア」 *5*6			1年～	各1				
-	短期語学研修 *5*6			1年～	2						

* 5 グローバル教育センター設置科目です。参加後に必要手続きを経て単位認定を行います。

* 6 履修登録上限単位数の対象外となります。

履修上の注意(2016年度以前入学者)

留級した学生および進級した学生が未修得の科目を再履修する場合は、法政ポータルサイト(Hoppii)内の Web 掲示板の案内を確認してください。

URL: <https://hoppii.hosei.ac.jp>



※科目名についてはP. 学部－(58)を参照してください。

1. 市ヶ谷基礎科目0群～3群の履修について

☆0群☆

- a. 2017年度までに「就業基礎力養成Ⅰ」の単位を修得した方は、「キャリアデザイン応用」を履修できません。

	2017年度までに <u>就業基礎力養成Ⅰ</u> の単位を修得済み	2017年度までに <u>就業基礎力養成Ⅱ</u> の単位を修得済み	2017年度までに <u>キャリアデザイン演習</u> の単位を修得済み
キャリアデザイン応用	×履修できません	○履修できます	○履修できます

- b. 2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得した方は、「大学を知ろう <法政学>への招待」を履修できません。
 c. 科目によって履修できる年次が異なります。
 d. 単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。ただし、ⅠとⅡ、AとB等は異なる科目です。例えば、○○学Aと○○学Bであれば、どちらも履修することができます。

☆1群～3群☆

- a. 1年次生が市ヶ谷基礎科目1群～3群の科目を履修する場合は、学部・学科・クラスの指定があります。2～4年次生は、学部・学科・クラスの指定はありません。基礎科目時間割を確認し、選択してください。
 b. 「教養数学A/B」は1年次生以上が履修可能です。「基礎数学Ⅰ/Ⅱ」は2年次生以上が履修可能です。
 c. 単位を修得した同名科目を再度履修することはできません。ただし、ⅠとⅡ、AとB等は異なる科目です。例えば、○○学Aと○○学Bであれば、どちらも履修することができます。
 d. 「サイエンス・ラボA」と「サイエンス・ラボB」は実験授業のため定員制です。そのため、履修登録前に仮登録が必要です。仮登録の詳細については、法政ポータルサイト(Hoppii)内のWeb掲示板等を参照してください。
 e. 2015年度までに、「自然総合講座A」または「自然総合講座B」(あるいは両方)を履修して単位を修得したものは「サイエンス・ラボA」と「サイエンス・ラボB」のどちらも履修できません。

	2015年度までに <u>自然総合講座A</u> の単位を修得済み	2015年度までに <u>自然総合講座B</u> の単位を修得済み	2015年度までに <u>自然総合講座A/B</u> <u>ともに</u> 単位を修得済み
サイエンス・ラボA	×履修できません	×履修できません	×履修できません
サイエンス・ラボB	×履修できません	×履修できません	×履修できません

- f. 2015年度までに、「数学、情報を読むためにⅠ」を履修して単位を修得したものは「教養数学A」を、また「数学、情報を読むためにⅡ」を履修して単位を修得したものは「教養数学B」を履修できません。
 なお、単位を修得していない場合は履修が可能です。

	2015年度までに <u>数学・情報を読むためにⅠ</u> の単位を修得済み	2015年度までに <u>数学・情報を読むためにⅡ</u> の単位を修得済み
教養数学A	×履修できません	○履修できます
教養数学B	○履修できます	×履修できません

※2020年度よりILAC科目大人数授業において抽選制を実施します。対象科目や申込方法等の詳細はP. 学部- (20) ページを参照してください。

2. 市ヶ谷基礎科目4群（外国語）の履修について

(1) 必修外国語科目（4群必修科目）

「英語」と諸外国語の「ドイツ語」、「フランス語」、「ロシア語」、「中国語」、「スペイン語」、「朝鮮語」、「日本語」（留学生のみ）のうちから一つの合計2言語を学びます。1年次に英語（4単位）と英語以外の諸外国語（4単位）の計8単位を履修します。

- a. 必修外国語はクラス指定があります。それぞれ指定されたクラスで履修してください。
- b. 英語は、習熟度別クラス編成を行っています。1年次にELPA英語プレースメントテスト α が2回（4月・1月）行われ、4月実施のELPA英語プレースメントテスト α のスコアでみなさんの必修英語のクラスを決定します。必ず受験してください。
- c. 4群（外国語）の必修単位は8単位です。1年次で2言語をそれぞれ週2回・年間8単位履修します。ただし、SSI生は英語4単位以上が必修です。
- d. SSI生は指定されたクラスで「英語1-I・II」、「英語2-I・II」を履修するか、SSI生用の授業「入門英語I・II」を履修するか、いずれの方法でも単位修得は可能です。ただし、教員免許を取得する場合には、「英語1-I・II」、「英語2-I・II」を2単位以上履修する必要があります。
- e. 3年次までに8単位以上（SSI生は英語4単位以上）を修得しなければなりません、できるだけ2年次までに履修を終えるようにしてください。
- f. 入学時に選択した諸外国語は、途中から他の外国語に変更することはできません。

科目		科目名	必修単位	
SSI・留学生 以外の学生	英語	英語 1-I・II	4 単位以上	3 年次までに 8 単位以上修 得
		英語 2-I・II		
	諸外国語	〇〇語 1-I・II	4 単位以上	
		〇〇語 2-I・II		
SSI 生	英語 右記より 4 単位以上選 択	英語 1-I・II	4 単位以上	3 年次までに 4 単位以上修 得
		英語 2-I・II		
		入門英語 I・II		
留学生	英語	英語 1-I・II	4 単位以上	3 年次までに 8 単位以上修 得
		英語 2-I・II		
	日本語	日本語 1-I・II	4 単位以上	
		日本語 2-I・II		

(2) 外国語選択科目（4群選択外国語）

必修外国語以外に、次の外国語選択科目があります。いずれも、4群選択外国語科目に集計されます。また、英語の選択科目は必修英語科目に充当することができます。

英語の選択科目

英語の4群選択科目には次の科目があります。

Practical English（オーラル・コミュニケーション）A-I／II、Practical English（オーラル・コミュニケーション）B-I／II、Practical English（ビジネス・コミュニケーション）A-I／II、Practical English（ビジネス・コミュニケーション）B-I／II、Practical English（英語検定試験対策）A-I／II、Practical English（英語検定試験対策）B-I／II、English for Study Abroad I、English for Study Abroad II

いずれも定員は約25名で、履修年次は1～4年次です。Aは初級、Bは中級です。English for Study Abroad I／IIを除き、Iは春学期、IIは秋学期に開講されます。English for Study Abroad I／IIは外国に留学する場合の科目で、I／IIとも春学期に開講されます。

キャリアデザイン学部の留学制度（Study Abroad）については学部-（84）を参照してください。

諸外国語の選択科目

英語以外の外国語についても、必修外国語の他にさらに諸外国語を学びたい学生のために選択外国語があります。

「ドイツ語」には、「コミュニケーション」「表現法」「視聴覚」「時事ドイツ語」「検定ドイツ語」などがあります。「フランス語」には、「コミュニケーション」「視聴覚」「時事フランス語」「検定フランス語」などがあります。「中国語」には、「コミュニケーション」「表現法」「視聴覚」「検定中国語」などがあります。「スペイン語」には、「コミュニケーション」「時事スペイン語」などがあります。「朝鮮語」には、「コミュニケーション」「講読」「表現法」「視聴覚」などがあります。入学時に希望した諸外国語の選択科目のみ履修が可能です。留学生は日本語の選択科目のみ履修可能です。

なお、選択科目のテキストは、担当教員より受講が許可されてから購入してください。

- a. 春学期、秋学期を合わせて通年で履修（同一科目のIとIIを連続して履修）することが原則となります。II（秋学期）のみを履修する授業であっても、そのIIに対応するIの科目の4月の春学期1回目の授業に出席し、受講許可を得て、9月に履修登録を行ってください。受講許可を得る時には、必ず同一科目をI・II（春学期+秋学期）とも履修するのか、それともI（春学期）あるいはII（秋学期）のみ履修するのかを、4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員に申し出てください。
- b. 各科目（秋学期科目含む）とも、必ず4月の春学期1回目の授業に出席し、担当教員から受講許可を得てください。選抜を行う場合もあります。受講が許可された場合のみ履修登録が可能です。選抜を行った場合、法政ポータルサイト(Hoppii)内のWeb 掲示板にて発表します。

(3) 国際コミュニケーション語学（専門科目）

市ヶ谷基礎科目4群の選択外国語科目の他に、英語と中国語について専門科目の関連科目の国際コミュニケーション語学があります。

国際コミュニケーション語学の英語は、国際コミュニケーション語学・英語I／II（中級オーラル）、国際コミュニケーション語学・英語III／IV（中級～上級オーラル）、国際コミュニケーション語学・英語V（中級ライティング）があります。いずれも定員が25名で履修年次が1～4年です。

中国語については、国際コミュニケーション語学・中国語I／IIがあります。定員があり、履修年次が1～4年です。

国際コミュニケーション語学は、市ヶ谷基礎科目ではなく、また必修外国語との単位の代替はありませんが、市ヶ谷基礎科目の必修外国語、4群選択外国語科目と併せて履修するようにしてください。

3. 市ヶ谷基礎科目5群（体育科目）の履修について

学部一（24）を参照してください。

市ヶ谷基礎科目の目的と内容

※ 履修上の注意はP.学部一(67)～を参照してください。

市ヶ谷基礎科目0群～5群について

市ヶ谷基礎科目は半期(春学期・秋学期)ごとに授業を完結する Semester 制を採用しており、科目名の後に I または II と表示されます。 ※一部、通年科目もあります。また、I / II の代わりに III (春学期) / IV (秋学期) と表示される科目もあります。

成績評価は半期ごとに出され、単位を修得していくこととなりますが、科目の性質、または特殊性によって I、II を連続履修することで、より理解が深まるとされる科目もあります。以下の各群の説明、および WEB シラバスをよく読み確認してください。

市ヶ谷基礎科目は0群から5群までの6つの科目群により構成されています。各群の概要については、以下の説明を読んでください。なお、以降の説明では、特別な場合を除き「I」「II」(または「III」「IV」)等の記述を省くものとします。

市ヶ谷基礎科目0群

市ヶ谷基礎科目0群を開設する目的は、市ヶ谷基礎科目1群から5群までの科目の履修を容易にするため、それらの導入部を学び、基本的な知識を備えるためです。

- ・「大学を知ろう <法政学>への招待」(2018 年度まで「法政学への招待」)、「法政学の探究A・B」は法政大学の歴史と現状を知ることで、本学で学ぶことの意義を考え、より深い理解を得るための科目です。
- ・「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン応用」は、「大学生が『就業力』を身に付けるために、授業で何をどのように学ぶべきか」を目的に編成された科目です。卒業後に働くことを考えたとき何を大学時代に学んでおけばいいのか、深く考える仕組みを授業に取り入れています。
- ・「基礎ゼミ」は、1年次生を対象として開講されます。キャリアデザイン学部専任教員による少人数クラスで行う必修の科目です。
- ・「情報処理演習」は、コンピュータの操作の基礎を学ぶ、1 Semester 完結の科目です。担当教員によって取り上げる内容・レベルに違いがあるため、WEB シラバスをよく読んで自分に合った授業を選んでください。なお、PC 台数に限りがあるため、受講希望者が多数の場合は抽選となります。また、教員免許を取得するために必要な科目です。

市ヶ谷基礎科目1群

1群の科目は、文化全般をその研究対象とし、さらに、文化を創り出す人間とは何か、という研究課題をもっています。そのため、研究対象と講義内容は、多岐にわたります。

基本となるのは、「文学」「歴史」「哲学」の3分野といえます。文学では、日本の古典・近現代文学を始め、中国古典文学や西欧文学の講義を開講しています。哲学や歴史についても同様に、日本・東洋・西洋それぞれの専門の教員による講義が設置されており、さらに論理学・倫理学・言語学・文章論・宗教学・芸術なども含むさまざまな分野の教員による講座を開講しています。

以上の科目は「人文科学」と呼ばれ、古来教養の根幹をなす学問分野です。これらの科目を受講することを通して、幅広い知見を身につけるとともに、過去を学ぶことによって現在を考察し、さらには未来を展望する能力をつけることが狙いとなります。

市ヶ谷基礎科目2群

2群の開講科目は、「法学」「政治学」「経済学」「社会学」「心理学」「地理学」「文化人類学」「社会思想」の8分野です。

これらの科目は、いずれも、人間社会のさまざまな側面を、それぞれ独自の視角や方法によって分析・検討するものです。各科目では、それぞれの分野の基本的な知識や視点を学ぶことで、人間社会のさまざまな現象を理解

学生証番号の頭2桁が「16」以前の方

するための基礎的な教養と知見を身につけます。それと同時に、それぞれの分野が築き上げてきた理論や手法を学ぶことで、専門的・発展的な問いを考えていくための思考力・洞察力を養います。

学生のみなさんには、それぞれの科目を通じて、自分がそのなかの一員である社会について理解を深めて、人間社会のさまざまな現象や問題について考える基礎としてほしいと思います。

市ヶ谷基礎科目3群

宇宙空間のようなマクロの世界から微粒子のようなミクロの世界までを含む自然を、自然科学は研究対象とします。ここでは、自然科学の基礎的な学問から、人文科学や社会科学とも関連して学際性をもつ学問まで、「教養数学」、「基礎数学」、「発展数学」、「原子から宇宙まで」、「生命科学」、「物質と環境」、「サイエンス・ラボ」、「天文学」、「科学史」の9科目が開講されています。

市ヶ谷基礎科目4群

必修外国語のほか、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語、日本語についてのさまざまな選択科目があります。

必修外国語は卒業所要単位です。選択科目の外国語関係科目も、修得すれば卒業所要単位に含めることができ、なるべくあわせて履修することが望まれます。また、他学部公開科目にある総合科目の中にはさまざまな外国語関係科目があり、履修・修得すれば、専門科目としての単位になります。なお、他に、専門科目の関連科目群に含まれる選択科目の国際コミュニケーション語学があります。4群の科目ではありませんが、4群の選択科目の外国語関係科目と、体系的な履修ができるようになっています。

★受講定員のある科目：春学期1回目の授業に出席し、担当教員の受講許可を得てください。選抜を行う場合、方法は教員が指示します。許可された学生のみ履修登録できます。

★春学期のみ、秋学期のみ履修を希望する場合も、必ず春学期の1回目の授業で教員にその旨を申し出て、受講の許可を受けてください。

選抜結果は法政ポータルサイト(Hoppii)内のWeb 掲示板で発表します。

<英語>

市ヶ谷基礎科目の「英語」では、高校までに身につけた運用能力をさらに伸ばすとともに、世界の多様な文化に対する理解を深め、批判的思考能力を涵養します。

<諸外国語>

「諸外国語」は、それぞれの言語を学びながら、それぞれの言語を学びながら、諸外国の歴史・文化・生活に接し、理解を深めることを目的に開講されています。

市ヶ谷基礎科目5群

スポーツ総合演習は、①クラス指定の週1回半期型、②自由に選択履修できる週1回半期型の2つの形式で開講されています。

①は必修科目で、原則学部・学科・所属クラスを単位として履修する授業の学期・曜日・時限が指定されています。②は選択科目で、いずれも学部を問わず履修可能ですが、履修希望者が多数の場合には事前のガイダンスにおいて授業ごとに抽選で履修可能者が決定されます。卒業のためには、上記のいずれかの形式で2単位を修得することが必須となりますが、5群の単位としては①、②の授業を各1回ずつ、計4単位を上限として履修・修得することが認められています。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与することになります。

スポーツ総合演習の詳細については、学部ガイダンスの際に説明します。

市ヶ谷リベラルアーツセンターでは、カリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリーを作成しています。以下から確認することができますので、履修の際には、本冊子、WEB シラバスとあわせて、ぜひ参考にしてください。

URL : <http://www.hoseikyoiku.jp/ilac/index.html>

カリキュラム・マップ	ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目と学習到達目標の相関関係を表で示したもの	
カリキュラム・ツリー	学習目標を達成するために、ILAC 科目／市ヶ谷基礎科目・総合科目がどの分野、年次に担当されているかななどを図で示したもの	

専門科目の履修

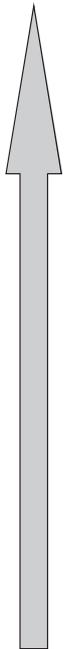
キャリアデザイン学部では、人が生涯にわたってたどる人生の軌跡の総体を「キャリア」として捉え、自己のキャリアを自律的・主体的にデザインするとともに、さまざまなかたちで他者のキャリア形成を支援する能力を身につけていきます。その際、とくにキャリアの設計・再設計をめぐる調査・研究を進めることができる知識・能力の養成を重視すると同時に、講義型科目および体験型科目双方を車の両輪としたカリキュラムを用意しています。こうしたカリキュラムを系統的に履修・学習することによって、自ら社会に働きかけていくことができる人材の育成を目指しているのです。

本学部では、キャリア形成の代表的な場として、(1)発達・教育キャリア領域（教育組織や人の発達など生涯学習社会におけるキャリア形成）、(2)ビジネスキャリア領域（人材育成や組織マネジメントなど産業社会におけるキャリア形成）および(3)ライフキャリア領域（家族や地域コミュニティなど生活に密接した場におけるキャリア形成）という三つの領域を設けています。専門性の高いキャリアデザイン研究を行うためには、基盤となる知識群について広く学際的に学んだ上で、一定の領域に絞って、専門的な知識群を深く学んでいく必要があります。このため、本学部のカリキュラムでは、基盤となる知識群を履修・学習した上で、上記(1)～(3)のいずれかの領域を選択し、当該領域を重点的に学ぶことによって高度な専門性をもった知識を身に付けるように体系づけられています。

科目履修の設計に際しては、卒業後の進路を念頭に置くとともに、学部教育を通じてどのような力をつけたいかを考え、履修計画を立ててください。そのために確認したいことや質問したいことがあれば、キャリアアドバイザーや基礎ゼミの担当教員等に相談して下さい。

本学部のカリキュラムの全体像については、下記の「カリキュラムの全体図」をご覧ください。

4年秋学期	学生研究発表会				
演習科目 2年秋学期～	専門演習(ゼミ 2年秋学期～)・卒業論文(4年) キャリアデザイン学総合演習(4年) ※演習全10単位・卒論4単位				
展開科目 (プログラム科目) 2年春学期～ ※52単位以上 (選択した領域で36単位以上)	教育と社会 現代教育思想 教育社会学Ⅰ・Ⅱ など	産業社会 労働経済学 職業キャリア論 など	多文化・グローバル社会 多文化社会論Ⅰ～Ⅲ 国際関係論Ⅰ・Ⅱ 国際地域研究Ⅰ・Ⅱ など	体験型選択 必修科目 2年春学期～	ベア科目 キャリアサポート実習 キャリア体験学習 キャリア体験学習(国際) 多文化教育Ⅰ・Ⅱ メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ 地域学習支援Ⅰ・Ⅱ(学部認定資格)
	学校教育と地域学習 学校論Ⅰ～Ⅳ 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ など	集団・組織 戦略経営論Ⅰ・Ⅱ 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経営分析論Ⅰ・Ⅱ など	文化マネジメント アート・マネジメント論 ミュージアム概論 など		
	発達と学習 キャリアカウンセリングⅠ～Ⅲ 生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ など	個人・人間 産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ 人材育成論Ⅰ・Ⅱ リーダーシップ論 など	自己・他者・関係 アイデンティティ論 家族論 コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ など	総合科目 2年春学期～	就業機会とキャリア 職業能力ベーシックスキルⅠ・Ⅱ
	外書講読(2クラス)	外書講読(2クラス)	外書講読(2クラス)		
発達・教育キャリア領域	ビジネスキャリア領域	ライフキャリア領域			
基幹科目 1年～ ※20単位以上	キャリアデザイン学入門(2単位 必修) キャリア研究調査法(2単位選択必修):①質的調査 ②量的調査 入門系科目(全24単位中、各自が選択した領域から8単位全て履修する) 発達・教育キャリア入門A～D/ビジネスキャリア入門A～D/ライフキャリア入門A～D 共通基幹科目 キャリアモデル・ケーススタディ 労働法など				
市ヶ谷基礎科目 ※36単位以上	基礎ゼミ(必修) 情報処理演習 必修外国語 等				



関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ◆資格課程科目(教職・図書館司書・博物館学芸員・社会教育主事) ◆日本語教育関係科目 ◆国際コミュニケーション語学 ◆経営学部主権科目 ◆国際文化学部主権科目 ◆人間環境学部主権科目
------	--

自由科目	他学部公開科目 ERP科目 交換留学生学習プログラム・日本入門科目(旧:ESOP科目) グローバル・オープン科目 インターン・ボランティア 短期語学研修
------	--

1 科目の構成

上記の「カリキュラムの全体図」に沿って、具体的カリキュラムの内容について説明していきます。

キャリアデザイン学部の科目は、領域とグレードという二種類の軸に従って配置されています。まず、領域とは、(1)発達・教育キャリア領域、(2)ビジネスキャリア領域、および(3)ライフキャリア領域、という三領域によって構成されます(上記全体図の横軸)。

(1)発達・教育キャリア領域では、人間発達、学校教育および学習社会における基本的な概念や理論を理解すると同時に、多様な現場実習によって、臨牀的・実践的な基礎能力とスキルの向上を目標としています。(2)ビジネスキャリア領域では、働くこと、すなわちワークキャリアについて理解を深め、自らの働き方だけでなく働く場のあり方について、自ら研究を深めていくことを目標とします。(3)ライフキャリア領域では、私たちの生活に密着する家族やコミュニティについて理解を深め、社会の「仕組み」を読み解く視点を育てることを目標としています。この他、三領域に含まれない科目群として「関連科目」があります。これはキャリアに関連した教職や資格等に結びついた科目や生涯学習に必要なスキル(技能)を養成する科目が配置されています。

続いて、グレードは、基礎から応用までの相対的な位置を示します(上記全体図の縦軸)。基礎から応用に向かって、①基幹科目、②展開科目および③演習科目があり、これらの科目とは別に④体験系科目があります。以下、各グレード・領域別に、履修上、留意すべき点について説明します。

2 基幹科目

基幹科目は、本学部における学習目標を実現するため、基礎的・基盤的知識の修得を目指します。

まず、「基礎ゼミ」、「キャリア研究調査法」および「キャリアデザイン学入門」の三科目は必修科目です。これらのうち、「基礎ゼミ」と「キャリア研究調査法」は、少人数のゼミ形式で行われ、大学における学習の基礎的スキルや、キャリア研究調査の方法論をさまざまな演習をまじえて丁寧学ぶ場です。

入門系科目は、(1)発達・教育キャリア領域、(2)ビジネスキャリア領域、(3)ライフキャリア領域に応じて配置してあります。上述のとおり、上級学年に至ると、(1)～(3)のいずれかの領域を重点的に学びますが、その基盤となる知識を修得する科目です。したがって、入門系科目の履修は、上級学年時に、重点的に学びたい領域を想定して行ってください。

共通基幹科目は、(1)～(3)の領域において共通に必要なとされるものです。

3 展開科目

展開科目では、上記基幹科目の知識の上に、各自、三領域のうちのいずれかに重点を置き、専門的な知識を修得していきます。以下では、各領域別に、科目構成の特徴を説明します。

(1) 発達・教育キャリア領域

発達・教育領域は、(a)教育と社会、(b)学校教育と地域学習、(c)発達と学習に分けられます。(a)教育と社会はマクロ的な視点、(b)学校教育と地域学習はメゾ的な視点、(c)発達と学習はミクロ的な視点、に基づく科目を配置しています。

(a) 教育と社会には、「現代教育思想」、「教育社会学Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。人間は真空の世界に生きているわけではありません。社会とのかかわりの中で生きています。これらの科目では、教育や学習における歴史・制度・文化などの影響や諸外国との比較などを扱います。

(b) 学校教育と地域学習には、「学校論Ⅰ～Ⅳ」、「生涯学習論Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。学校や地域といった単位が対象です。学校による違いや地域による違いは、発達や教育を考える上でも重要なテーマとなります。

(c) 発達と学習には、「キャリアカウンセリングⅠ～Ⅲ」、「生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。教員がクラスルームで教える場面や、1対1で相談を行う場面など、相互対面的な単位になります。

(2) ビジネスキャリア領域

ビジネスキャリア領域の科目は、(a)産業社会、(b)集団・組織および(c)個人・人間に分けられます。(a)産業社会はマクロ的な視点、(b)集団・組織はメゾ的な視点、(c)個人・人間はミクロ的な視点、に基づく科目を配置しています。

(a) 産業社会には、「労働経済学」、「職業キャリア論」などの科目があります。社会全体、市場および産業といった単位が対象です。労働市場における需要と供給の関係をはじめ、ワークキャリアを取り巻く社会経済関係

にマクロ的にアプローチします。

- (b) 集団・組織には、「戦略経営論Ⅰ・Ⅱ」、「経営組織論Ⅰ・Ⅱ」、「経営分析論Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。ワークキャリアを形成する場、すなわち企業という単位が対象です。企業はどのような仕組みや論理に基づいて経営されているかなど、ワークキャリアを形成する場である企業の経営について多角的に理解していきます。
- (c) 個人・人間には、「産業・組織心理学Ⅰ・Ⅱ」、「人材育成論Ⅰ・Ⅱ」、「リーダーシップ論」などの科目があります。個人あるいは人間といった単位が対象です。働く人の感情、考え、振る舞いなどに焦点をあてます。ワークキャリアを形成する個人あるいは人間という単位にミクロ的にアプローチしていきます。

(3) ライフキャリア領域

ライフキャリア領域の科目は、(a)多文化・グローバル社会、(b)文化マネジメントおよび(c)自己・他者・関係に分けられます。(a)多文化・グローバル社会はマクロ的な視点、(b)文化マネジメントはメゾ的な視点、(c)自己・他者・関係はミクロ的な視点、に基づく科目を配置しています。

- (a) 多文化・グローバル社会には、「多文化社会論Ⅰ～Ⅲ」、「国際関係論Ⅰ・Ⅱ」、「国際地域研究Ⅰ・Ⅱ」などがあります。より広い範囲で、自己のキャリアと社会がつながりうることを知り、国際交流や文化比較なども視野に入れて学んでいきます。
- (b) 文化マネジメントには、「アート・マネジメント論」、「ミュージアム概論」などの科目があります。文化やアートなどを通して、人びとや地域社会がいかにつながっていくのか、人びとの生活やまちづくりにおいて、文化活動の意味や位置づけはどういったものか、などをテーマとします。
- (c) 自己・他者・関係には、「アイデンティティ論」、「家族論」、「コミュニティ社会論Ⅰ・Ⅱ」などの科目があります。自己が他者や社会とつながることについて、身近なコミュニティや家族などの生活を通して、キャリア形成や自己理解を含めて学びます。

4 演習科目

1年次春学期には、本学部で学ぶための基礎的な能力（アカデミック・スキルの基礎）を修得するための少人数授業として「基礎ゼミ」を設置しています。この授業は、20名程度の人数で、各クラス共通した内容で行います。

1年次秋学期には、「キャリア研究調査法（質的調査）」、「キャリア研究調査法（量的調査）」を設置しています。この科目は、自らデータを収集して分析する能力を養うことを目的としており、2年次秋学期からの「キャリアデザイン学演習」への橋渡しをする科目です。1年次秋学期に「キャリア研究調査法（質的調査）」と「キャリア研究調査法（量的調査）」のいずれかを履修することが必須です。2年次にもう一方を履修することも可能であり、推奨します。

2年次秋学期から4年次秋学期までの「演習」は、学生が自らの専門性向上のために主体的に学び合う、少人数形式の授業です。担当教員により進め方は様々ですが、学生によるプレゼンテーションやディスカッションを中心として行われ、教員は助言や支援、コーディネートなどの役割を担うのが主たる形式です。

1年次の「基礎ゼミ」とは異なり、授業内容は、各担当教員の専門分野に沿った、多様なものとなっています。学生が、自分の関心のある専門領域に関する理解を深め、研究を行うことを目的としています。担当教員により異なりますが、原則として、本学部での学びの集大成として、4年次には卒業研究として卒業論文の提出が求められます。

「演習」は、(1)発達・教育キャリア、(2)ビジネスキャリア、(3)ライフキャリアの三領域に担当教員が配分され、学生自身が希望する担当教員1名を選んで応募する形をとっていますが、少人数形式という科目の特性上、応募者が多い場合には教員による選考により履修者が決定されます。

また、3～4年次の科目として、これまでの学びの集大成として、(1)発達・教育キャリア、(2)ビジネスキャリア、(3)ライフキャリアの三領域を横断してキャリアデザインを研究する「キャリアデザイン学総合演習」を配置しています。キャリアデザイン総合演習の履修は必須ではありませんが、本学部で培った幅広い視野でキャリアデザインを研究する総合性の高い科目として、意欲ある学生の履修を期待しています。

演習 履修決定の手続きとスケジュール（予定）

履修決定は5月～7月にかけて行います。詳細なスケジュールは後日掲示でお知らせします。

5 体験型選択必修科目

卒業要件には、卒業所用単位数を満たすだけでなく、それらの中に「体験型選択必修科目」が4単位以上含まれていることが謳われています。「体験型選択必修科目」は、ほぼすべての科目で教室を離れて人やコミュニティと直接かかわる活動を行います。「事前指導」や「I」を先に履修し単位を取得した後、「実習」や「II」を履修するもので、春学期と夏学期、ペアで履修することが必要です。また、教室外での実習を伴うため、授業に真摯に取り組む態度が求められます。

「体験型選択必修科目」には合わせて六つのペア科目があるので、前掲の「体験型選択必修科目」一覧表で確認してください。以下では、体験型科目の三つについて紹介します

<キャリアサポート事前指導・キャリアサポート実習>

キャリアデザイン学部は自らのキャリアをデザインするとともに、人のキャリアデザインをサポートする能力を養成することを目指しています。そのため、このペア科目では、学内外でさまざまなサポート活動を行いながら、その活動を通じて学ぶという体験を中心にすすめています。そのサポート活動を実際に行うのが「キャリアサポート実習」ですが、そのための意識や知識、スキルなどをしっかりと身に付けるために事前に行うのが「キャリアサポート事前指導」です。

「キャリアサポート事前指導」では、人の話を「聴く」ことからはじめ、他者との円滑なコミュニケーションの方法を学びます。ディスカッションの進行役（ファシリテーター）を経験したり、他者のキャリア形成をサポートするためのプログラムを実際に作成したりします。必要に応じて学期の途中で実習を行うことがあります。

「キャリアサポート事前指導」での学びがあった上で、「キャリアサポート実習」では、実際にさまざまな現場でサポート活動を行います。主に高校に出かけ、高校生たちとともにキャリア教育や進路相談をテーマにしたワークショップを行います。この活動体験の成果はレポートにまとめて提出し、指導教員やキャリアアドバイザーからコメントをもらうほか、成果報告会で発表し、受講学生同士で互いにコメントするなどして振り返りを行います。

キャリアデザイン学部の専門科目には、活動しながら学ぶ授業が多く設けられています。それらに臨むためにも、ぜひこの科目を通じて、必要な力をつけてください。

<キャリア体験事前指導・キャリア体験学習／キャリア体験事前指導（国際）・キャリア体験学習（国際）>

これら2つの体験学習ペア科目は、国内外の一般企業（多種多様な業種）、非営利団体（NPO）、自治体その他の公共機関や各種業界団体等のさまざまな職場において、一定期間に実際の業務を体験すること（インターンシップ）、あるいはそういった機関で活動する人との課題解決学習や協働活動等を通じて、多様な文化や価値観に触れ、仕事に対する感覚や理解を涵養し、自分自身のキャリアデザインの一助とすることを目的としています。

キャリア体験学習は、主に企業における就業体験をメインに行います。企業や団体の現場で実際に働く経験をするインターンシップ型とグループで企業の課題解決に取り組むプロジェクト型の授業があります。インターンシップ型のAコース（実習先を学部で用意する）とBコース（実習先を履修生が自主開拓する）、プロジェクト型のCコース（中小製造業との産学連携活動として実習する）の3つのコースがあります。

キャリア体験学習（国際）では、ベトナム（ホーチミン）、台湾（台北）でのキャリア体験学習を実施します。訪問する国の実情に合わせて、インターンシップだけではなく、文化体験や企業訪問、現地の大学生との協働活動など、多様なかたちでキャリア体験学習を実施します。

実習が中心となるのはもちろんですが、実習先の概要や仕事の中身などについて各自で調べ、学習することも不可欠です。また実習の成果については、公開でプレゼンテーションを行ったり、報告書にまとめて公表したりします。それぞれのクラスの特徴をよく理解したうえで応募してください。

地域学習支援Ⅰ・Ⅱの履修と「地域学習支援士」の認定について

(1) 地域学習支援Ⅰ・Ⅱ

この科目は、現代の地域社会でニーズが高まっている地域学習支援の方法について学び、多様な職業分野で期待されている学習支援者としての専門性を習得することを目的としています。具体的には、地域づくり学習、ユースワーク、多文化理解、コミュニティ・メディア、地域文化創造、フィールドミュージアムなどの学習活動分野のプログラム編成、組織運営マネジメントなどについて理論面と実際面から学び、コーディネーターとして地域社会のネットワークの形成や地域活性化に寄与しうる力量を形成することをめざします。地域学習支援Ⅱでは、それぞれの分野ごとに専門の教員が指導をおこないます。

地域学習支援のマネジメントやコーディネーターの専門性は、国・自治体、公共機関の職員はもとより、地場産業や観光・サービス関連産業の事業経営、一般企業の地域貢献、経済団体連合会や商工会議所などの地域振興事業、自立支援・地域づくり・文化・環境分野などのNPO市民活動、グローバルな交流にとりくむ国際機関・NGO活動などにおいて幅広く求められています。地域学習支援に関わる専門性を身につけて多様な職業分野への就業力を高めるとともに、NPOやボランティア活動などにも参加して、勤労者・市民として社会を担う実質的な知識や行動力を培うことを目的とします。

この科目は学部認定資格「地域学習支援士」資格を取得する場合には必修です。もちろん、資格取得に関係なく、体験型選択必修科目として履修することができます。

(2) 学部独自の認定資格「地域学習支援士」について

別表に示すように、地域学習支援Ⅰ・Ⅱ合わせて4単位と選択必修科目8単位及び選択科目18単位の合計30単位を履修した学生には、4年次の卒業単位認定の時期に、所定の申請手続きを経て、学部から「地域学習支援士」資格取得の認定証が交付されます。この資格の取得を履歴書などに明記することができます。

本学部では教職・社会教育専門職などの国家資格を取得することができますが、地域学習支援士はこれらに加え、より多様な職業分野における新たな現代的、社会的ニーズに対して、「学びを通じて人を支援する」専門性を身につけていることを学部として認定するものです。

別表 地域学習支援士資格認定科目

(2014～2016年度入学者用)

<p>共通必修科目 (4単位)</p>	<p>地域学習支援Ⅰ 地域学習支援Ⅱ</p>
<p>選択必修科目 (8単位)</p>	<p>生涯学習論Ⅲ・Ⅳ (成人教育論Ⅰ・Ⅱ) 学校論Ⅲ (キャリア教育)・Ⅳ (キャリア教育) 多文化教育Ⅰ・Ⅱ キャリアカウンセリングⅠ・Ⅱ メディア教育論Ⅰ・Ⅱ アート・マネジメント論・文化経営論 メディアリテラシー実習Ⅰ・Ⅱ ミュージアム概論 ミュージアム経営論</p>
<p>選択科目 (18単位)</p>	<p>生涯学習論Ⅰ・Ⅱ 社会教育活動Ⅰ・Ⅱ NPO論 ミュージアム教育論 メディア文化論 多文化社会論Ⅲ 情報メディアの活用 ファシリテーション論 図書館情報資源概論・図書館情報資源特論 ミュージアム情報・メディア論 産業文化論 文化マーケティング論 家族論 若者の自立支援 特別活動論 生徒・進路指導論 世代間交流論 職業選択論Ⅰ・Ⅱ アジア社会論Ⅰ・Ⅱ アントレプレナーシップ論Ⅰ・Ⅱ シティズンシップ論</p>

カリキュラム
2014～2016年度入学者用

6 自由科目

「他学部公開科目」「ESOP科目」「ERP科目」「グローバル・オープン科目」「インターン・ボランティア」「短期語学研修」が該当します。卒業までに16単位が上限で自由科目として履修可能です。ただし受講資格と単位認定は以下のとおりそれぞれ異なりますので、履修の際は十分注意してください。また、自由科目として修得した単位は Semester・年間の履修登録上限単位数の対象となります（インターン・ボランティア、短期語学研修は対象外）。

(1) 他学部公開科目

受講資格は2・3・4年次生に限られます。詳細は、Webシラバス（講義概要）を参照してください。

(2) ESOP科目

1年次～4年次まで受講できます。単位認定を受けられるのは2017年度より1年生から可能です。ただし、2016年度以前に1～2年生として受講した授業に対し、さかのぼって単位認定はできません。海外から受け入れた交換留学生用の、日本という国に関わるテーマをとりあげた英語の講義・ゼミです。履修要綱は学部窓口にて配布します。開講科目など詳しくはグローバル教育センター事務部国際交流課(E-mail:ic@hosei.ac.jp、電話番号:03-3264-9402)に問い合わせてください。

(3) ERP科目

1年次～4年次まで受講できます。単位認定を受けられるのは2017年度より1年生から可能です。ただし、2016年度以前に1～2年生として受講した授業に対し、さかのぼって単位認定はできません。英語による少人数(10名～20名)・双方向授業を授業形態として実施されている、英語4技能(listening、speaking、reading、writing)の養成とその統合を目的とした授業です。卒業所要単位として単位修得することを希望する場合、履修登録時に指定すると自由科目として履修できます。履修要綱はグローバル教育センターのホームページで確認してください。開講科目等、詳しくはグローバル教育センター事務部グローバルラーニング課(E-mail:global@hosei.ac.jp、電話番号:03-3264-4088)に問い合わせてください。

(4) グローバル・オープン科目

1年次～4年次まで受講できます。単位認定を受けられるのは2017年度より1年生から可能です。ただし、2016年度以前に1～2年生として受講した授業に対し、さかのぼって単位認定はできません。法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために2016年度から全学で開講されている学部横断型の科目群です。詳細は、グローバル教育センターのホームページで確認してください。

(5) インターン・ボランティア

1年次～4年次まで受講できます。単位認定を受けられるのは2017年度より1年生から可能です。

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」「国際ボランティア」プログラムです。実施されるプログラムは実施期間により異なります。詳細はグローバル教育センターのホームページで確認してください。

(6) 短期語学研修

1年次～4年次まで受講できます。単位認定を受けられるのは2017年度より1年生から可能です。

グローバル教育センターが主催している集中語学研修です。実施されるプログラムは実施期間により異なります。詳細はグローバル教育センターのホームページで確認してください。

キャリアデザイン学部

キャリアデザイン学部からの情報発信方法

授業・時間割に関すること

定期試験

追試験

成績・進級・卒業

卒業論文

スタディ・アブロード (SA) プログラム (2021年度)

他学部公開科目

「会計関連科目」履修上の注意

学部の特徴

オフィスアワーについて

その他

2020年度キャリアデザイン学部専任教員

キャリアデザイン学部からの情報発信方法について

キャリアデザイン学部では以下3つの方法で学部からの情報を発信しています。

1 法政ポータルサイト (Hoppii) (学部web掲示板、学習支援システム)

大学では、日常の学生への連絡は特別な場合を除き法政ポータルサイト (Hoppii) 内のweb掲示板に掲載しています。高校のように担任教員が直接伝達するような制度はありません。休講、授業時間や教室の変更、試験の日時、その他必要な事項の情報へはすべてHoppiiからアクセスできます。見忘れ、見落としによる不利益が生じないよう、毎日必ず確認する習慣を身につけておくことが重要です。

授業・試験等に関する諸連絡について、学部専門科目は学部web掲示板、ILAC科目の0～4群については市ヶ谷リベラルアーツセンター (ILAC) 掲示板、5群の科目については保健体育掲示板で行います。

各授業ごとのお知らせや休講連絡は学習支援システムに表示されます。

学部WEB掲示板や学習支援システムへはHoppiiよりアクセスしてください。

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp>



法政ポータルサイト (Hoppii)

2 キャリアデザイン学部 Webページ

キャリアデザイン学部Webページでは学部主催のイベント案内や学生の学びやゼミ活動の紹介、各種申請書などを掲載します。また夏季・冬季休業中など登校する機会が少ない場合は学事日程などを掲載することもありますので、定期的に確認するようにしてください。

【アクセス方法】

法政大学 (www.hosei.ac.jp) > 在学生の方へ > 学部・大学院からのお知らせ「キャリアデザイン学部」
(2020年4月にリニューアル予定です)

3 Twitter (アカウント : @hosei_cd)

学部公式アカウントです。上記2つの情報を補うためのものです。原則としてTwitterのみに情報を掲載することはありません。

★情報発信の位置づけ

重要度	情報発信方法	確認頻度
↑ 高	法政ポータルサイト (Hoppii) , 学部web掲示板 学習支援システム	必ずチェック
	キャリアデザイン学部 Webページ	定期的にチェック
	Twitter	フォロー推奨

授業・時間割に関すること

1 休講について

授業は担当教員の病気や行事等の特別な理由により休講となることがあります。休講情報は、法政ポータルサイト(Hoppi)から学習支援システムにアクセスすることで確認することができます。**ただし、必ず学期の始めに受けたい授業を学習支援システムに仮登録してください。**登録された授業の休講情報のみが表示されますのでご注意ください。なお、履修登録期間が終了すると、履修登録した内容が自動的に学習支援システムにも反映されます。

また、不可抗力により教員が大学へ連絡できないこともあり、授業開始時間から30分経過して担当教員が出講しない時は休講とします。学習支援システムの休講情報は教員からの連絡にもとづき表示されます。

2 時間割・教室が変更になったら

時間割配付後の時間割記載内容(曜日時限や教室など)の変更は、学習支援システムに表示されます。休講情報と同じく学習支援システムに仮登録または履修登録が完了している科目のみが表示されますのでご注意ください。

3 教室の番号

教室番号は、その教室がどこにあるのかを示しています。4桁の数字の教室はボアソナード・タワーにあります。また、先頭にFの付く教室は富士見坂校舎、Gの付く教室は富士見ゲート、Sの付く教室は外濠校舎、Yの付く教室は大内山校舎にあります。その他情報実習室等の場所は巻末の校舎案内図で確認してください。

(1) ボアソナード・タワー

4桁の数字の先頭の2桁が階数を表しています。例えば1104教室は11階に、0804教室は8階にあります。

(2) 富士見坂校舎、外濠校舎、富士見ゲート、大内山校舎

3桁の数字の先頭の数字が階数を表しています。例えばF 401教室は富士見坂校舎4階に、S 204教室は外濠校舎2階にあります。

定期試験について

1 試験期間

春学期セメスターは7月中旬、秋学期セメスターは1月中旬より定期試験を実施します。日程は掲示します。科目によっては授業時間中の試験・レポート提出・平素の学習状況などで評価し、定期試験に代えることがあります。

2 試験時間割と試験場

- (1) 定期試験の時間割と試験場は、原則として試験開始日の1週間前までに発表します。
- (2) 試験時間割と試験場は通常の授業時間・教室とは異なるので注意してください。

3 受験上の注意

- (1) 履修登録した科目のみ受験できます。
- (2) 必ず指定された教室で受験してください。
- (3) 試験開始から20分経過後は入室を認めず、欠席扱いとします。
- (4) 試験開始20分は、退室できません。
- (5) 受験中は学生証を机の上に提示してください。
- (6) 試験において不正行為を行った者または行おうとした者は規定により処罰されます。
- (7) 答案を提出しないで退室した場合は不正行為とみなします。
- (8) ノート、参考書などの参照および、辞書(電子含む)の使用が許されている場合は、必ず自分のものを使用してください。試験中の貸借は不正行為とみなします。
- (9) 同じ科目が複数回(月曜4限と土曜3限など)に開講されている場合、必ず登録した方で受験してください。

試験等における不正行為の処分基準

1 処分基準

(1) 定期試験（それに相当する授業内試験を含む）における不正行為

不正行為様態	処分内容
<p>①計画性の弱い、または偶発的な不正行為</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 他人の答案の覗き見 b. 問題・答案用紙配布後の話し合い c. 参照可の資料等の貸借 d. 不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない e. 答案の持ち帰り 	<ul style="list-style-type: none"> ○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学 ○当該科目は無効（E評価）
<p>② 計画性が強い、または意図的な不正行為</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 参照不可の試験でカンニングペーパー使用 b. " 机上への書き込み c. " テキスト・ノート等の閲覧 d. 参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用 e. 許可されていない機器（携帯電話・スマートフォン等）の持ち込み、使用。 f. 答案用紙の交換（行為の態様により③の受験依頼に該当） g. 組織的なカンニング行為 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学1カ月以上3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）に加え、原則として当該学期全履修科目の受験を無効（E評価）
<p>③ 受験依頼（いわゆる替え玉受験）</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用） b. 答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学3カ月以上6カ月未満または無期停学 ○当該学期全履修科目の単位を無効（E評価）

※上記③に関し、依頼を受けて受験行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

(2) 論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為

不正行為様態	処分内容
<p>①剽窃（ひょうせつ）行為</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに限定的に流用した 	<ul style="list-style-type: none"> ○厳重注意または譴責
<p>②悪質な剽窃（ひょうせつ）行為</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用した b. 他人と示し合わせ、他人とほぼ同一の内容で課題を作成し提出した c. 他人が作成した論文等を、自己の氏名に書き換えて提 	<ul style="list-style-type: none"> ○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）

出した d. 指導にも関わらず繰り返し剽窃行為を行った	
③代筆依頼 例： a. 論文・レポート等の作成を代行する企業・個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものと して提出した	○停学3カ月以上6カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）
④その他不正行為 例： a. データの捏造（ねつぞう）、改竄（かいざん）。	○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）

※上記③に関し、依頼を受けて代筆行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

（3）授業・試験等の出席に関わる不正行為

不正行為様態	処分内容
①代返行為・虚偽申告 例： a. 他人に依頼し自己の出席報告を行わせた b. 他人から依頼を受け他人の出席報告を行った c. 出席報告書（出席カード等）の偽造により提出した d. 欠席理由に係る証明書類（診断書等）を偽造または虚偽の内容により提出した ※出席報告には、口頭によるもの、出席カード等紙面によるもの、学生証の情報を読み取るもの、各種システムを介して行うもの、いずれも含む。	○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学

（4）不正行為を複数回行った場合

過去、不正行為により処分を受けたことがある者が、在学中に再び前記（1）～（3）のいずれかの不正行為を行った場合には、処分を加重し、基準より重い処分を行うことがある。

2 懲戒処分の発効日

原則として当該学期の定期試験期間最終日の翌日とする。

3 本基準の適用日

2018年4月1日から

以上

期末試験・期末レポート回収日に欠席した場合

本人の病気等、以下のやむを得ない事態により、期末試験(定期試験およびそれに準ずる試験)を受験できなかった場合は、必要書類を持参の上、未受験申請をすることができます。

申請理由によっては未受験資格を得られない場合もありますので、自己判断せず、期末試験を受験できないと判明した時点で、学部窓口へ相談してください。

申請時は、「①履修登録科目確認通知書」と「②必要書類」「③レポート回収日に欠席した場合、申請時に提出予定であったレポート」を持参してください。

【未受験科目の代替措置の申請について】

理由	必要書類	備考	受付期間
電車遅延	遅延証明書	以下の場合は認めない。 ・通学区間外の経路を利用して遅刻した場合 ・遅れた時間以上の遅延証明書がない場合(※1) ・試験開始時刻以降の入室を想定した場合(※1)	試験実施日当日のみ
病気・怪我	診断書(コピー不可・試験当日に登校が不可能である旨がわかる記載が必要)	本人の病気・怪我のみ	当該試験実施日の翌日から1週間以内(翌週の同じ曜日まで)、かつ、 <u>定期試験期間最終日まで</u> 。
忌引き	会葬礼状	親族二親等(両親・兄弟姉妹・祖父母)の通夜・告別式のみ	受付最終日が、窓口業務を行わない日の場合は、その翌窓口開室日まで。
就職活動	氏名・日程等が記載された通知等	採用選考日(面接・筆記試験)のみ(※2)	なお、受付最終日までに手続きができない場合は、学部窓口へ連絡・相談すること。
公務員・教員・資格試験	氏名・日程等が記載された通知等(受験票等)	試験日・訪問日のみ 指定試験合格者奨励金、L・Uキャリアアップ奨励金の該当資格のみ	
体育会	保健体育部発行の「競技参加による欠席願」	体育会所属の学生のみ	
国体・国家代表等	対象学生の名前が記載されている大会の競技日程等		
教育実習、介護実習、資格課程科目の実習参加日程との重複	実習参加証明書	機関名・実習期間・学生所属・氏名が記載されたもの	

※1 例:試験開始から21分遅れたが、20分の遅延証明しかない場合等。

※2 面接・筆記試験以外の場合(または面接・筆記試験で通知等がない場合)、受験企業から採用に直結することの証明を得ること。その場合、学務部指定の就職試験受験証明書を必要書類とする。

成績および進級・卒業発表に関すること

1 成績評価

- (1) 成績評価は、セメスターごとの定期試験または授業内試験、レポート、平素の学習状況などによって行います。
- (2) 評価の基準は次のとおりです（※2019年度より変更）。

成績評価	合格（単位修得）										不合格	
	S	A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	D	E
素点区分	100～90	89～87	86～83	82～80	79～77	76～73	72～70	69～67	66～63	62～60	59～60	未受験・採点不能
GP	4.0	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0	1.7	1.3	1.0	0.7	0	0

2 成績発表

- (1) 春学期および秋学期の所定期間内に「成績通知書」をWeb上で公開します。
- (2) 春学期セメスターの成績は9月中旬にWeb上で発表し、秋学期セメスターの成績は2月下旬～3月上旬に発表します。
- (3) 成績通知書は、次セメスターの履修科目選択の資料となります。

(成績調査)

下記対象に該当し期間内に受付をした場合は成績調査を行います。「履修登録確認通知書」および「成績通知書」を持参のうえ、手続きしてください。

対象となるのは、履修登録した科目にきちんと出席し、シラバス記載の成績評価基準を満たし、授業内容の理解や試験受験（またはレポートなどの課題を果した）をしたにもかかわらず、その評価がE（未受験・採点不能）になっているか、またはD（不合格）で評価に疑問を感じた場合です。

*授業の「教室にいた」、試験を「受けた」、レポートを「出した」だけでは、内容によってはS～C-の評価がつかないことがあります。

*「何点とれたか知りたい」という理由では、調査の対象とはなりません。

*成績調査については、原則として評価変更の有無のみを回答します。

*履修登録をしていない科目は、調査の対象外です。履修登録した科目を「履修登録確認通知書」で確認してください。

受付期間は、web掲示板で確認して下さい。

3 進級および卒業発表

3月上旬～中旬に行います。成績通知書をもって、1～3年生は進級発表、4年生は卒業発表とします。発表方法については、web掲示板を参照してください。

キャリアデザイン学部では、卒業再試験は一切ありません。卒業要件をたとえ1単位でも満たせなかった場合は留級が確定します。計画的な履修を心がけてください。

4 進級再試験について

3年次生で、進級要件に2科目以内（ただし、ILAC科目/市ヶ谷基礎科目のうち4群必修科目に限る）の不足を生じた者について進級再試験を行います。

(1) 受験対象科目

ILAC科目/市ヶ谷基礎科目4群必修（外国語）科目のうち、当該年度において履修登録をしており、D評価を受けた科目のみが対象となります。（E評価は除く）

(2) 受験可能科目数

最大2科目まで

※3年次生は、進級発表日に必ず自分で進級の可否を確認してください。再試験受験の申込みは進級発表当日を含み2日間、本人に限ってキャリアデザイン学部窓口で受付します。詳細は掲示板で発表します。

卒業論文について

4年次生は、原則として演習を履修することを前提に卒業論文を書くことができます。希望する場合は、次の諸注意をよく読んで手続きをしてください。

科目名	卒業論文（演習科目 選択）	期間・単位	通年科目 4単位
-----	---------------	-------	----------

◆履修にあたっての注意

- ・年間科目のため、履修登録は4月のみ可能です。
- ・履修中に休学期間がある場合は、履修が取り消されます。
- ・卒論は審査の上で評価される科目です。単に提出すれば単位を修得できるという安易な気持ちで履修しないようにしてください。特に卒論単位修得の可否で卒業できるかどうかが決まるような履修はお勧めできません。卒業に必要な単位数をよく考えた上で計画的に履修してください。

◆履修登録から成績評価までの流れ

(1) 指導教員の決定	<p>卒論指導教員を決定します。 指導してほしい教員（キャリアデザイン学部専任教員に限る。通常は所属するゼミの指導教員）に面会の上、その教員の許可を受けてください。 <ゼミに所属していない学生> 卒論指導願に卒論テーマ（論題）、テーマ設定理由、執筆計画等の必要事項を記入のうえ指導教員の押印を受けて、期日までに卒論指導願を提出してください。 （提出日、卒論指導願配付場所、提出先は掲示を確認してください。）</p> <p>※共同執筆も認めますが、その場合でも手続きは執筆者ごとに必要になります。 ※論文形式でない「作品」等も認めますが、その場合は、形式や要件について指導教員と相談してください。</p>
(2) 履修登録	各自が許可を受けた指導教員の「卒業論文」科目を履修登録することが必要です。
(3) 卒業論文執筆・指導	執筆計画に従い、随時指導教員の指導を受けながら、卒論を執筆してください。
(4) 卒業論文提出	<p>2020年12月14日（月）～18日（金）17：00（期限厳守） 学部窓口受付時間内に提出してください。遅れた場合は理由のいかんを問わず受け付けられませんのでご注意ください。 ※卒論は正副2部作成し、1部（正）を提出、1部（副）は面接審査時に各自が持参してください。</p>
(5) 面接審査（口頭試問）	指導教員による面接審査（口頭試問）を実施します。 日程等の詳細については、指導教員の指示によります。
(6) 評価	指導教員が卒業論文の評価を行います。評価結果は成績通知書にて通知します。

◆卒業論文の要件

論文枚数	400字詰原稿用紙に換算して50枚以上（20,000字以上） ※共同執筆の場合は、執筆分担を明記し、1人あたりの分担は上記の基準を超えること。
論文の体裁	(1) 提出用の論文1部については、必要事項（論題、学生証番号、クラス、氏名、指導教員名）を記載した所定ファイルに綴じること。 (2) 必要事項（論題、学生証番号、クラス、氏名、指導教員名）を記載した表紙を作成すること。 (3) 指導教員の指示に従って要旨を800字程度で作成し、表紙の次に綴じること。 (4) 要旨の次に目次を設けること。 (5) 論文中に引用した部分や図・表については、必ず出典を明記すること。 (6) ワードプロソフト等で作成する場合は、A4判、左綴じ、横書きとし、文字のポイントは10～12ポイントとすること。1ページは、40字×30行とすること。 (7) 論文の体裁についての詳細は、指導教員に相談すること。
その他	論文形式でない「卒業作品」の場合 ・作品も認めるが、要件は「卒業作品」＋ドキュメント（400字詰原稿用紙に換算して30枚以上）とする。 ・共同の「卒業作品」の場合は、分担を明記し、1人あたりの分担は上記の基準を超えること。 共同研究・共同プロジェクトの場合 ・400字詰原稿用紙に換算して50枚以上（20,000字以上） ※共同執筆の場合は、執筆分担を明記し、1人あたりの分担は上記の基準を超えること。 ・上記の論文枚数および体裁の形式にまとめて提出すること。 論文形式でない「作品」および共同研究・共同プロジェクトの場合は、形式や要件について指導教員とよく相談してください。

◆その他

- ・特に優れた卒論であると評価されたものについて、学部から表彰することがあります。
- ・卒論発表会で優れた評価を得たものは、法政大学キャリアデザイン学会の学会誌に掲載することがあります。

◆提出時のチェック事項

<論文><共同研究・共同プロジェクトの場合>

- 400字詰原稿用紙に換算して50枚以上（20,000字以上）あるか
- A4判、左綴じ、横書きになっているか
- 文字のポイントは10～12ポイント、1ページは、40字×30行となっているか
- 所定ファイルに綴じ、背表紙および前面に必要事項（論題、学生証番号、クラス、氏名、指導教員名など）の記載があるか
- 所定ファイル内の1枚目に必要事項（論題、学生証番号、クラス、氏名、指導教員名）が記載された表紙があるか
- 表紙の次に要旨があるか。要旨の体裁（A4 1枚、40字×20行）は整っているか
- 要旨の次に目次があるか
- 論文中に引用した部分や図・表の出典をすべて明記しているか
- 共同執筆の場合は、執筆分担を明記してあるか
- 共同執筆の場合は、1人あたりの分担は400字詰原稿用紙に換算して50枚以上（20,000字以上）を超えているか

<論文形式でない「作品」の場合>

- 卒業作品＋ドキュメント（400字詰原稿用紙に換算して30枚以上）となっているか
- 共同作成の場合は、各自の分担が明記されているか。1人あたりの分担は上記の基準を超えているか。

以上

スタディ・アブロード（SA）プログラムについて（2021年度参加）

キャリアデザイン学部では、2012年度よりスタディ・アブロード（SA）プログラムを実施しております。集中的に英語を学び、英語によるコミュニケーション能力を向上させるとともに、今後のキャリア形成の礎となる実践的英語スキルの習得を目指します。国際社会でのマナーとルールを身につけると同時に、そのプロセスを通じて国際人としての素養と自覚を高め、将来国際的に活躍するための意欲を培うことを期待しています。

■ SA先大学：

- (1) ニュージーランド オークランド大学
- (2) オーストラリア アデレード大学

■ 期間：各大学とも2021年8月～12月（予定）

■ 人数：各大学5名

■ 単位認定：最大16単位を上限に、学部専門科目（関連科目：スタディ・アブロードⅠ～Ⅳ）として認定を行う

■ SA参加原則：

- ・ キャリアデザイン学部にて在籍し、所定の選考を通過すること
 - ※但し、2012年度以降に入学し、応募時に1～3年次に在籍、SA参加時に2～4年次に在籍していること。編入生は要相談。
- ・ 心身ともに健康で、海外での生活に順応できること
- ・ 事前の英語教育として、SAプログラム実施の2021年度春学期末までに以下11科目の中から4単位以上履修・修得していること
 - ・ ガイダンス（SA先での安全面などの指導）に参加すること
 - ・ 留学中は隔週、報告書を提出すること
 - ・ 帰国後は報告会に参加すること

【SAプログラム 事前英語教育 対象科目】

	2014年度以降入学者 科目名	科目群	単位数
1	Practical English (オーラル・コミュニケーション) A-I	ILAC科目4群 市ヶ谷基礎科目4群	各科目 1単位
2	Practical English (オーラル・コミュニケーション) A-II		
3	Practical English (オーラル・コミュニケーション) B-I		
4	Practical English (オーラル・コミュニケーション) B-II		
5	English for Study Abroad I		
6	English for Study Abroad II		
7	国際コミュニケーション語学（英語Ⅰ）	学部関連科目	
8	国際コミュニケーション語学（英語Ⅱ）		
9	国際コミュニケーション語学（英語Ⅲ）		
10	国際コミュニケーション語学（英語Ⅳ）		
11	国際コミュニケーション語学（英語Ⅴ）		

※入学年度によって科目名が異なります

■概算費用：

SAプログラムの費用は全額個人負担となります。留学中も法政大学での学費は免除となりませんので注意してください。外貨の換算レートにより変動しますが、現地大学での授業料、宿泊費、渡航費、ビザ申請料、保険を合計した概算の費用は下記のとおりです（パスポート申請料、小遣い等は含まれておりません）。費用の詳細は、SAプログラム説明会（9月予定）にてお知らせします。

- ・（ニュージーランド） オークランド大学 約 90～120万円 ※外貨の換算レートにより変動します。
- ・（オーストラリア） アデレード大学 約100～130万円 ※外貨の換算レートにより変動します。

■スケジュール（予定）：

2020年度		2021年度	
9月	SAプログラム説明会	4月	事前英語教育 履修登録
10月	SAプログラム申し込み締切	4月	第1回ガイダンス
11月	選考	7月	第2回ガイダンス
12月	S A参加学生の決定	8月	出国
1月	ELPA英語プレイズメントテストα実践 受験	12月	帰国
1～3月	各種手続き	1月	帰国報告会、 ELPA英語プレイズメントテストα実践 受験

※詳細が決まり次第、キャリアデザイン学部掲示板に掲示します。



他学部公開科目について

2・3・4年生のみ対象

1. 受講資格は原則2・3・4年生に限られます。卒業までに16単位履修可能です。(ただし、卒業所要単位として認められるかは各カリキュラム表を参照してください)。
2. 多摩キャンパス学部の公開科目は、すべて多摩校地での開講となります。交通費は自己負担です。多摩キャンパス学部の公開科目を履修しようとする学生は、通学の所要時間、単位の修得状況を考慮(試験日程がキャリアデザイン学部専門科目やILAC科目/市ヶ谷基礎科目等と重複することもある)のうえ、余裕のある場合に限り登録するようにしてください。

詳細は、Webシラバス(講義概要)および「他学部公開科目時間割」(学部HP掲載)を確認してください。

なお、試験・休講・教室変更等の諸連絡事項については主催学部掲示板を見てください。

<注意>

- ・同名科目の授業が複数開講されている場合は、時間割に記載されている担当者以外の教員が担当する授業は受講できません。
- ・科目によっては定員がある場合があります。定員をオーバーした場合は、第1回目の授業で選抜を実施する可能性があります。
- ・多摩キャンパスの学部およびデザイン工学部は本学部と授業期間が異なることがあります。

「会計関連科目」履修上の注意

— 会計プロフェッションを目指す人たちに —

公認会計士、税理士及び国税専門官等、会計に関する高度な専門知識を核として、専門的キャリアを形成していくことができる職業があります。これらの職業は、「会計プロフェッション」と称され、とくに公認会計士及び税理士は、司法試験と並ぶ、難関国家試験として知られており、当該資格取得を目指す人は、大学入学後、早い段階から、受験勉強に取り組む必要があります。

本学部には、次の会計関連科目が設置されていますが、国家試験を目指す人たちにとっては決して十分ではありません。

● キャリアデザイン学部主催の会計関連科目

企業会計論（簿記と会計Ⅰ）	主に2年生向け
経営分析論Ⅰ・Ⅱ（会計とファイナンスⅠ・Ⅱ）	2年生以上向け

そこで、本学部のカリキュラムでは、主に国家試験志望者を支援するため、次の経営学部主催科目が履修できるようになっています。国家試験志望者以外でも、興味があれば受講可能ですが、次のようにこれらの履修には一定の基礎知識が必要ですので、注意してください。

● 経営学部主催の会計関連科目（選択科目）

科目名	留意事項・内容
財務会計論Ⅰ・Ⅱ	・財務会計及び企業開示の理論と制度
監査論Ⅰ・Ⅱ	・「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」を履修済、または同時履修することが望ましい ・財務諸表監査の理論と制度
税務会計論Ⅰ・Ⅱ	・「財務会計論Ⅰ・Ⅱ」を履修済、または同時履修することが望ましい ・税務会計の理論と制度
管理会計論Ⅰ・Ⅱ	・「原価計算論Ⅰ・Ⅱ」を履修済、または同時履修することが望ましい ・管理会計の理論と方法
原価計算論Ⅰ・Ⅱ	・原価計算の理論と方法
経営分析Ⅰ・Ⅱ	・財務諸表分析を中心とする企業分析の理論と方法

※ 上記全科目とも、履修以前に、「企業会計論（簿記と会計Ⅰ）」（キャリアデザイン学部主催科目）を履修済か、あるいは日本商工会議所簿記検定3級以上の能力をもっている必要がある。

カリキュラム上、これらの科目群は「関連科目」として位置づけられ、正規の科目として単位認定されますが、卒業必要単位数が、「ILAC科目／基礎科目」、「基幹科目」及び「展開科目」等に対して規定されていますので、経営学部主催科目を多くとっても、事実上、その一部が卒業必要単位には算入されない結果になることに留意しておいてください。この点について、詳しくは、この「履修の手引き」の「卒業所要単位」の項をお読みください。

なお、公認会計士及び税理士試験は、最も難関な国家試験の1つですから、大学の講義のみでは不十分というのが実態であり、法政大学では、高度会計人育成センター（HAPP: Hosei Accounting Profession Program）が支援に当たっています。受験希望者はまずは本センター主催の説明会に参加してください。また、大学院に進学すると、一部科目が免除されるなど、いくつかの資格取得方法があります。当該資格取得に関するさまざまな疑問・相談は、本学部教員の中野（Email: tnakano@hosei.ac.jp）まで問い合わせてください。

学部の特徴

教員免許

キャリアデザイン学部では、教育職員免許取得課程の認定を2004年度から受けています。

免許教科は「中学校一種：社会科、高校一種：地理歴史科・公民科・商業科（※2017年度入学者まで）」です。

教職課程に必要な多くの科目が関連科目として配置されており、一定単位数は卒業所要単位数として有効となり、教員免許取得を奨励しています。

また、法政大学の教育学専攻の専任教員のほとんどが本学部に所属しており、教員志望の学生は適切な指導・助言が得られます。詳しくは、「教職課程履修要綱」をご覧ください。

図書館司書・社会教育主事・博物館学芸員等

キャリアデザイン学部では資格に必要な多くの科目が関連科目として配置されており、一定単位数は卒業所要単位として有効となります。資格課程は全学部生を対象にしますが、担当教員が本学部に所属することにより、ゼミや演習などを通じて、よりいっそうの充実した教育を受けることができます。

また、キャリアデザインについての専門性を学ぶ一環のなかで、資格を取得することができます。これらの資格は、いずれも実社会で有効に生かすことが期待されます。本学では、多数の図書館司書・社会教育主事・博物館学芸員を輩出していますが、これからもさらに優秀な人材を育成します。詳しくは、「資格関係科目履修要綱」をご覧ください。

なお、以前に日本語教員養成科目群を履修し単位を修得した学生について、さらに語学出版社（株）アルクのNAFL日本語教師養成プログラムを受講し修了した場合に、本学部長名で「証明書」を発行します。必要な場合は学部窓口で申請してください。

キャリアアドバイザー

キャリアデザイン学部では、学生の皆さんの発言に真剣に耳を傾け、よりよい勉学環境を整備していきたいと考えています。また、授業科目の中に職業選択に役立つ多数の科目を用意しています。しかし、これらの科目の中から自分の興味の方や将来の希望にマッチした科目を選んで履修計画を立てるのは、簡単なことではありません。

そこで、キャリアデザイン学部では、学生の皆さんの勉学上や進路選択上の相談を受けるために「キャリアアドバイザー」という専門職を設け、学部独自にキャリア支援を行っています。キャリアアドバイザーは、アドバイザー間で役割を分担し、教員と学生の間にとって様々な指導・助言を行います。履修や進路などで悩んだり迷ったりしたら、まず「キャリアアドバイザー」に相談してみてください。キャリアアドバイザーはキャリアアドバイザールーム（富士見坂校舎3階）に常駐しています。キャリアアドバイザー制度を積極的に利用してください。相談の予約はメールで行っています。

メールアドレスは、cdadv@hosei.ac.jp です。

キャリア情報ルーム

大内山校舎3階に、キャリアデザイン学部生のためのキャリア情報ルームがあります。ここでは、専門の書籍・雑誌の閲覧やPCの利用をすることが可能です。また、グループでの学習やゼミの打ち合わせのためのスペースも設けられていますので、学生のみなさんが会話をしながら学習をすることもできます。学部生だけが自由に使用できる部屋ですので、積極的に活用してください。開室時間は掲示板で確認できます。

CALS

キャリアデザイン学部生が授業やゼミおよびフィールドワークの準備・整理のために使用することのできるCALSは、ボアソナード・タワー12階にあります。

画像処理ソフトがインストールされているPCやプリンター・リソグラフ（印刷機）などが使用可能です。使用にあたっては授業担当教員の許可を得て、ボアソナード・タワー12階のキャリアデザイン学部資料室にて予約をしてください。

キャリアデザイン学部キャリアアップ奨励金

キャリアデザイン学部キャリアアップ奨励金制度は、学生自らがチャレンジする学習活動のうち、本学部の教育目的に合致し、特に意義があると認められる活動を支援するために設けられた制度です。制度の趣旨をよく理解したうえで、学生のみなさんが積極的に活用することを期待します。

1. 奨励金の種類

本奨励金は次の区分により給付します。

(1) 受講料等の補助

学生が、本学部の教育目的に合致し、特に意義があると判断される教育・研修機関等の講座・コース・プログラム等を修了した場合に、その受講料等の全部または一部を補助します。

(2) 受験料等の補助

学生が、本学部の教育目的に合致し、特に意義があると判断される資格を取得した場合に、その受験料等の全部または一部を補助します。

2. 給付対象講座・資格等

本奨励金の給付対象となる講座・資格等は別に指定（掲示）します。出願にあたってはよく確認してください。

なお、奨励金に応募できる講座・資格等は、入学後に受講開始もしくは資格取得したものに限りません。

3. 出願資格

キャリアデザイン学部在籍生（ただし、休学中の者、当該年度に留級している者は除きます。）

4. 出願手続

募集要項を参照してください。

社会人入学者（1年次入学者）の皆さんへ

既修得単位の認定について

キャリアデザイン学部では、通学や学習時間に制約の多い社会人入学者（社会人特別入試で入学された方）に対して、余裕を持って学習してもらうための措置として、既修得単位の認定制度を設けています。

本学部入学以前に大学・短期大学を卒業している場合、その在籍時に修得した授業科目が本学部で設置している科目に相当すると認められた場合、その単位を本学部の卒業所要単位として最大30単位までの範囲で認定することがあります。またその場合、本学部で履修できる単位数は、最大履修単位数192単位から認定された単位数を差し引いた数となります。

なお、この単位認定制度は入学時に単位認定を希望した方のみ適用されます（追加認定は行いません）。また、単位の認定は、教授会における審査により行いますので、修得された単位が全て認定される訳ではありません。

認定には手続きが必要ですので、入学後に学部掲示板を確認してください。

オフィスアワーについて

オフィスアワーは、担当科目に関する個々の学生の質問や相談などに、教員が個別に応じるために、毎週定例で設定されている時間です。事前の予約は必須ではありませんが、会議等の都合によって対応できないこともありますので、授業前後に直接、あるいはメール等で事前に確認することを推奨します。

■ キャリアデザイン学部専任教員

後掲の教員紹介ページに、オフィスアワーの時間・場所（研究室）が掲載されています。

■ 兼任教員

授業の前後に教室や教授室にて対応します。

<教授室一覧>（授業教室に基づき、場所が異なります）

外濠・富士見坂校舎の教室の場合・・・富士見坂校舎1階 教授室

ボアソナード・タワーの教室の場合・・・B T 5階 教員控室

富士見ゲートの教室の場合・・・・・・・・富士見ゲート2階 教授室

大内山校舎の教室の場合・・・・・・・・大内山校舎3階教授室

その他

1 教授室・研究室について

教授室は富士見坂校舎1階、ボアソナード・タワー5階（教員控室）、富士見ゲート2階、大内山校舎3階にあります。
また、専任教員にはそれぞれに研究室（ボアソナード・タワー、80年館、富士見坂校舎等）があります。

2 教員への連絡について

教員の住所は公開していません。学部窓口では教員との連絡依頼は受付けていません。後掲の教員紹介ページを参照して各自で連絡してください。

3 キャリアデザイン学部担当の窓口取扱い時間（授業期間および定期試験期間）

月～金曜日	9:00～11:30, 12:30～17:00
土曜日	9:00～12:00

※授業期間外は、窓口開設時間が異なる場合があります。詳細は、学部掲示板もしくは大学ホームページで確認してください。

4 【緊急時の連絡先】キャリアデザイン学部担当

電話 03-3264-9341

E-mail jcd@hosei.ac.jp

※学生の皆さんへの連絡は基本的に掲示板により行います。大学に来た際は必ず掲示板を確認してください。

緊急時以外は電話・E-mailによる問合わせには応じられません。窓口にてお問合せください。

5 実習費の使途について

キャリアデザイン学部で毎年徴収する「実習費」は、キャリアデザイン学部の次のような実習系授業およびその他の授業の実習的費用（消耗品、備品等を含む）として使います。

- (1) 新入生オリエンテーションにかかわる費用、資料作成費等
- (2) 基礎ゼミ、基礎演習にかかわる調査実習、資料作成等
- (3) キャリア体験学習、映像実習等の実習系授業にかかわる費用
- (4) 演習、講義にかかわる実習的費用
- (5) 学生用貸出PC等

6 授業を欠席した場合

体調不良や交通機関の遅延などにより授業を欠席した場合は、次回の授業時に担当教員に直接その旨を伝えてください（学部窓口では特別な措置は行いません）。

HOSEI University

市ヶ谷共通項目

I. 学籍	(1)
II. 履修	(11)
III. キャンパス・サポート	(27)
IV. 緊急時対応	(31)
V. その他	(35)

2020 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

I

学 籍

1. 学生証
2. 進級および卒業
3. 休学・退学等
4. 学費
5. 住所等変更
6. 改姓・改名
7. FAQ（よくある質問）

I 学 籍

1. 学生証

(1) 学生証について

本学の学生であることを証明するものです（記載内容は下記写真参照）。学生証は常時携帯し、本学教職員に求められた場合には提示しなければなりません。当該年度の裏面シールを貼付することにより学生証として有効になります。

また、学生証は磁気ストライプカードとなっています。証明書自動発行機、図書館、スタディールームなどの利用には学生証が必要となります。

なお、スマートフォンやスピーカー、磁石留め具、クレジットカードなど強い磁気を発する物に近づけることで磁気が破損されることがありますので保管には十分注意してください。万一、磁気が破損されてしまった場合には再度、磁気データの書き込みを行いますので、学生センターまたは学部事務室に申し出てください。（特にスマートフォンケースと一緒に学生証を携帯し、磁気が破損するケースが散見されています。十分注意してください。）

(2) 裏面シールについて

新生は学期はじめのガイダンスで学生証に貼付して渡します。

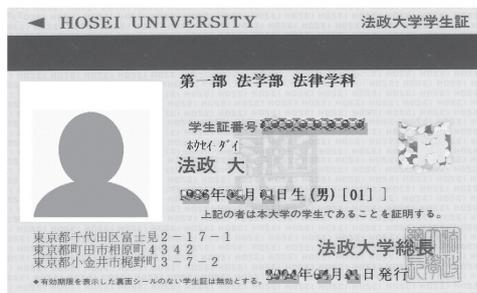
次年度以降、春学期入学生は4月に学費納付書と一緒に新年度の裏面シールを送付します。秋学期入学生は9月に学費納付書と進級後の裏面シールを送付します。新年度の裏面シールは旧年度の裏面シールをはがしてから貼付をしてください。

(3) 学生証・裏面シールの再発行について

学生証（裏面シール部分を含む）を汚損・紛失したときは、直ちに自分の所属する学部窓口に応じ出てください。特に紛失した場合には、悪用による被害を受けないよう、警察にも届け出てください。大学内で紛失した場合は、まず学生センターへ問い合わせてください。

再発行を受けた場合、外濠校舎および富士見坂校舎のスタディールームを引き続き利用するには学生センターにて手続きをする必要があります。

学生証（表面）



学生証（裏面シール）

番号	学籍	
氏名	20 [Redacted]	
有効期限	2019年4月30日まで有効(ただし、4年生は3月31日まで)	
現住所		
通学区画	～	
通学定期券発行控	発行年月日 通用 発行 駅	発行年月日 通用 発行 駅
	法政大学	

再発行が必要なもの	発行手数料	申請方法	再発行日
学生証＋裏面シール	2,000 円	所属学部窓口	申請日の翌日 (裏面シールのみは当日)
学生証のみ	1,800 円		
学生証裏面シールのみ	200 円		

※学生証の紛失・盗難の場合は、警察にも届けてください。

※新年度の学年・クラスが印刷された裏面シールは、春学期入学生は4月上旬、秋学期入学生は9月上旬に郵送される新年度の学費振込依頼書に同封されています（新入生以外）。

※記入欄がいっぱいになった場合の裏面シールの追加発行は学生センターで行っています（無料）。

2. 進級および卒業

(1) 進級

在学年数（年次毎に1年以上）を満たし、必要単位を修得すると、春学期入学生は4月、秋学期入学生は9月に自動的に進級します。

(2) 卒業

在学年数（4年以上）を満たし、必要単位を修得すると3月または9月に卒業となります。春学期入学生の3月卒業、秋学期入学生の9月卒業は手続きの必要無く自動的に卒業となりますが、春学期入学生の9月卒業は、4月末までに申請が必要です。同様に秋学期入学生の3月卒業は、9月末までに申請が必要です。

なお、卒業要件を満たした後での希望留年はできません。

(3) 修業年限および在学年限

本学の修業年限は4カ年です。また、休学期間を除き、大学に8カ年を超えて在学することはできません。春学期に在学し、秋学期に休学、退学および除籍となった場合、あるいは秋学期に復学および復籍した場合や春学期に休学し秋学期に在学した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算します。

なお、2年次転・編入学者は6カ年を超えて、3年次転・編入学者は4カ年を超えて在学することはできません。

3. 休学・退学等

(1) 休学

届出用紙：本学ウェブサイトからダウンロード

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/kyugaku/gakubu.html>

手続き：所属学部窓口

病気その他のやむを得ない事由で、一定期間授業に出席できない学生は休学することができます。休学を希望する学生は、所定の手続きを期限内に行い、許可を得なくてはなりません。

春学期休学・秋学期休学の場合、年間科目の履修が無効となりますのでご注意ください。年間休学は春学期入学生のみ申請可能です。

教職・資格科目を履修している場合は教職・資格担当に、事前に相談・手続きをしてください。奨学金を受けている場合は、学生センター厚生課に必ず相談・手続きをしてください。

①休学願の届け出期限：下表のとおり。

休学希望期間	休学願提出期限
年間	5月31日
春学期	
秋学期	10月31日

※休学願届け出期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の「学部項目」、Web 掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

②休学中に必要な費用：休学在籍料及び諸会費

休学期間	必要な費用	
年間	休学在籍料（10万円）※1	当該年度の諸会費のうち校友会費（4年生のみ）を納入※2
春学期	休学在籍料の2分の1（5万円）※1	当該年度の諸会費を納入（春入学の場合）※2
秋学期	休学在籍料の2分の1（5万円）※1	当該年度の諸会費を納入（秋入学の場合）※2

※1 入学（復学・復籍含む）した当該学期に休学する場合、当該学期の「授業料・実験実習料・教育充実費・諸会費」を納入する必要があります。年間休学の休学在籍料については、入学（復学・復籍含む）した当該学期の納入は不要ですが、次学期は休学在籍料の2分の1（5万円）を納入する必要があります。

※2 諸会費のうち校友会費（3万円）については、4年次に進級した最初の年度の第1期分学費と同時に納入しなければなりません。

③休学期間・回数等：年間休学、春学期・秋学期休学に関わらず、当該年度に限ります。引き続き休学を希望する場合は改めて申請することで休学が可能ですが、連続して2年を超えることはできません。また、通算して4年を超えることもできません。春学期および秋学期休学は、0.5年として計算します。

④休学に関する在学期間：下表のとおり。

休学期間	在学期間
年間	0年
春学期	0.5年（秋学期在学分）
秋学期	0.5年（春学期在学分）

⑤ 4年次での休学：4年次生が春学期休学または秋学期休学をする場合、通算の在学年数が4年以上であり、かつ卒業所要単位を修得済みである（または休学年度において修得済みとなる）場合、当該年度の卒業予定学期終了時に、本人の意思にかかわらず卒業となります。

⑥ 休学明けについて：休学期間から明ける際の手続きは不要です。

⑦ 半期在学した場合の卒業および進級の扱いについて

- a 学位授与の要件である「4カ年以上在学し」「卒業所要単位を修得」（学則第49条1項）には、半期在学者の在学期間（0.5年）およびこの期間に修得した単位の累積を含むものとする。
- b 卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業及び翌年度の進級を認めるものとする。ただし、進級の場合は、学生は各年次で通算して1年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならないものとする。なお進級時期は学年度始め（春学期入学生：4月、秋学期入学生：9月）に限る。
- c 本人の申請により春学期入学生の9月卒業および秋学期入学生の3月卒業を認めることができるものとする。この場合、事前に「9月（3月）卒業申請書」を提出した申請者についてのみ卒業判定を行う。（共通-（3）を参照）
届出用紙：本学ウェブサイトからダウンロード
http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/9_sotsugyo/index.html

【具体的適用例（春学期入学の場合）】

・卒業の場合（いずれも判定時に**卒業所要単位は充たしている**ものとする）

(a) 3.5年での卒業は認められない（通算在学年数は必ず4.0以上であること）

1年次		2年次		3年次		4年次		在学年数 = 3.5年 卒業保留
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	

(b) 4.0年以上の在学年数であれば、半期休学があっても卒業を認める（ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（卒保）		在学年数 = 4.0年 卒業可 3月卒業（ <u>自動的に卒業</u> ）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学		休学		
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		0.5	
						休学			休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5		

(c) 3.5年の在学年数で卒業保留となり、5年目に「9月卒業申請」のある場合（ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない）

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次（卒保）		在学年数＝4.0年 卒業可 9月卒業（申請による）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
						休学				
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5		

(d) 4.0年の在学年数で3→4年に進級し、5年目に「9月卒業申請」のある場合（ただし、4年次留級者でないため、授業料減免の条件を満たさない）

1年次 2年次		2年次		3年次		3年次（留級）		4年次		在学年数＝4.5年 卒業可 9月卒業（申請による）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

・進級の場合（いずれも4月1日の時点で進級に必要な科目・単位数は満たしているものとする）

(a) 累積で進級に必要な在学年数を満たしていれば進級は可

1年次		1年次（留級）		在学年数＝1.0年 1年次から2年次への進級可（自動的に進級）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	休学	休学		
0.5			0.5	

(b) 累積で進級に必要な在学年数を満たしていても、進級は学年度始めに限る

1年次		1年次（留級）		在学年数＝1.5年 2年目の春学期末に進級要件を満たしていても 1年次から2年次への進級は学年度始めに可（自動的に進級）
春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	休学			
0.5		0.5	0.5	

(2) 退学

届出用紙：本学ウェブサイトからダウンロード

<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/taigaku/gakubu.html>

手続き：所属学部窓口

病気その他の事情により退学を希望する学生は、所定の手続きを経て許可を受けなければなりません。奨学金を受けている場合は、学生センター厚生課にも必ず報告してください。

① 退学願には必ず学生証を添付してください。

② 学費の納入状況と退学許可日との関係は次のページの表のとおりです。

当該年度の学費納入	退学日として可能な日	退学願提出期間	当該年度の成績について
関係なく	前年度の3月31日付	5月31日まで	すべて認定されません
春学期分納入済	4月1日～9月14日付	9月15日まで	すべて認定されません
	9月15日付	10月31日まで	春学期科目の成績のみ認定されます
秋学期分納入済	9月16日～3月30日付	3月下旬まで (詳細は窓口にお問い合わせ)	春学期科目の成績のみ認定されます
	3月31日付	合わせください)	すべての成績が認定されます

※一旦納入した学費その他は返還しません。ただし、当年度の学費を納入済みで、上記の退学願提出期限内に秋学期末退学（前年度の3月31日付）及び春学期末退学（9月15日付）を願い出た場合には、各々の退学確定日翌日以降の納入済み学費（授業料・実験実習料・教育充実費）及び諸会費を返還することとします。

※春学期に在学し、秋学期に退学になった場合の在学期間は0.5年です。

※退学願届け出期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の学部項目、Web 掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

（3）除籍

下記の事項に1つでも該当した場合は除籍されます。

- ①授業料その他（学費）を所定の期日までに納入しない者。
- ②学則第13条の在学年限を超えた者。
- ③学則第36条の休学期間を超えた者。
- ④新入生で指定された期限までに履修登録をしない等、本大学において修学する意志がないと認められる者。

（4）復学・復籍

届出用紙：本学ウェブサイトからダウンロード

復学：<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/taigaku/gakubu.html>

復籍：<http://www.hosei.ac.jp/zaigakusei/shinsei/joseki/gakubu.html>

手続き：所属学部窓口

退学願の提出により退学した学生が復学を希望する場合、もしくは除籍となった学生が復籍を希望する場合は、復学願または復籍願を提出し、教授会の許可を得なくてはなりません。（休学者が、休学期間から明ける際の手続きは不要です。）

- ①復学・復籍時期：春学期または秋学期の初め
- ②費用：復学・復籍を許可されたときは、再入学金と復学・復籍する当該年度の学費（春学期または秋学期分）を納入。
※期限までに学費の納入が無い場合は、復学・復籍許可を取り消します。

4. 学費

（1）学費納入

各学年とも学費は下記期限までに納入してください。なお、一旦納入した学費その他は一切返還しません。

春学期入学者学費納入区分	学費振込依頼書送付時期	学費納入期限
春学期（1期）	4月	4月30日
秋学期（2期）	4月 (新入生のみ6月中旬～下旬)	9月30日

秋学期入学者学費納入区分	学費振込依頼書送付時期	学費納入期限
秋学期（1期）	9月	9月30日
春学期（2期）	4月	4月30日

（2）留級者（休学者を含む）

進級できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。

ただし、諸会費については、当該年次の額として定められたものを適用します。

（3）4年次留級者

第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。

ただし、「4年次1年間分の在学」および「4年次分の通常学費を完納」の条件を満たしている場合、未修得単位24単位以下の学生の授業料に限り、該当学生の入学年度に定められたものの半額とします。半額が適用される場合、履修登録できる単位数の上限が制限される場合がありますのでご注意ください。詳しくは所属の学部窓口にお問い合わせください。休学者・途中離籍者・3年次までに留級した学生などは、これに該当しない場合がありますので所属の窓口にお問い合わせをしてください。

諸会費については、当該年次の額として定められたものを適用します。

（4）復学者、復籍者

退学して復学した学生、除籍されて復籍した学生の授業料、実験実習料、および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、再入学金については、10万円を納入してください。また、諸会費については、当該年次の額として定められたものを適用します。

(5) 転部者

転部の場合は転部先の学費が適用されます。

(6) 編入学者、通教からの転籍者

他大学からの編入学者、通教からの転籍者の授業料、実験実習料および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、入学金については、当該年度の定められた金額を納入してください。また、諸会費については、当該年次の額として定められたものを適用します。

(7) 学費の延納制度について

届出用紙：本学ウェブサイトからダウンロード

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/gakuhi/index.html>

手続き：所属学部窓口・学生センター市ヶ谷学生生活課

経済的事由等のやむを得ない事情で、学則の納入期限までに学費の納入が困難な方を支援する制度です。事前に申請することで学費納入期限を所定の期日まで延期できます。学費の延納を希望する場合は、各期の延納受付期間内に「学費延納申請書」を提出してください。

対象：学部生

期	延納期限	延納申請受付期間	学則上の納入期限
春学期	6月30日	4月1日～5月末日まで	4月30日
秋学期	11月30日	9月1日～10月末日まで	9月30日

※学費延納申請書期限日の学部窓口取扱いがない場合は、その前日が期限となります。窓口取扱い時間については、本冊子の学部項目、Web 掲示板、ウェブサイトなどで確認してください。

※延納期限までに学費が納入されなかった場合は、所属学部から学生およびその保証人へ除籍通知が発送されますので予めご承知おきください。

5. 住所等変更

(1) 住所・電話番号・通学区間変更届

手続き・届出用紙の交付：学生センター市ヶ谷学生生活課

本人および保証人の住所・電話番号（携帯電話含む）が正確に届けられていない場合、大学からの重要な諸連絡ができなくなり、自身に不利益な事態が生じることがありますので十分留意してください。

(2) 保証人変更届

手続き・届出用紙の交付：学生センター市ヶ谷学生生活課

保証人の変更を余儀なくされた場合には、あらためて保証人を選定し、学生センターへ届け出てください。

6. 改姓・改名

手続き・届出用紙の交付：所属学部窓口

届け出の際は、所定事項記入のうえ「住民票」を添付してください。

7. FAQ（よくある質問）

問い合わせの多い事例	回 答
学籍	
学生証の磁気がすぐに破損してしまうから、再発行してほしい。	まずは、共通-（2）を参照し、保管方法に注意してください。 それでも、磁気がすぐに破損してしまう場合は所属学部の窓口へ申し出てください。有償で再発行します。
学生証の裏面シールが送られてこない。	4月に学費振込用紙とともに保証人宛に郵送しています。保証人に確認をしてください。もしも紛失した場合は、有償で再発行します。
4年生の春学期で卒業所要単位を修得済だが、春学期の成績通知書には、「卒業見込」と記載されている。この状態で卒業は可能なのか確認したい。	大学を卒業するには、4年以上大学に在学する必要がありますので、現時点では「卒業見込」となります。卒業所要単位を満たしているかという確認は「成績通知書」を持参し、学部窓口で相談してください。
進級・卒業に必要な単位を修得していれば、休学しても大丈夫だと思っていた。	進級・卒業には必要単位の要件もありますが、在学年数の要件もありますので、進級・卒業要件を必ず確認してください。
休学願を2年分提出したい。	一度に2年分の休学願を提出することも可能です。その場合は、休学する年度ごとに休学願を用意し、学部窓口へ提出してください。 万一、休学願を取り下げの場合は、お早めに学部窓口へ申し出てください。

2020 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

Ⅱ

履 修

1. 学年と学期
2. 単位制度と単位修得
3. 授業
4. 教職課程・資格課程
5. 成績
6. GPA 制度
7. 成績優秀者の他学部科目履修制度
8. 他学部公開科目履修制度
9. グローバル・オープン科目
10. グローバル教育センター設置科目・プログラムについて
11. 研究活動の不正行為について
12. FAQ（よくある質問）

Ⅱ 履 修

ここに記載している「履修」に関する内容は、市ヶ谷全学部共通部分のみです。「履修」は、各学部のカリキュラムと密接に関連しています。詳細は本冊子の「学部項目」および Web シラバスに記載してあります。必ず熟読してください。

1. 学年と学期

学年は、春学期と秋学期の 2 期に分かれ、各期の授業期間を 14 週としています。春学期は学則により 4 月 1 日から 9 月 15 日まで、秋学期は 9 月 16 日から 3 月 31 日と定められています。大学では、祝祭日であっても授業を実施する日があります。また、夏季・春季休業期間に特別授業期間を設けて授業を実施することもありますので、授業期間の詳細については、学年暦で確認してください。

2. 単位制度と単位修得

単位制度とは、授業科目を所定の時間学修し、それぞれの授業科目に付与されている単位を修得していくことです。単位の修得は、履修登録をした科目について、所定の授業を受けたうえで、平素の学習状況、筆記試験、レポート、論文等による成績評価の結果、合格した場合に与えられます。修得した単位の合計数が一定の要件を満たした学生に対して卒業が認められます。

大学設置基準には、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする旨が記載されています。各授業科目の単位数は、授業時間の他、授業時間外の自習（予習・復習）時間を持つことを前提に定められています。

3. 授業

(1) 履修登録

履修登録とは、授業を受ける科目について履修の意思表示をすることです。履修登録は所属学部が指定した所定の期間内に手続きを行う必要があります。

実際の履修登録の方法や注意事項については、「学部項目」に記載されていますので、必ず確認してください。なお、履修科目の選択は、卒業要件、進級要件、履修上限単位数等を考慮して、登録後は、情報システムでダウンロードした PDF 「履修登録科目確認通知書」を必ず確認してください。

また、学部 3 年生は履修登録(春学期)の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要です(2 年次に登録済みの場合不要)。詳細はキャリアセンターで確認してください。

(2) 履修上限単位数

履修登録できる単位数の上限は、学部ごとに定められています。詳細は「学部項目」に記載していますので、確認のうえ、履修上限単位数内で履修登録をしてください。

(3) 授業時間（市ヶ谷キャンパス）

第	1	時	限	8：50～10：30
第	2	時	限	10：40～12：20
昼	休	み		12：20～13：00（40分）
第	3	時	限	13：00～14：40
第	4	時	限	15：00～16：40
第	5	時	限	16：50～18：30
第	6	時	限	18：35～20：15
第	7	時	限	20：20～22：00

(4) 卒業要件および進級要件

卒業要件、進級要件は学部ごとに定められています。要件を満たさない場合、進級、卒業は認められません。詳細は本冊子の「学部項目」および共通－（3）に記載されていますので、確認してください。

(5) 休講

授業は、学事日程に従って行われますが、担当教員が公用、校務、出張、学会、病欠等の理由により、授業を行えなくなり、休講となる場合があります。休講については、学習支援システムにて連絡します。学習支援システムについては、大学ウェブサイトもしくは学習支援ハンドブックを参照してください。

※30分を経過しても授業が開始されない場合

不可抗力により教員が大学に休講連絡できない場合があります。授業開始から30分経過して担当教員が出講しない場合は休講となります。ただし、教室変更により別の教室で授業が行われている可能性もありますので、Web 掲示板等をよく確認してから判断してください。

※特別の休講措置について

「大規模地震の発生が予想される時」「大規模地震（震度5以上）が発生したとき」「交通機関のストライキ」「台風など自然災害の際」については、あらかじめ特別の休講措置が決められています（市ヶ谷共通項目【IV. 緊急時対応】参照）。

(6) 補講

補講は、授業の進度や休講を補うために、原則として学事日程に定められた所定の期間に行われます。補講の日時や教室等は、学習支援システムにて連絡しますので、よく確認して受講してください。

(7) 授業の欠席（感染症罹患）

感染症に罹患し、医師の指示に従って授業を欠席した場合は、本人からの申請により欠席が本人の不利益とならないよう、担当教員に配慮を依頼します。対象

となる感染症を確認のうえ、学部窓口で申請してください。

対象となる感染症は、インフルエンザ、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹（三日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（主治医より登校を控えるよう指示された場合）です。詳細については、ウェブサイトの診療所ページ(http://www.hosei.ac.jp/campuslife/kenko_sodan/shinryo/index.html)および学習支援システムの Web 掲示板で確認してください。

特にインフルエンザは、最短でも 5 日の休養、解熱後 2 日は安静を要し、概ね 7 日間は登校できなくなります。その間は、通学はもちろん、サークル活動などの外出も出来ません。不明な点がありましたら学部窓口へご相談ください。また、授業内試験を含み、試験を欠席した場合は、別途、未受験代替申請の手続きが必要です。詳細は、「履修の手引き」の学部項目で確認してください。

4. 教職課程・資格課程

(1) 教職課程

本学では、中学校・高校の一部教科の一種教育職員免許状の取得が可能です。

教員免許を得るためには、まず基礎的な資格として、学士の学位を得る（大学を卒業する）ことが必要です。また、教育職員免許法に定められている所定の科目、単位を修得し、実際に中学・高校の教壇にたつて授業を行う教育実習を行わなくてはなりません。さらに、中学校の教員免許を取得するためには、介護等体験にも臨む必要があります。

教員免許取得可能な教科や、取得に必要とされる科目、単位数、手続きなどの詳細は、「教職課程履修要綱」を参照してください。また、新生で教員免許取得を考えている学生は、4月に行われる教職ガイダンスに必ず出席してください。

<教職課程センター>

ウェブサイト：http://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/index.html

富士見坂校舎 3 階「教職課程センター」は、教職課程を勉強する皆さんの支援のための施設です。教員採用経験者の指導員による相談・指導はもちろん、教育実習のための板書の練習、模擬授業の実施や教員採用試験対策講座に参加することができます。

教職を目指す学生の皆さんは、気軽に利用してください。

教職相談指導の申込み：kkc@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または教職課程センターで直接申し込み（事前申込を優先いたします）

(2) 資格課程

本学では、教職課程以外にも、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員の資格を取得するための課程が設けられています。

これらの資格を取得するために必要とされる科目、単位数、手続きなどの詳細は、「資格関係科目履修要綱」を参照してください。また、これらの資格の取得を考えている学生は、4月に行われる資格ガイダンスに必ず出席してください。

5. 成績

(1) 成績評価（2019年度より適用）

履修した授業科目の単位を修得するためには、試験に合格し単位が認定されなければなりません。授業科目によっては、定期試験ではなく授業期間内に行われる試験やレポート課題、平常点によって評価される場合もあります。

成績評価の定義は下記のとおりです。

S：学習目標を満たし卓越した成績をあげた

A：学習目標を満たし優秀な成績をあげた

B：おおむね学習目標を満たした

C：最低限の学習目標を満たしたが、不十分な点も見られる

D：学習目標を満たしていない

E：未受験、採点不能

各グレード内で特に留意すべき加点・減点がある場合、＋を付加します。ただし、SとDに関しては＋を使用しません。

成績評価基準は「6. GPA 制度」を参照してください。

(2) 成績発表

成績発表は、春学期は9月、秋学期は2月下旬～3月に行います。詳細については、本冊子の「学部項目」およびWeb掲示板で確認してください。

なお、学部2年生は進路希望登録、学部4年生は進路決定報告を、成績発表までにキャリアセンターのシステムへ登録する必要があります。詳細はキャリアセンターで確認してください。

6. GPA 制度

(1) GP(Grade Point)について (2019 年度より適用)

成績評価 S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D の 11 段階と未受験・その他の場合の評価 E に、それぞれグレードポイント (Grade Point) がつきます。11 段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりです。

	合格 (単位修得)					
成績評価	S	A+	A	A-	B+	B
評価基準	100 - 90 点	89 - 87 点	86 - 83 点	82 - 80 点	79 - 77 点	76 - 73 点
GP	4.0	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0

	合格 (単位修得)				不合格	
成績評価	B-	C+	C	C-	D	E
評価基準	72 - 70 点	69 - 67 点	66 - 63 点	62 - 60 点	59 - 0 点	未受験・他
GP	1.7	1.3	1.0	0.7	0.0	0.0

(2) GPA (Grade Point Average) について

履修した科目の成績評価として S から D までの 11 段階評価がつきますが、11 段階評価を 4.0~0.0 までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これが GPA (Grade Point Average) です。GPA の算出方法については次のとおりです。計算値は小数点以下第 3 位を四捨五入して表記します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した各科目の GP} \times \text{その科目の単位数} \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

(3) GPA を表示する書類について

・成績通知書

- ① GPA (春学期・秋学期) : 各学期・セメスターの GPA
- ② 累積 GPA : 直近の学期・セメスターまでを通算した GPA
- ③ GPA (年度内) : 各年度内の GPA
- ④ 同じ学年・所属で上位 25%、50%に位置する学生の GPA

・成績証明書

累積 GPA : 直近の学期・セメスターまでの在学期間を通算した GPA

(4) 履修取消について

未受験その他による E 評価の科目は、GPA 計算式において、GP を 0 点とし

て分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、E 評価が多いほど GPA が低下します。シラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたいうえで、科目登録をしてください。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に手続きすれば、登録を取り消すことができます。履修取消の期限については、履修登録の際に必ず確認してください。

(5) 不合格 (D、E 評価) になった科目の再履修

不合格 (D、E 評価) になった科目も再履修して S~C 評価を修得した場合は、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみを GPA に参入します。結果として GPA は上昇します。2011 年度秋学期より、成績通知書には過去の E 評価はすべて表示されています。

(6) 活用方法

GPA は成績を数値化し、客観的にみるための手段です。セメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1 年次と 2 年次、あるいは 3 年次、4 年次の成績を比較したり、推移を確認したりすることで学習効果を自分で確認することができます。GPA が上がってれば、さらなる学習の展望が拓けます。また、下がってれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA 制度を活用し、自分の学習管理に役立ててください。本学では奨学金の選考基準の一つとして、GPA を活用しています。

(7) GPA に算入されない科目について

教職科目や資格科目など、卒業所要単位以外で履修する科目は GPA には算入されません。RS 評価 (留学による外国大学の修得単位認定)、RR 評価 (他大学などの単位認定) のような単位認定による評価も算入されません。一方、卒業所要単位数を超えて履修した ILAC/市ヶ谷基礎科目・専門科目については算入されます。

この他にもグレード評価には馴染まないと各学部・学科等が判断した科目については「P-F 評価」(Pass (合格) /Fail (不合格)) という形で成績評価をすることがあります。この P-F 評価指定科目についても GPA には算入されません。

7. 成績優秀者の他学部科目履修制度

この制度は、2 年生以上の前年度学業成績優秀者に対して、専攻分野を超えて広い分野での学習機会を提供し、学生のみなさんの勉学意欲の向上を図ることを目的とした制度です。この制度により、従来の公開科目の枠を超えた多様な科目が履修できるようになりますので、学生のみなさんの積極的な活用を望みます。参加学部は全学部学科です。本制度は 2014 年度より導入されました。

<http://www.hoseikyoiku.jp/risyu/index.html>



8. 他学部公開科目履修制度

法政大学では、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材の育成を目指し、多くの学部で、専門教育科目を他学部公開し、卒業所要単位として認定する「公開科目」制度を設けています。500近い科目が公開科目になっており、「英語で行われる授業で集中的に英語力を身につける」、「専門家の講義により仕事の最前線を知る」、「国際化」「まちづくり」など興味のあるテーマについて広く学ぶなど、学部横断的に様々な角度から学習することができます。

(1) 公開科目の概要

公開科目の履修については、以下で内容を確認してください。なお、「成績優秀者の他学部科目履修制度」は公開科目とは別の制度ですので、概要、履修可能科目は、制度該当者に配付する履修の手引きで確認してください。

a. 公開科目実施学部

市ヶ谷キャンパス 法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、
キャリアデザイン学部、GIS（グローバル教養学部）、
デザイン工学部
多摩キャンパス 経済学部、社会学部、現代福祉学部

b. 履修年次

2～4年次とし、かつ当該科目につき主催学部における配当年次以上とします。科目によっては、3年次からの履修の場合もあります。

c. 登録単位の上限と単位の扱い

公開科目の修得単位は卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます。履修できる単位数や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

d. 登録方法

他の科目と同じように履修登録してください。

e. 注意事項

- ・ 開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、主催学部の Web 掲示板に掲載されますので、ご注意ください。
- ・ 他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。
- ・ 他キャンパスの授業を履修するときは、通学時間を考慮して時間割を組んでください。

(2) 公開科目一覧について

本制度にて履修できる科目については、各学部配布の「他学部公開科目時間割」、または Web シラバスにて確認してください。

(Web シラバスでの確認方法)

a. Web シラバスにアクセス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

b. 科目検索画面の公開科目フィールドで「○」を選択

QR コードはこちら (↓) から



(3) 科目別の注意事項

履修できる学部が限定されている等、履修上の注意が必要な科目がありますので、「他学部公開科目時間割」で確認してください。

a. 法学部・文学部・経営学部・国際文化学部所属の学生の履修上の注意

市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目については、公開科目ではなく、総合科目として履修登録をしてください。

b. 人間環境学部・キャリアデザイン学部所属の学生の履修上の注意

人間環境学部・キャリアデザイン学部生のみ履修可能な科目があります。詳しくは、「他学部公開科目時間割」を確認してください。

c. キャリアデザイン学部主催の公開科目履修上の注意

科目により人数制限・選抜を行う場合があります。初回の授業には必ず出席してください。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修が出来ない場合がありますので注意してください。

(4) GIS 主催の公開科目履修上の注意

a. 受講資格

GIS 主催科目はすべて英語で行われますので、以下のいずれかひとつに準ずる英語力が必要となります。

- ・ TOEFL® iBT 80 点以上
- ・ IELTS (Academic Module) band 6.0 以上
- ・ TOEIC® 860 点以上
- ・ 実用英語技能検定 準 1 級以上かつ CSE スコア 2450 点以上

※履修可能年次が、2 年次または 3 年次以上の科目は、より高いスコアが要求される場合があります。

b. 履修上の注意

- ・ 講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。詳しくはシラバスを参照してください。
- ・ 少人数制のため、科目により人数制限・選抜があります。初回の授業には必ず出席し、指示を仰いでください。特に春学期に秋学期科目を履修登録しても、履修ができない場合がありますので注意してください。

(5) 市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目の履修上の注意

2017年度以前に修得した科目によって、履修できない科目があります。詳しくは、「他学部公開科目時間割」を確認してください。科目により人数制限・選抜があります。

春・秋学期科目ともに、4月の春学期授業開始時に担当教員から受講許可を得てください。秋学期科目（B、Ⅱ等）のみを履修する場合も、同名の春学期科目（A、Ⅰ等）の授業開始時（4月）に出席し、受講許可を得てから履修登録を行ってください。

受講許可を得る時には、①春学期と秋学期ともに履修、②春学期のみ履修、③秋学期のみ履修のうち、どのパターンで履修するか、4月の春学期授業開始時に担当教員に申し出てください。

選抜結果については、本学ポータルサイト Hoppii からアクセスできる Web 掲示板で発表します。

法政ポータルサイト（Hoppii）はこちら⇒
Hosei portal to pick up information



9. グローバル・オープン科目

グローバル・オープン科目は、法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために2016年度から全学で開講されている学部横断型の公開科目群です。次のような特長があります。

- ・ すべての科目は英語を教授言語としています。
- ・ 1年次生から履修できる科目があります。
- ・ 多くの科目が少人数で開講されます。
- ・ 一定の単位修得で「修了証」が発行されます。
- ・ 科目は全部で6つの領域に分類されています。

(1) 6つの領域について

◆ 「ビジネス&マネジメント」領域

多様なグローバル・ビジネスの現状に触れ、社会に貢献してゆくための基盤能力を養い、海外進出やグローバルブランド構築を考察する機会を提供します。中級・上級科目を進むに従い、ビジネスモデリングやビジネス実践に関するスキルも学べる、卒業後のキャリア形成に役立つ科目を用意しています。

◆ 「ビジネス&エコノミクス」領域

経済学のコンセプトを用いて、グローバルに展開する企業活動の現状や、国際競争力を持ったビジネスの可能性について考える力を身につけます。世界経済の中の日本について歴史的な視点も入れながら学ぶとともに、ビジネス・コミュニケーションの実践的な基礎、さらに経済学や国際経済の基礎理論とともに世界の地域研究を学びます。

◆「国際関係」領域

国際社会の仕組みや諸問題に対する理解を深めるために、伝統的な国際政治学だけでなく、国際政治経済学や国際法学、外交政策論、政治学、社会学等、様々な視点から学際的研究を行います。

◆「社会と文化」領域

所属学部の専門分野以外にも目をむけ、グローバルリーダーとして活躍する人材に必要とされる知識をより広く学び、異文化理解、文学、歴史、思想、宗教、心理学、言語学などの学びを通して、文化や価値観の相違の認識を培う場を提供しています。

◆「実践英語」領域

学部を越えて、より実践的な英語能力を磨くことのできる場を提供します。少人数で開講される授業を通じて、プレゼンテーションや語彙力の強化をはじめ、英語によるコミュニケーション能力をさらに身につけたい方にお勧めします。

◆「科学・技術」領域

変化の激しいグローバル化に対応し、理工系学部にて在籍する学生が、世界を舞台に活躍できる基礎を築くための科目群を用意し、英語の講義受講によるグローバル体験とともに、横断的に専攻以外の理工学分野の概要を知り、幅広い知識の習得、問題解決能力を涵養することをめざします。

(2) 履修登録方法について

グローバル・オープン科目一覧から、受講希望科目を選択したら、初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。履修登録の際は、各学部の「履修の手引き（履修要項）」で内容を確認し、他の科目と同じように定められた期間内に履修登録してください。

(3) 登録単位の上限と単位の扱いについて

グローバル・オープン科目の修得単位は多くの学部で卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます。単位認定に関する詳細や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要項）」等で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

(4) 履修上の注意

- ・初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。
- ・講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。初

回授業前にシラバスを必ず読んで授業に臨んでください。

- ・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、主催学部等の掲示板に掲載されますので、ご注意ください。
- ・開講校地は、原則として、各科目の主催学部等の所在地となります。特にキャンパスの間違いのないよう留意して計画を立ててください。
- ・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できないなど制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き等で事前に確認してください。
- ・市ヶ谷リベラルアーツセンター主催科目の履修について、法学部・文学部・経営学部・国際文化学部・人間環境学部・キャリアデザイン学部の学生は、単位認定先について必ず本学ポータルサイト **Hoppii** からアクセスできる **Web** 掲示板およびグローバル・オープン科目講義概要（シラバス）を確認してください。
- ・秋学期科目の一部には、春学期に履修登録の意思を教員に表明し、履修許可を予め得る必要のある科目があります。秋学期科目の履修許可を得ないで春学期に登録した場合、履修を取り消される場合がありますので、十分に注意してください。
- ・秋学期が最初のセメスターとなる秋季入学生や交換留学生は、その年度の春学期に履修することが前提となる科目があり、第一セメスターに履修できない場合があります。
- ・一定の英語能力基準が必要な科目がありますので、グローバル・オープン科目一覧で確認してください。

(5) グローバル・オープン科目一覧について

グローバル・オープン科目授業については、**Web** シラバスおよびグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(Web シラバスでの確認方法)

Web シラバスにアクセス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

「グローバル・オープン科目 (Global Open Program)」を選択 もしくは科目検索画面のグローバル・オープン科目フィールドで「○」を選択

* 授業時間・教室については、グローバル教育センターウェブサイトに一覧を掲載しています。

(6) 修了証について

グローバル・オープン科目各領域で 12 単位以上取得した方には、所定の申請により「修了証」が発行されます。修了証の申請は、グローバル教育センター（市ヶ谷）、および多摩・小金井キャンパス G ラウンジ受付窓口にて行います。詳細について、春学期は 5 月、秋学期は 12 月ごろに掲載等でご案内します。

10. グローバル教育センター設置科目・プログラムについて

(1) ERP (English Reinforcement Program/英語強化プログラム)

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環として、英語強化プログラム (English Reinforcement Program:「ERP」) が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。

申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(2) 交換留学生受入れプログラム (ESOP)

本学の国際化の発展に向けて、これまでに交流を深めてきた海外の協定大学から広く交換留学生を受け入れるために開設されたプログラムで、日本の社会・経済・文化などについて全て英語によるゼミ形式で学びます。交換留学生とともに本学の学生も受講でき、多くの学部で単位認定もされます。語学能力を向上させ、国際的センスを磨くためにも有意義で、将来海外留学や海外勤務など国際化社会にはばたくことに役立つでしょう。交換留学生と切磋琢磨し、国際交流の輪を広げることを目的とする学生の積極的な参加を期待しています。単位認定を希望する方は、グローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要ですので、必ず確認してください。

申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(3) 日本語教育プログラム (JLP)

外国籍の方を対象に、2017年4月から新設されたグローバル教育センター主催の日本語や日本文化を学ぶプログラムです。

日本での生活や大学での勉学、交流、そして将来の仕事に活かすことができる日本語力を養成することを教育目標としています。GBP、SCOPE、IGESS、ESOP以外の学生には定員に余裕がある場合、有料にて履修を認める場合があります。受講手続き期間は各学期の授業開始前に設定されています。関心のある方は早めに日本語教育プログラム事務室までお問い合わせください。

<日本語教育プログラム事務室>

新見附校舎 (大学院棟の隣) 2階 TEL: 03-5228-1542

(4) 短期語学研修

夏季休暇中と春季休暇中に、英語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語の語学力の強化のため、2週間から4週間程の短期語学研修を実施しています。研修先は本学の海外協定校に付置された語学研修施設で、語学レベル、GPAなどに関係なく留学が可能であり、初めて海外に行く方にも推奨しています。個人の語学力に応じたレベル別の授業を行っており、初級者から上級者まで語学力の向上を目指すことができます。また、学部によっては、単位認定・卒業所要単位へ

の算入も可能です。

プログラムにより実施時期・期間が異なります。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(5) 国際ボランティア

グローバル教育センターが主催している「国際ボランティア」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中の3週間程度、派遣先で必要としている活動に他国の留学生とともに参加し、直接交流することで、文化や言葉の壁を越えて相互に理解を深めながらコミュニケーション能力を養います。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(6) 国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に、現場に身を置き国際協力や国際的なビジネスに対する理解を深めるため、1週間から4週間程度の「国際インターンシップ」プログラムを実施しています。

海外の企業やNGO団体でのインターンシップを通じて、グローバル環境での働き方や企業文化の違いを学びます。将来的にはグローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげることを目的としています。

プログラムにより派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。

(7) 単位認定について

各学部の定めにより、グローバル教育センター設置科目の受講者に対しては単位が認定される場合があります。認定科目、認定単位数については各学部でご確認ください。なお、「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の単位認定の時期は、プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）に行うこととなりますので、4年生の最終学期については、単位認定ができません。また、「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」については、単位認定の対象とならないプログラムもありますので注意してください。

ERP科目は所属学部の指定する方法での履修申請が必要です。「短期語学研修」「国際ボランティア」、「国際インターンシップ」での単位認定を希望する場合は、事前に指定の方法にて単位認定の希望有無を集約します。なお、グローバル教育センター設置科目の単位認定詳細については「2020年度 グローバル教育センター設置科目 学部別単位認定一覧」をご確認ください。

1 1. 研究活動の不正行為について（卒業論文の作成など）

科学は、信頼を基盤として成り立っています。しかし、残念なことに、データ捏造・改ざんなどの研究不正行為や研究費の不正使用が生じており、報道でもとりあげられています。このままでは、科学に対する信頼が揺らぎかねません。

このような背景から、研究者だけではなく、学生にも研究者倫理に関する知識及び技術を身に付けることが求められています。

※「試験等における不正行為の処分基準」の(2)論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為の不正行為様態にも、盗用に当たる剽窃（ひょうせつ）行為、悪質な剽窃（ひょうせつ）行為、その他の不正行為としてデータの捏造や改ざんが処分を受ける行為として定められています。

代表的な不正行為

（文部科学省が定める「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」において、以下が代表的な不正行為とされています。）

捏造（Fabrication）

存在しないデータ、研究結果等を作成すること

改ざん（Falsification）

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

盗用（Plagiarism）

他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること

本学では「研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」をはじめとする様々な規程やルールを定め、研究活動における不正行為の防止に取り組んでいます。研究活動における不正行為を認識し、研究倫理教育を学習することで、研究者倫理に関する規範意識を身につけてください。

【参考】

- ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」

（平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf

- ・「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」

（独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>

お問い合わせ先 法政大学研究開発センター suisin@adm.hosei.ac.jp

12. FAQ (よくある質問)

問い合わせの多い事例	回 答
履修	
履修許可が必要な科目の初回授業に出席しておらず、履修登録期間内に許可を取るのが難しい。 今から履修することはできるか、また履修登録を延長してもらえないか。	まずは、その科目を担当する教員が他の科目を担当していないか、時間割やシラバスで確認してください。他の科目を担当している場合は、その授業の前後で教員に履修許可をもらえないか相談してください。 履修登録期間の延長は認められません。
教員に履修許可を得たので、履修登録をしなくてもよいと思った。	履修許可を得ただけでは、履修登録したことになりません。自身でWeb履修登録をする必要があります。 また、履修登録期間外の科目の追加は認められません。
学習支援システムに入力したので、履修登録は終わったと思っていた。	法政大学情報ポータルサイトと学習支援システムは別のシステムで連動していません。 学習支援システムでは履修登録はできません。
成績調査の結果次第で、履修内容が変わるため、履修登録期間を延長して欲しい。	学部窓口で相談してください。
履修登録していない授業に出ていた。	単位の修得は、履修登録した科目のみ可能です。履修登録をしていない科目の単位修得はできません。 また、履修登録期間外の科目の追加は認められません。
履修登録科目確認通知書に記載の科目と学習支援システムに登録した科目が一致しないが、どちらが正しいのか。	情報ポータルサイトの登録科目が正規の履修登録科目です。履修登録した科目については必ず、「履修登録科目確認通知書」を印刷、確認してください。確認後も履修年度中は大切に保管してください。なお、学部窓口では、履修および成績についての相談を受け付けていますが、あくまで相談であり、進級および卒業を保証するものではありません。履修および成績については、必ず自分自身で責任をもって確認するようにしてください。
「English」の習熟度別クラスについていけないので、クラスを変更したい。	英語能力の測定テストに基づき、クラスを決定しています。クラス変更はできません。
第二外国語を変更したい。	入学時に選択した諸外国語を変更することはできません。
2年次英語・諸外国語選択希望登録を忘れていた。	指定された期間に回答しなかった場合には、自動的にパターンAまたはパターンBが割り振られます。

2020 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

Ⅲ

キャンパス・サポート

1. ポータルサイト (Hoppii)
2. 窓口の名称・場所・取扱事項
(市ヶ谷キャンパス)
3. 各種証明書の発行

III キャンパス・サポート

1. ポータルサイト (Hoppii)

法政ポータルサイト (Hoppii) はこちら⇒ <https://hoppii.hosei.ac.jp>
Hosei portal to pick up information



法政大学では、ポータルサイトから各種システムへアクセスできます。

各種システム (一部)

- 学習支援システム
- Web 掲示板
- 情報システム (履修・成績)
- オンデマンドシステム
- Web シラバス
- 学習支援ハンドブック



使い方の詳細については、学習支援ハンドブックをご確認ください。
(<https://www.hoseikoiku.jp/fd/handbook>)



2. 窓口の名称・場所・取扱事項 (市ヶ谷キャンパス)

学生手帳を参照してください。学生手帳はガイダンス等で配布しています。

3. 各種証明書の発行

(1) 和文（日本語）証明書

証明書の種類と名称	発行手数料	申請方法	発行までの日数 (目安)	備考
在学証明書	200 円	証明書自動発行機	即日	厳封の必要がある場合は発行後、学部窓口を持参すること。
成績証明書				
卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
成績・卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
卒業証明書予約票 成績・卒業証明書予約票 (卒業予定者のみ)				
履修登録科目証明書				
単位修得見込証明書 (資格用)	200 円	所属学部窓口	1 週間程度	厳封の必要がある場合は窓口で申請時に申し出ること。
単位修得証明書 (資格用)				
教育職員免許状取得見込証明書				
学力に関する証明書 (教職用)				
人物に関する証明書 (教職用)				
健康診断証明書 (最終学年)	200 円	証明書自動発行機	即日	健康診断を受診した学生のみ発行 (注)
健康診断証明書 (最終学年以外)		診療所窓口	診療所窓口にお問い合わせください	
調査書 (大学院進学用)	600 円	所属学部窓口	窓口にお問い合わせください	志願先の指定書式をご用意ください
学校学生生徒旅客運賃割引証 (学割証)	無料	証明書自動発行機	即日	
通学証明書 (バス)		学生センター		

(注) 大学での健康診断 (年度初めに実施) は必ず受診してください。受診していないと体育実技の登録、奨学金の申請、就職活動などで必要な健康診断書が発行できません。

(2) 英文証明書

証明書の種類と名称	発行手数料	申請方法	発行までの日数 (目安)	備考
<英文>在学証明書	200 円	証明書自動発行機	即日	厳封の必要がある場合は発行後、学部窓口を持参すること。
<英文>成績証明書				
<英文>卒業見込証明書 (最終学年のみ)				
<英文>成績・卒業見込証明書 (最終学年のみ)				

※ここに取り上げたものは、現在在学中の皆さんが取得できる証明書の種類とその申請方法です。卒業等で大学を離れてからの請求はこれとは異なりますので、法政大学ウェブサイトを参照してください。

※証明書自動発行機、各窓口の対応時間は季節により異なりますので、事前にウェブサイトを確認してください。

※卒業時における卒業証明書、成績・卒業証明書の申請は、卒業式当日の窓口の混乱を避けるためこれとは異なります。詳細は掲示等でお知らせしますので、見落としのないように留意してください。

※窓口申請する証明書の発行日数はあくまで目安です。申請時（または申請前）に必ず所要日数を確認してください。証明書の種類および申請時期により、申請から発行まで1週間以上要する場合がありますので、余裕をもって申し込んでください。

※証明書の作成にあたり、指定の用紙がある場合は持参してください。特に指定がない場合は、大学の様式で作成します。どちらの場合も料金は同一です。

2020年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

IV

緊急時対応

1. 大規模地震の発生が予想される時
2. 大規模地震（震度5弱以上）が発生したとき
3. 交通機関のストライキによる休講措置について
4. 台風など自然災害の際の休講措置について

IV 緊急時対応

1. 大規模地震の発生が予想される時

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想される時に、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が召集され、状況によって「警戒宣言」が発令されます。

本学では、大規模地震の発生が予知される時には、前記「判定会」が召集された段階で、次のような措置をとることになっているので、心得ておいてください。

(1) 「地震防災対策強化地域判定会」が召集されたことを確認できた時点で(テレビ、ラジオ等によって)休講とします。したがって次のように行動してください。

- a 在宅中のときは、そこにとどまってください。
- b 通学途中、または帰宅途中のときは、直ちに帰宅してください。
- c 在校中のときは、大学からの連絡、指示により直ちに帰宅してください。

(2) 警戒宣言が解除されたとき、または判定会が解散されたときは、休講を解いて平常授業を行います。授業再開については、後述する交通機関のストライキの場合に準じます。

※以上の措置は、地震発生の際の被害を極力減らすためのものですので、学生の皆様のご協力をお願いします。

2. 大規模地震(震度5弱以上)が発生したとき

本学は震度5弱以上の地震が発生した場合、授業およびすべての業務・イベントを中止します。

(1) 構内にいる場合には、教職員の指示に従ってください。

(2) 大学からの情報は、すべて大学公式ウェブサイト(<http://www.hosei.ac.jp>)に掲載されます。その指示に従い、大学への安否等の連絡を適宜行ってください。

(3) お知らせ配信
情報システムで「メール配信設定」を行い、スマートフォン等で大学からのお知らせを受信できるようにしておきましょう。

(4) Twitter (@hosei_pr) の活用
必要に応じ、活用してください。

(5) 大地震対応マニュアル

全学生に配布しています。必要な方は所属する学部窓口でお受け取りください。

3. 交通機関のストライキによる休講措置について

大学からの最新情報は、すべて大学公式ウェブサイト (<http://www.hosei.ac.jp>) もしくは法政大学広報課Twitter(@hosei_pr)に掲載されます。

<市ヶ谷地区>

JRのストライキにより電車が運行されないときは、原則として下記により授業を休講します。

- (1) 午前6時までにストライキが解除されないとき、1・2時限の授業を休講します。
- (2) 午前10時までにストライキが解除されないとき、1～5時限の授業を休講します。
- (3) 正午までにストライキが解除されないとき、すべての授業を休講します。

4. 台風など自然災害の際の休講措置について

法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。

- (1) 天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り周知します。
 - a 1・2時限の授業について、当日 6:00 までに「法政大学広報課公式ツイッター」に休講措置の有無を掲載します。
 - b 3～5時限の授業について、当日 10:00 までに「法政大学広報課公式ツイッター」休講措置の有無を掲載します。
 - c 6・7時限の授業について、当日 15:00 までに「法政大学広報課公式ツイッター」に休講措置の有無を掲載します。
- (2) 事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を「法政大学広報課公式ツイッター」に掲載し、学生・教職員に周知をします。
- (3) 上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日 17:00 までに翌日の授業休講を決定し、「法政大学広報課公式ツイッター」に掲載することがあります。
- (4) 上記の内容は必要に応じて大学公式ホームページにも掲載いたします。

2020 年度履修の手引き

市ヶ谷共通項目

V

その他

1. 転籍・転部・転科試験について
2. 継続学士入学試験について
3. 大学院進学について
4. FAQ（よくある質問）

V その他

1. 転籍・転部・転科試験について

(1) 転籍・転部・転科とは

- ① 転籍 学部の間を問わず、通信教育課程の学生が通学課程へ又は、通学課程の学生が通信教育課程へ移ること。
- ② 転部 学生が他の学部へ移ること。
- ③ 転科 学生が現在在籍している同学部内の他の学科へ移ること。

(2) 出願方法

- ① 募集対象学年等の試験の詳細についてはウェブサイト(下記)に掲載の「転籍、転部、転科試験要項」にて確認してください(転籍・転部・転科の出願に必要な書式は学部窓口で9月から配布を開始します。編入学試験のものとは異なります)。受験した入学試験によって、転部・転科ができないなどの制限があります。詳細は試験要項で確認してください。

ウェブサイト：<http://nyushi.hosei.ac.jp/nyushi/hennyu>

(3) 通信教育部への転籍について

期日までに申し出願し、選考の許可を受ければ、本学を離籍することなく通信教育課程に転籍することができます。

通信教育課程の各学部には、毎年度、通学課程より約20名程度が転籍しています。

転籍の条件、転籍先の学部学科等については、「転籍要項」を参照してください。

12月中旬から翌年10月中旬まで、通信教育部窓口(大内山校舎3階)で入学案内冊子および出願に必要な書類一式を同封した「転籍要項」を配布します。多摩・小金井キャンパス所属学部の転籍希望者は学部窓口でも「転籍要項」を入手することができます。「転籍要項」は無料です。

参考：通信教育部ウェブサイト

- ・通信教育部について
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/>
- ・通信教育部の学部・学科・教職課程
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/>
- ・通信教育部の学習方法
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/>
- ・学習環境・サポート制度
<http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/>
- ・法政大学通信教育部 Facebook
<https://www.facebook.com/hosei.correspondence>
- ・法政大学通信教育部 Twitter
https://twitter.com/hosei_correspo

お問い合わせ先

通信教育部窓口(市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 3階)

平日 9:00-17:00 土日祝日閉室

TEL 03-3264-6370

通信教育部ウェブサイト <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/>

2. 継続学士入学試験について

(1) 継続学士とは

当該年度3月に本学を卒業する者が、引き続き次年度4月から、本学の他学部もしくは他学科に継続して入学すること。

(2) 出願方法

当該年度3月に卒業見込みの場合に志願することができます。試験日は12月です。詳細については要項で確認してください。

継続学士入学試験の出願に必要な書式は各所属の窓口で9月から配布を開始します(編入学試験のものとは異なるので注意してください)。

3. 大学院進学について

(1) 法政大学大学院(市ヶ谷・多摩・小金井キャンパス)

受験希望者は各研究科の事務担当に詳細を問い合わせてください。

なお、入試概要・入試要項はウェブサイトからも参照できます。

・法政大学大学院ウェブサイト <http://www.hosei.ac.jp/gs/>

・各研究科担当の問い合わせ先

<http://www.hosei.ac.jp/gs/nyushi/toiawase/toiawase.html>

(2) 法政大学専門職大学院

受験希望者は各専門職大学院に詳細を問い合わせてください。
なお、入試概要・入試要項はウェブサイトからも参照できます。

- ・法務研究科 <http://hosei-law.cc-town.net/>
- ・イノベーション・マネジメント研究科 <http://www.im.i.hosei.ac.jp/>

(3) 他大学の大学院受験の場合

各自で志望する大学へ問い合わせ出願してください。

4. FAQ (よくある質問)

問い合わせの多い事例	回 答
授業	
台風が接近しているが、明日の授業はあるのか。	1・2時限の授業については、当日の6:00までに大学広報課公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。3~5時限の授業については、当日の10:00までに大学広報課公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。6・7時限の授業については、当日15:00までに大学広報課公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。
体調不良で授業を休みたいので、教員に連絡してほしい。	学部窓口では、欠席証明書の発行や教員への欠席連絡は行っていません。 授業時間内もしくはその前後に教員に直接説明するようにしてください。 ただし、定期試験やそれに準ずる試験の場合には、追試験を受けられる可能性がありますので、学部窓口にご相談してください。
公欠、忌引、病気（軽度の）によって授業を欠席する場合は、どのようにしたらよいか	授業時間内もしくはその前後に教員に直接説明するようにしてください。 ただし、定期試験やそれに準ずる試験の場合には、追試験を受けられる可能性がありますので、学部窓口にご相談してください。
祝日に授業をするのは止めてほしい。	大学が学生に単位を付与するにあたっては、定められた授業時間を確保しなければなりません。 授業時間数を確保するために、祝日にも授業を実施する必要があります。
試験・成績	
第二体育会の公欠願は未受験代替措置の対象にならないか。	未受験代替措置の対象となりません。
帰省中（海外留学生）、留学中のため、成績調査期間に窓口に行くことができないが、成績調査を受け付けて欲しい。	事前に成績調査期間を周知したうえで、窓口で本人確認をし受け付けているため、窓口に来られない場合は受け付けられません。 ※SA参加者のみメールで対応しています
その他	
教員の連絡先を教えてください。	各学部の対応は下記のとおりです。連絡先を公開している場合、連絡先は履修の手引き(人間環境学部はホームページ)に掲載しています。 法学部： オフィスアワーを活用してください。 文学部： 専任教員のみ公開 経営学部： オフィスアワーを活用してください。 国際文化学部： 専任教員のみ公開。その他は、オフィスアワーを活用してください。 人間環境学部： 専任教員のみ公開 キャリアデザイン学部： 専任教員のみ GIS： Office hour ページを確認してください。

HOSEI University

参考資料

- I. 学則 (1)
- II. 法政大学憲章 (24)
- III. 法政大学ダイバーシティ宣言 (25)
- IV. 校舎案内図・施設一覧 (26)

第1章 総 則

(目的)

第1条 本大学は民主主義の精神に基づき、栄誉ある学芸の殿堂としてひろく世界の文化を摂取し、知識の深奥を究め、もって真理と平和とを愛し、公共の福祉に献身する教養ある社会人を育成することを目的とする。

2 学部学科ごとの人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的を別表(11)の通り定める。

(教育研究活動等の情報の公表)

第1条の2 本大学は、法令に基づき、教育研究活動等の状況についての情報を積極的に公表する。

(学部等)

第2条 本大学に法学部、文学部、経済学部、社会学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、情報科学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部、グローバル教養学部及びスポーツ健康学部を置く。

2 本大学に教育開発支援機構を置く。但し、教育開発支援機構については別に定める。

3 本大学にグローバル教育センターを置く。但し、グローバル教育センターについては別に定める。

(学科及び入学定員等)

第3条 本大学の学部に次の学科を置く。

法学部	法律学科、政治学科、国際政治学科
文学部	哲学科、日本文学科、英文学科、史学科、地理学科、心理学科
経済学部	経済学科、国際経済学科、現代ビジネス学科
社会学部	社会政策科学科、社会学科、メディア社会学科
経営学部	経営学科、経営戦略学科、市場経営学科
国際文化学部	国際文化学科
人間環境学部	人間環境学科
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科、臨床心理学科
情報科学部	コンピュータ科学科、デジタルメディア学科
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科
デザイン工学部	建築学科、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科
理工学部	機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科、経営システム工学科、創生科学科
生命科学部	生命機能学科、環境応用化学科、応用植物科学科
グローバル教養学部	グローバル教養学科
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科

2 文学部日本文学科、人間環境学部及びキャリアデザイン学部は昼夜開講制とする。

3 本大学の学部にスポーツ・サイエンス・インスティテュート（以下SSIという。）を置く。

4 (削除)

5 法学部，文学部，経済学部に通信教育課程を置き，通信教育部と称する。但し，通信教育部に関する学則は別に定める。

6 本大学の学生定員は，次の通りとする。

学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
		3年次	
法学部	804		3,216
法律学科	483		1,932
政治学科	172		688
国際政治学科	149		596
文学部	655		2,620
哲学科	77		308
日本文学科	187		748
英文学科	126		504
史学科	100		400
地理学科	99		396
心理学科	66		264
経済学部	876		3,504
経済学科	482		1,928
国際経済学科	244		976
現代ビジネス学科	150		600
社会学部	742		2,968
社会政策科学科	216		864
社会学科	316		1,264
メディア社会学科	210		840
経営学部	761		3,044
経営学科	316		1,264
経営戦略学科	232		928
市場経営学科	213		852
国際文化学部	249		996
国際文化学科	249		996
人間環境学部	333		1,332
人間環境学科	333		1,332
現代福祉学部	231		924
福祉コミュニティ学科	147		588
臨床心理学科	84		336

情報科学部	156		624
コンピュータ科学科	78		312
デジタルメディア学科	78		312
キャリアデザイン学部	294		1,176
キャリアデザイン学科	294		1,176
デザイン工学部	292		1,168
建築学科	132		528
都市環境デザイン工学科	80		320
システムデザイン学科	80		320
理工学部	553		2,212
機械工学科	143		572
電気電子工学科	110		440
応用情報工学科	110		440
経営システム工学科	80		320
創生科学科	110		440
生命科学部	230		920
生命機能学科	72		288
環境応用化学科	80		320
応用植物科学科	78		312
グローバル教養学部	100		400
グローバル教養学科	100		400
スポーツ健康学部	165		660
スポーツ健康学科	165		660
計	6,441		25,764

(大学院及び専門職大学院)

第4条 本大学に大学院及び専門職大学院を置く。但し、大学院及び専門職大学院に関する学則は別に定める。

(図書館及び教育研究施設)

第5条 本大学に図書館、研究室、研究所及び他の附属施設を置く。但し、これらに関する規程は別に定める。

第2章 職員組織

(総長)

第6条 本大学に総長を置く。

2 総長は、校務を掌り所属職員を統督する。

(学部長)

第7条 本大学の学部に学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務を掌る。

3 (削除)

(教職員)

第8条 本大学に教授、准教授、講師、助教、助手及びその他の職員を置く。但し、職員に関する規程は、別に定める。

(教授会の設置)

第9条 本大学に教授会を置く。

2 教授会は、学部ごとに、その所属する教授及び准教授をもって組織する。但し、学部の定めるところにより、専任講師、助教を加えることができる。

3 教授会に関する事項は、別に定める。

(教授会)

第10条 教授会は学部長が必要と認めたとき、又は教授会構成員の3分の1以上の要求があったとき、学部長がこれを招集し、3分の2以上の出席をもって成立する。

2 教授会の議長は学部長とし、学部長に差支えがあるときは教授会の指名する教授がこれを代行する。

3 教授会は、次の事項を審議する。

(1) 学生の入学（転入学及び編入学含む）、卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 学部長の互選

(4) 教員の人事に関する事項

(5) 教育課程及び授業科目の編成に関する事項

(6) 授業科目その他の担当者に関する事項

(7) 入学試験に関する事項

(8) 授業科目試験に関する事項

(9) 学生の賞罰に関する事項

(10) 学籍に関する事項

(11) 名誉教授の推薦に関する事項

(12) 教授中より学校法人の役員の推薦に関する事項

(13) その他、総長が必要と認める事項

4 教授会は、前項に規定するもののほか、総長及び学部長が掌る教育研究に関する事項について審議し、及び総長の求めに応じ、意見を述べることができる。

5 第3項第10号により、教授会の審議を要する学籍に関する事項は、学生の進級、留級、転部、転科、転専修、通教転籍、退学、除籍、復学、復籍、休学及び留学とする。なお、学籍の取扱については別に定める。

(学部長会議)

第11条 総長は、各学部の共通事項を審議するため学部長会議を招集する。

2 学部長会議に関する事項は、別に定める。

第12条 (削除)

2 (削除)

3 (削除)

第3章 学 部

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限及び在学年限)

第13条 本大学の修業年限は、4ヵ年とする。但し、学生は休学期間を除き、本大学に8ヵ年を超えて在学することはできない。

2 春学期在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合、あるいは秋学期に復学及び復籍した場合、また、春学期に休学し、秋学期に在学した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算する。

3 第31条及び第32条によって入学した者は、該当修業年限の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第2節 教 育 課 程

(教育課程及び授業科目)

第14条 学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 学部、学科の授業科目は、第17条及び第17条の2に掲げる科目に分け、これを4ヵ年に配当して授業を実施する。

(英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程)

第14条の2 本大学の次の学部に英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程を置く。

経営学部経営学科グローバルビジネスプログラム (以下、GBPという。)

人間環境学部人間環境学科持続可能社会共創プログラム (以下、SCOPEという。)

経済学部経済学科グローバル経済学・社会科学インスティテュート (以下、IGESSという。)

(社会人のための教育課程)

第14条の3 本大学の次の学部に社会人のための教育課程を置く。

人間環境学部人間環境学科リフレッシュ・ステージ・プログラム (以下、RSPという。)

(授業科目及び単位数)

第15条 第14条に掲げる授業科目及び単位数は、別表(1)の通り定める。

(総合科目)

第15条の2 別表(1)に掲げる総合科目は、専門教育科目の卒業所要単位に充てることができる。この場合の授業科目及び単位数は別に定める。

第16条 (削除)

(卒業所要単位)

第17条 法学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

専門教育科目 88単位以上

1-2 (削除)

2 文学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

専門教育科目 88単位以上

3-1 経営学部の卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 44単位以上

連環科目 4単位以上20単位以下

専門教育科目 68単位以上

3-2 経営学部G B Pの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、連環科目については、20単位まで卒業所要単位として認める。

基礎科目 36単位以上

連環科目 20単位以下

専門教育科目 68単位以上

4 国際文化学部の卒業所要単位は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、学部専門科目と自由科目を合計して86単位以上修得しなければならない。

基礎科目 46単位以上

学部専門科目 66単位以上

自由科目 20単位以下

5-1 人間環境学部の卒業所要単位数は130単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 40単位以上

リテラシー科目 6単位以上

展開科目 84単位以上

5-2 人間環境学部S C O P Eの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 31単位以上

展開科目 40単位以上

5-3 人間環境学部R S Pの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目 36単位以上

展開科目 88単位以上

6 キャリアデザイン学部の卒業所要単位は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	36単位以上
基幹科目	20単位以上
	(但し、「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」から選択した一つの領域で6単位以上)
展開科目	52単位以上
	(但し、基幹科目で選択した領域と同様の領域で36単位以上)

7-1 経済学部経済学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	12単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	26単位以上
専門教育科目	76単位以上

7-2 経済学部国際経済学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	20単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	24単位以上
専門教育科目	70単位以上

7-3 経済学部現代ビジネス学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、外国語科目と保健体育科目と総合教育科目と専門教育科目を合計して120単位以上修得しなければならない。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	12単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	22単位以上
専門教育科目	80単位以上

7-4 経済学部 I G E S S の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、人文分野、社会分野、自然分野、言語教育分野、情報学分野、キャリア分野、保健体育分野を合計して12単位以上修得しなければならない。

総合教育科目	40単位以上
専門科目	80単位以上

8-1 社会学部社会政策科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
自由選択科目	20単位以上

8-2 社会学部社会学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
	(但し、「国際・社会コース」選択者は62単位以上)
外国語教育プログラム	12単位以上
	(但し、「国際・社会コース」選択者のみに適用)
自由選択科目	20単位以上

8-3 社会学部メディア社会学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	30単位以上
学科専門科目	74単位以上
自由選択科目	20単位以上

9 (削除)

10 現代福祉学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目	30単位以上
専門教育科目	80単位以上

11-1 情報科学部コンピュータ科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語科目	10単位
教養科目	10単位
科学基礎科目	9単位以上
専門科目	74単位以上

11-2 情報科学部デジタルメディア学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語科目	10単位
教養科目	10単位
科学基礎科目	13単位以上
専門科目	72単位以上

12-1 デザイン工学部建築学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	8単位
専門科目	64単位以上

12-2 デザイン工学部都市環境デザイン工学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	40単位以上
専門科目	76単位以上

12-3 デザイン工学部システムデザイン学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目	8単位
基盤科目	25単位以上
専門科目	80単位以上

13-1 理工学部機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科，経営システム工学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語科目	8単位以上
教養科目	12単位以上
理系教養科目	12単位以上
専門教育科目	80単位以上
公開選択科目	12単位以下

13-2 理工学部創生科学科の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

英語・選択語学系	18単位以上
教養科目	12単位以上
理系教養科目	12単位以上
専門教育科目	62単位以上
公開選択科目	12単位以下

14 生命科学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、卒業所要単位としては、英語科目，教養科目，理系教養科目合わせて44単位まで，専門教育科目92単位，自由選択科目12単位まで認める。

英語科目	8単位以上
教養科目及び理系教養科目	24単位以上
専門教育科目	80単位以上
自由選択科目	12単位以下

15 グローバル教養学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目	16単位以上
入門科目	22単位以上
中級科目	40単位以上
上級科目・演習科目	32単位以上

16 スポーツ健康学部の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目	28単位以上
専門教育科目	84単位以上

(SS I 卒業所要単位)

第17条の2 法学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

2 文学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

3 経営学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
連環科目	4単位以上8単位以下
専門教育科目	48単位以上

4 国際文化学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。但し、学部専門科目と自由科目を合計して62単位以上修得しなければならない。

基礎科目	26単位以上
SS I科目	44単位以上
学部専門科目	38単位以上
自由科目	18単位以上

5 人間環境学部SS Iの卒業所要単位数は130単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
リテラシー科目	6単位以上
展開科目	56単位以上

6 キャリアデザイン学部SS Iの卒業所要単位数は132単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎科目	24単位以上
SS I科目	44単位以上
専門教育科目	56単位以上

7 経済学部経済学科SS I、現代ビジネス学科SS Iの卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

基礎教育科目	4単位
外国語科目	6単位
保健体育科目	2単位以上
総合教育科目	14単位以上
SS I科目	44単位以上

専門教育科目 54単位以上

8-1 社会学部社会政策科学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

8-2 社会学部社会学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

(但し、「国際・社会コース」選択者は62単位以上)

外国語教育プログラム 12単位以上

(但し、「国際・社会コース」選択者のみに適用)

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

8-3 社会学部メディア社会学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合科目 30単位以上 (S S I 基礎科目14単位を含む)

学科専門科目 74単位以上

自由選択科目 20単位以上

(学科専門科目、自由選択科目をあわせて S S I 専門科目30単位以上を含む)

9 現代福祉学部 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

総合教育科目 30単位以上

S S I 科目 44単位以上

専門教育科目 50単位以上

10 デザイン工学部システムデザイン学科 S S I の卒業所要単位数は124単位で、科目ごとの修得単位は次の通りとする。

外国語科目 4単位以上

基盤科目 14単位以上

S S I 科目 44単位以上

専門科目 56単位以上

11 (削除)

第17条の3 (削除)

(他学部公開科目及び他学科開設科目の履修)

第18条 (削除)

2 他の学部及び学科に属する授業科目を選択科目又は自由科目として充てることができる。この場合の

授業科目及び単位数は別に定める。

3 (削除)

4 (削除)

5 (削除)

第18条の2 (削除)

(大学院及び専門職大学院開設科目の履修)

第18条の3 大学院及び専門職大学院における授業科目を選択科目又は自由科目として充てることができる。この場合の授業科目および単位数は別に定める。

第18条の4 (削除)

第18条の5 (削除)

(グローバル・オープン科目の履修)

第18条の6 本大学の学部グローバル・オープン科目を置く。

2 グローバル・オープン科目は、選択科目又は自由科目に充てることができる。この場合の授業科目および単位数は別に定める。

(グローバル教育センター設置科目の履修)

第18条の7 本大学の学部グローバル教育センター設置科目を置く。

2 別表(1)に掲げるグローバル教育センター設置科目は、必修科目、選択科目又は自由科目に充てることができる。この場合の授業科目及び単位数は別に定める。

(進級に関する規程)

第19条 学生が各年次所定の授業科目を履修しない場合、又は所定の単位を修得しない場合は、別に定める規程により進級することができない。

2 進級は、前項と各年次における学修期間1年間を充たしている学生につき、学年度始めに認める。

第20条 (削除)

(通信教育課程との単位互換)

第21条 通信教育課程の修得単位は、大学の通常課程における単位と互に転換することができる。

2 前項による場合は、当該学部長の許可を得なければならない。

(大学以外の教育施設等における学修)

第21条の2 短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修については、教育上有益と認められる場合、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修と見なし卒業所要単位として単位を与えることができる。与えることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(入学前既修得単位の認定)

第21条の3 本大学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校及び短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修において履修した授業科目について修得した単位を、教育上有益と認められる場合、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものと見なし、転・編入学の場合を除き、卒業所要単位として認めることができる。認めることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(他の大学等における履修単位の認定)

第21条の4 大学の定めるところによる他の大学又は短期大学において修得した単位は、教授会の議を経て、本大学における授業科目の履修により修得したものと見なし、卒業所要単位として認めることができる。認めることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(多様なメディアを高度に利用した学修)

第21条の5 文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を教室以外の場所で履修することができる。この方法により与えることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(履修科目登録)

第22条 学生は、履修しようとする授業科目を毎年所定の期間内に届け出て承認を得なければならない。

(履修科目の登録の上限)

第22条の2 学生が1年間に履修科目として登録できる単位数は、学部の定めるところによる。但し、第3項及び第24条第1項に定める科目を除き、49単位以下とする(再履修単位を含む)。

2 学部は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

3 第28条第1項第4号に規定する夏季、冬季及び春季休業日において実施される授業科目について、履修科目として登録できる単位数は、別に学部の定めるところによる。

(単位)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

(3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法のうち、二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。

(教職課程及び資格課程)

第24条 中学校・高等学校教育職員、司書教諭、司書及び学芸員の資格を得ようとする者、ならびに社会教育主事・社会教育士を志望する者は、学部学科の専門教育科目の他にそれぞれ定められた授業科目の単位を修得しなければならない。

2 中学校・高等学校教育職員の資格を得るために必要な授業科目は、別表(3)の通りとする。

3 司書教諭の資格を得るために必要な授業科目は、別表(4)の通りとする。

- 4 司書の資格を得るために必要な授業科目は、別表(5)の通りとする。
- 5 学芸員の資格を得るために必要な授業科目は、別表(6)の通りとする。
- 6 社会教育主事・社会教育士を志望するために必要な授業科目は、別表(7)の通りとする。
- 7 教職に関する専門科目の併修により取得できる教育職員免許状の種類及び教科は、別表(8)の通りとする。

第3節 試験及び成績評価

(試験)

第25条 履修した授業科目については、定期の試験を行い、学業成績を考査する。但し、課業の進行により臨時に試験を行うことがある。

- 2 卒業論文試験には、口述試験を行うことがある。
- 3 学費を所定の期日までに納付しない者は、試験を受けることができない。但し、特別の事由により所定の期日までに納付できない者は、願い出によって許可することがある。
- 4 試験の方法は、別に定める規程による。
- 5 休学又は停学の期間中は試験を受けることができない。
- 6 春学期完了の授業科目を受験し、単位を修得した者が秋学期に休学、退学及び除籍になった場合は当該受験科目の単位及び成績は認定する。
- 7 第36条の規定により春学期に休学した者、又は第40条の規定により秋学期に復学及び復籍を許可された者が秋学期完了の授業科目を受験し、単位を修得した場合、当該受験科目の単位及び成績は認定する。

(成績評価)

第26条 学業の成績は、S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、Dの11段階で評価する。

なお、成績評価のS、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-は合格として所定の単位を与える。また、成績評価のDは不合格とする。

- 2 成績評価と素点の関係については、次のとおりとする。

- | | |
|---------|---------|
| (1) S | 100～90点 |
| (2) A+ | 89～87点 |
| (3) A | 86～83点 |
| (4) A- | 82～80点 |
| (5) B+ | 79～77点 |
| (6) B | 76～73点 |
| (7) B- | 72～70点 |
| (8) C+ | 69～67点 |
| (9) C | 66～63点 |
| (10) C- | 62～60点 |
| (11) D | 59～0点 |

- 3 第1項の規定にかかわらず、学部の定めるところにより、成績評価を、Pは合格として所定の単位を与え、Fは不合格とすることができる。
- 4 第1項の成績評価による学習成果を総合的に判断する指標として、Grade Point Averageを用いることができる。
- 5 修得単位認定の評価はR R、留学による外国大学の修得単位認定の評価をR Sとする。
- 6 前項の規定にかかわらず、第21条の3に定める入学前既修得単位の認定及び第21条の4に定める他の大学等における履修単位の認定に係る成績評価は、学部の定めるところにより、第1項による成績評価を付すことができる。
- 7 成績評価は学生に通知する。
- 8 成績評価は、学期終了時に確定するものとする。

第4節 学年、学期及び休業日

(学年)

第27条 本大学の学年は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。但し、秋学期に入学した場合の学年は、毎年9月16日に始まり翌年9月15日に終わる。

- 2 学年は、春学期と秋学期にわけ次の通りとする。但し、教育上必要な場合、総長は、学部長会議の議を経て、春学期の終了日及び秋学期の開始日を変更することができる。

春学期 4月1日より9月15日まで

秋学期 9月16日より翌年3月31日まで

- 3 前項に定める各学期をそれぞれ前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第28条 休業日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 法政大学創立記念日 4月10日
- (4) 夏季、冬季及び春季休業日については別に定める。

- 2 (削除)

- 3 総長は、必要がある場合、第1項の休業日を臨時に変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。
- 4 休業日の変更又は臨時の休業日については、そのつど公示する。
- 5 第1項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合は、休業日に授業等を行うことがある。
- 6 夏季休業、春季休業の期間に特別授業期間を設けることができる。

第5節 入学、転籍、転部、留学、休学、退学、復学、除籍及び復籍

(入学)

第29条 本大学の入学期は、毎学年の初めとする。

- 2 前項の規定による秋学期の入学は、グローバル教養学部及び第14条の2の規定により英語による授業等により学位を取得することが可能な教育課程において実施する。なお、秋学期入学者の取扱については別に定める。
- 3 本大学に入学を志願する者は、所定の手続きを行い入学試験を受けなければならない。
- 4 第30条第1項各号の一に該当し、かつ本大学所定の入学試験に合格した者について、教授会の議を経て、総長が入学を許可する。

(入学資格)

第30条 本大学に入学できる者は、次の資格を有する者とする。

- (1) 高等学校卒業生
- (2) 中等教育学校を卒業した者
- (3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (4) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (9) その他本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(転・編入学)

第31条 第2・3学年においては、転・編入学志願者に試験を行い、転・編入学を許可することがある。

- 2 本大学に転・編入学できる者は、次の資格を有する者とする。
 - (1) 学士の学位を有する者
 - (2) 大学において相当年次の課程を修了した者
 - (3) 短期大学及び高等専門学校を卒業した者
 - (4) 外国において相当年次の課程を修了した者
 - (5) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者
 - (6) (削除)
 - (7) 高等学校専攻科（修業年限が2年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすも

のに限る)を修了した者

- 3 転・編入学の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。
- 4 転・編入学に関する規程は別に定める。

(転籍)

第32条 本大学の通常課程と通信教育課程の間には、別に定める規程により相互に転籍を願い出ることができる。

- 2 転籍の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。

第33条 (削除)

(転部・転科)

第34条 本大学の学生で他の学部、学科へ転部、転科を願い出る者は、選考の上許可することができる。

- 2 転部、転科の可否は、教授会の議を経て、総長が決定する。
- 3 転部、転科に関する規程は別に定める。

(留学)

第35条 本大学の定めに従って外国の大学で学修を志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した在学期間のうち、1か年に限り本大学における修業年限に含めることができる。但し、文学部英文学科、経済学部、経営学部、社会学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、理工学部、生命科学部及びスポーツ健康学部については1.5か年(文学部英文学科、経済学部及び経営学部については1.5か年のうち0.5か年はスタディ・アブロード・プログラムに限る)、国際文化学部、現代福祉学部及びグローバル教養学部については2か年に限り本大学における修業年限に含めることができる。
- 3 許可を得て留学した者が、外国の大学で履修した授業科目について修得した単位は、教授会の議に基づき卒業所要単位として認めることができる。認めることができる単位は、別表(10)の通りとする。

(休学)

第36条 病気その他止むを得ない事由により休学しようとする者は、保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て、総長の許可を受けなければならない。

- 2 休学期間は在学年数に算入することはできない。
- 3 休学は年間休学、春学期休学及び秋学期休学にかかわらず、当該年度限りとする。引き続き休学を要する者は、改めて願い出たうえ、連続して2年に限り許可を受けたいうで休学することができる。但し、外国人留学生が、母国において兵役義務によって休学する場合については別に定める。
- 4 休学期間は通算して4年を超えることはできない。なお、春学期休学及び秋学期休学は0.5年として計算する。
- 5 休学者は、学期の始めでなければ復することができない。

第36条の2 (削除)

(休学期間中の学修)

第36条の3 休学期間中は本学での科目履修は認めない。

2 他の大学等もしくは大学以外の教育施設等における学修または外国の大学等での学修を理由とする休学願が、事前に、教授会の議を経て、特段の理由をもって、総長に許可された場合には、第21条の2もしくは第21条の4または第35条第3項を準用し、本学の単位として認定することがある。但し、当該休学期間は在学年数には算入しない。

3 前項の休学期間中の学修に関する手続き等については別に定める。

(退学)

第37条 病気その他止むを得ない事由で退学しようとする者は、保証人連署の退学願を提出し、教授会の議を経て、総長の許可を受けなければならない。

2 退学の日付は、教授会の議により、総長に許可された退学日とする。但し、死亡による退学は、死亡日をもって退学日とする。

(休学及び退学命令)

第38条 学校医が健康上の理由により修学が不相当と認めた者に対しては、教授会の議を経て、総長が休学、又は退学を命ずることができる。

(除籍)

第39条 次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て、総長が除籍する。

(1) 授業料等を所定の期日までに納入しない者

(2) 第13条の在学年限を超えた者

(3) 第36条第4項の休学期間を超えた者

(4) (削除)

(5) 新生で指定された期限までに学生証の未受領、履修届を提出しない等、本大学において修学する意志がないと認められる者

2 授業料等を所定の期日までに納入しない者の除籍の日付については、春学期末納は春学期の始めの日、秋学期末納は秋学期の始めの日とする。

3 在学年限を超えた者の除籍の日付については、満期となった期の最終日とする。但し、教育課程の編成上、やむを得ない場合においては、満期となった年度の最終日とすることができる。

(復学及び復籍)

第40条 退学した者及び第39条第1号により除籍された者が、保証人連署の上復学及び復籍を願い出たときは、教授会の議を経て、総長がこれを許可することができる。

2 復学及び復籍の時期は学年の始め又は秋学期の始めとする。

3 (削除)

第6節 学 費

(学費)

第41条 授業料、入学金、実験実習料、教育充実費、休学在籍料、再入学金及び検定料は別表(9)の通り定める。

- 2 本大学に入学を許可された者は、入学手続きと同時に授業料、入学金、実験実習料、教育充実費及び諸会費を納入しなければならない。
- 3 当該年度の学費の決定は4月1日をもって行い、当該年度途中での変更は行わない。但し、秋学期に入学した者の1年間の学費の決定は、9月16日をもって行う。
- 4 授業料、実験実習料及び教育充実費は、2期に分け半額宛を4月末日及び9月末日までに納入しなければならない。但し、事情によっては、総長が延納を認めることができる。
- 5 在学中、第19条及びその他の事情により進級できなかった者の授業料、実験実習料及び教育充実費については、原則として該当者の入学年度に定められたものを適用する。但し、諸会費については当該年次として定められたものを納入しなければならない。
- 6 第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった者については、該当者の入学年度に定められた授業料、実験実習料及び教育充実費を納入しなければならない。また、諸会費については当該年次として定められたものを納入しなければならない。但し、4年次に1年間在学した者で、卒業所要単位における未修得科目24単位以内の者の年間授業料は半額とする。
- 7 第49条第2項及び第6項の規定により学年末に学位を授与された場合は、第2期分の学費は徴収しない。
- 8 第2年次以降の諸会費は、第1期分授業料と同時に納入しなければならない。
- 9 教職課程及び資格課程を履修する者は、別に定める教職課程費、理科実験料及び資格課程費を納入しなければならない。
- 10 休学を許可された者は、別表(9)の休学在籍料を納入するものとし、休学該当期間の授業料、実験実習料及び教育充実費の納入を要しない。また、休学を許可された者についての諸会費の取扱は以下の各号のとおりとする。
 - (1)年間休学を許可された者は、入会金を除き、原則として諸会費の納入を要しない。
 - (2)春学期休学又は秋学期休学を許可された者、あるいは春学期休学に引き続き秋学期休学を許可された者は、原則として諸会費の納入を要する。
- 11 前項の規定にかかわらず、入学(転籍、転・編入学、学士入学、復学及び復籍を含む)した当該学期に休学した場合は、休学該当期間のうち、入学した当該学期における授業料、実験実習料、教育充実費及び諸会費の納入を要する。但し、休学在籍料については、休学該当期間のうち、入学した当該学期の納入は要さない。
- 12 退学者が復学を、又は除籍された者が復籍を許可されたときは、別表(9)の再入学金を納入しなければならない。
- 13 復学・復籍する者の授業料、実験実習料、教育充実費及び諸会費は、該当年次として定められたものを適用する。
- 14 科目等履修生は、別表(9)の登録料及び履修料等を納入しなければならない。
- 15 一旦納入した学費その他は還付しない。
- 16 留学中の本大学の授業料等は納入しなければならない。
- 17 スタディ・アブロードに関する費用等については別に定める。
- 18 諸会費のうち校友会費については、第5項、第6項、第8項及び第10項の規定にかかわらず、4年次に進

級した最初の年度の第1期分授業料と同時に納入しなければならない。

19 別表(1)のグローバル教育センター設置科目のうち、日本語教育プログラムの科目を履修するにあたっての受講料の取扱いについては別表(9)に定める。

(転・編入学及び転籍等に関する学費)

第41条の2 転・編入学及び転籍等に関する授業料、入学金、実験実習料、教育充実費及び検定料は前条の他次の通り定める。

(1) 転・編入学を許可された者は、当該年度入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、転・編入学した年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。

(2) 学士入学を許可された者は、当該年度の入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、入学する年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。但し、本学卒業生にして学士入学する者の入学金は、当該年度の半額とする。

(3) (削除)

(4) 通信教育の課程から通常の課程への転籍を許可された者は、当該年度の入学金を納入しなければならない。なお、授業料、実験実習料及び教育充実費については、転籍した年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用する。また、諸会費については該当年次として定められたものを納入しなければならない。

(5) 本大学の学生で他の学部、学科へ転部、転科を許可された者の授業料、実験実習料及び教育充実費については、転部、転科を許可された学部、学科における当該学生の本学への入学年度に定められたものを適用する。

第7節 特別学生

(科目等履修生)

第42条 総長は、科目等履修生の入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、科目等履修生の事項については、別に定める。

(特別研修生)

第42条の2 総長は、特別研修生の入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、特別研修生の事項については、別に定める。

(特別聴講生)

第42条の3 総長は、特別聴講生の履修を教授会の議を経て許可することがある。但し、特別聴講生の事項については、別に定める。

(交流学生)

第42条の4 総長は、協定に基づく他大学の学生を交流学生とし、その入学を教授会の議を経て許可することがある。但し、交流学生の事項については、別に定める。

(交換留学生)

第42条の5 総長は、外国の大学からの協定に基づく交換留学生の受入れを教授会の議を経て許可することがある。但し、交換留学生の事項については、別に定める。

(履修証明プログラム生)

第42条の6 総長は、履修証明プログラム生の履修を許可することがある。但し、履修証明プログラム生の事項については、別に定める。

第43条 (削除)

第44条 (削除)

第45条 (削除)

第46条 (削除)

2 (削除)

3 (削除)

(外国人受入れ)

第47条 総長は、本大学に入学資格のある外国人で、本邦所在の外国公館の証明書が履修登録期間までである者は、定員に余裕のある限り、選考の上、入学を許可することができる。履修を許可する科目数については、別に定める。

(学則の準用)

第48条 別段の定めがない限り、本学則は、科目等履修生、特別研修生、特別聴講生、交流学生、交換留学生、履修証明プログラム生に準用する。

第8節 卒業・学位

(学位の授与)

第49条 総長は、4ヵ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。

3 前項の規定にかかわらず、秋学期に入学し、第1項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は春学期末に行う。但し、本人の申請により秋学期末に行うことができる。

4 第1項の規定にかかわらず、総長は、3ヵ年以上在学し、卒業所要単位を優秀な成績で修得した者には学士の学位を与え、学位記を授与することができる。

5 前項の早期卒業に関する要件は別に定める。

6 前五項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

(学位)

第50条 前条の学位は、卒業学部・学科により次の通りとする。

法学部卒業 学士 (法学)

文学部卒業 学士 (文学)

経済学部卒業	学士（経済学）
社会学部卒業	学士（社会学）
経営学部卒業	学士（経営学）
国際文化学部卒業	学士（国際文化学）
人間環境学部卒業	学士（人間環境学）
現代福祉学部	
福祉コミュニティ学科卒業	学士（社会福祉学）
臨床心理学科卒業	学士（臨床心理学）
情報科学部卒業	学士（理学）
キャリアデザイン学部卒業	学士（キャリアデザイン）
デザイン工学部卒業	学士（工学）
理工学部卒業	学士（理工学）
生命科学部	
生命機能学科卒業	学士（生命科学）
環境応用化学科卒業	学士（理学）
応用植物科学科卒業	学士（生命科学）
グローバル教養学部卒業	学士（国際教養学）
スポーツ健康学部卒業	学士（スポーツ健康学）

第9節 公開講座及び履修証明プログラム

（公開講座）

第51条 本大学は、学部所在地、又はその他の地区において、適当な時期に公開講座を開講する。但し、公開講座に関する規程は別に定める。

（履修証明プログラム）

第51条の2 本大学は、学校教育法第105条に規定する特別の課程として履修証明プログラムを開設する。

第10節 賞 罰

（授賞）

第52条 人物及び学術が優れた者には授賞することがある。

2 授賞に関する規程は別に定める。

（懲戒）

第53条 学則又は命令に背き、その他学生の本分に悖ると認められた者は、教授会の議を経て総長がこれを懲戒する。

- 2 懲戒は、譴責、停学、退学の3種とする。
- 3 前二項の懲戒に関し、必要な事項は別に定める。

第53条の2 (削除)

第4章 学 生 心 得

(学生心得)

第54条 学生は、本大学創設の目的使命を達成するため、次の事項を守らなければならない。

- (1) 学生は、個人の尊厳を重んじ、知徳を錬磨して人格の完成をめざすこと。
- (2) 学生は、真理と自由を愛すると共に、責任を重んじ謙虚な態度を以て行動すること。
- (3) 学生は、自主的精神を養うと共に、自他の敬愛と協力によって、本大学の学風を振作する。
- (4) 学生は、良識ある公民としての政治的教養を修め、平和的国家及び社会の形成者となること。
- (5) 学生は、諸規則及び命令を守り、醇風良俗を守ること。

第5章 大 学 評 価

(自己点検・評価)

第55条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検および評価を行う。

- 2 前項の点検および評価に関する事項は、別に定める。

(認証評価)

第56条 本大学は、前条に規定する措置に加え、本大学の教育研究活動等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

法政大学ダイバーシティ宣言

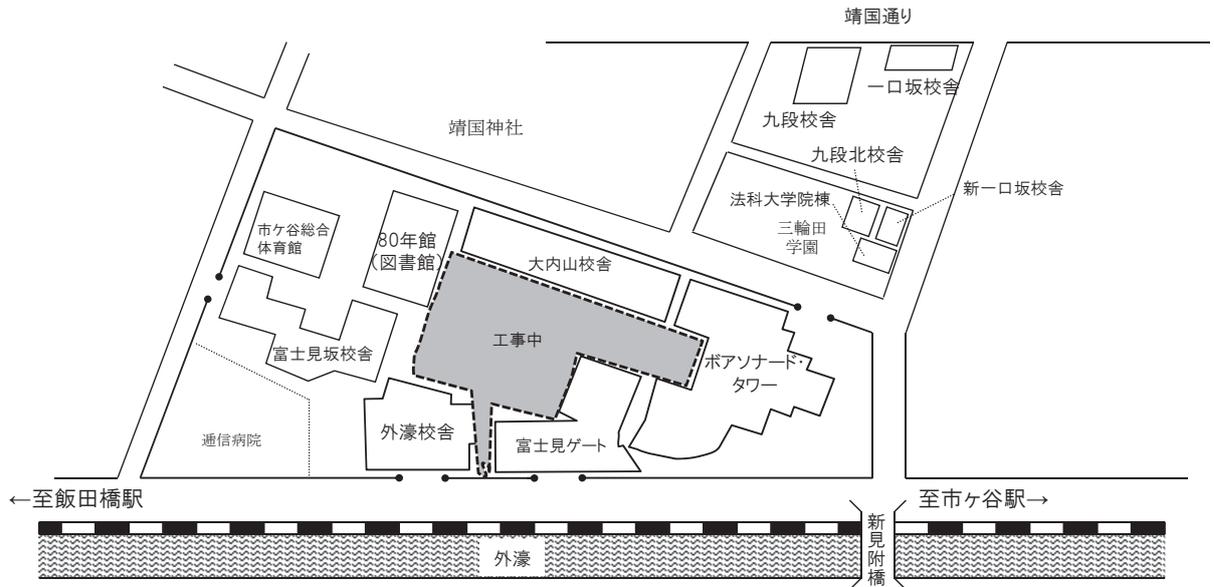
ダイバーシティの実現とは、社会の価値観が多様であることを認識し、自由な市民が有するそれぞれの価値観を個性として尊重することです。

人権の尊重はその第一歩です。性別、年齢、国籍、人種、民族、文化、宗教、障がい、性的少数者であることなどを理由とする差別がないことはもとより、これらの相違を個性として尊重することです。そして、これらの相違を多様性として受容し、互いの立場や生き方、感じ方、考え方に耳を傾け、理解を深め合うことです。少数者であるという理由だけで排斥あるいは差別されることなく、個性ある市民がそれぞれの望む幸福を追求する機会が保障され、誰もがいきいきと生活できる社会を実現することです。

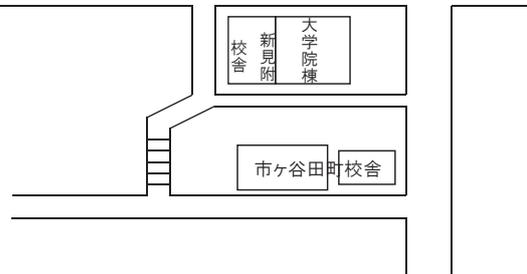
社会とともにある大学は、創造的で革新的な次世代を社会に送り出す教育組織として、また、社会の様々な課題の解決に寄与する研究組織として、ダイバーシティを推進する役割を担っています。多様な価値観を有する市民が助け合い、互いの望む幸福を実現できる社会の構築に向けて、貢献する役割を担っています。そのためには、多様な背景をもつ学生・教職員が、安心して創造的に、学び、働き、それぞれの個性を伸ばせる場である必要があります。

法政大学は、「自由と進歩」を校風とし、「自由を生き抜く実践知」の獲得を社会に約束しています。自由は特定の間人だけでなく、社会の成員すべてに保障されるべきものです。本学は、人権の尊重、多様性の受容、機会の保障を基盤にして、さまざまな国籍と文化的背景を持つ学生、教職員を積極的に受け容れ、自由を生き抜く実践知を世界に広げていくことができるよう、教育と研究を充実させていきます。

法政大学は、ダイバーシティの実現に向けて積極的に取り組んでいきます。



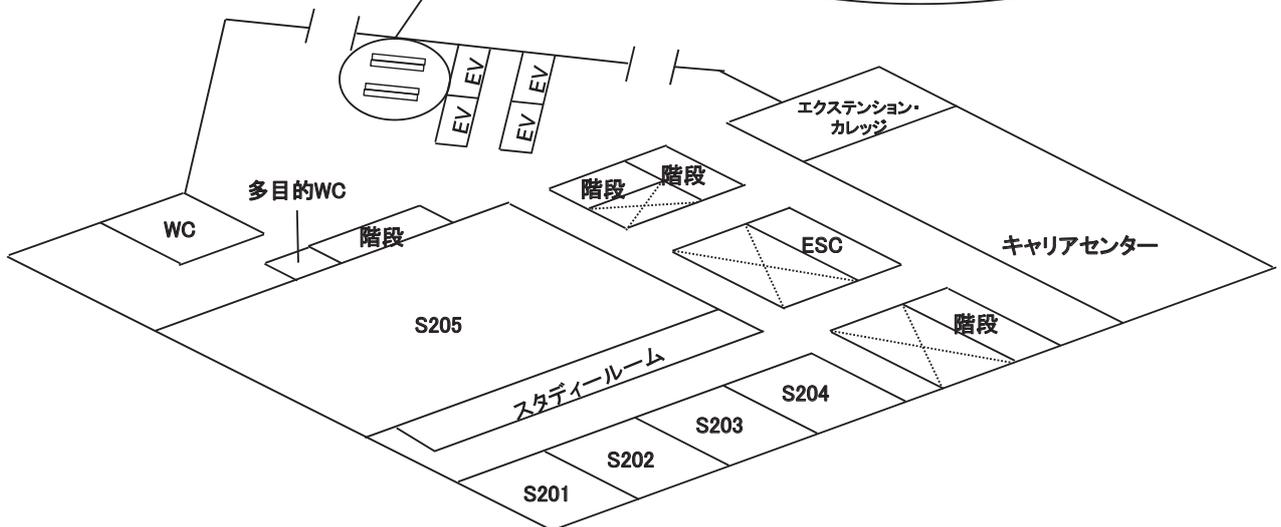
市ヶ谷キャンパス 校舎案内図



学部事務課掲示板 外濠校舎2階

法学部	国際文化学部	GIS
文学部	教職・資格	キャリアデザイン学部

GBP/SCOPE	人間環境学部	経営学部
学部事務課共通	市ヶ谷リベラルアーツ	



市ヶ谷キャンパス施設一覧

Y 大内山校舎
おおうちやまこうしゃ

G 富士見ゲート
ふじみげーと

S 外濠校舎
そとぼりこうしゃ

	階	施設名	階	施設名	階	施設名	
教室・ゼミ教室	4	Y401～Y406	2	G201	2	S201～S205	
	5	Y501～Y506	4	G401～G403	3	S301～S307	
	6	Y601～Y606	5	G501～G503	4	S401～S407	
	7	Y701～Y705	6	G601～G602	5	S501～S507	
	8	Y801～Y805			6	S601～S603	
		2	Gラウンジ	2	教授室	1	メディアラウンジ
		3	キャリア情報ルーム			1	スタディールーム (定員87名)
		3	教授室			2	スタディールーム (定員32名) 学部事務課掲示板
特別教室・学習支援施設		3	通信教育部事務室			3	スタディールーム (定員32名)
						4	スタディールーム (定員32名)
						5	スタディールーム (定員34名)
					6	薩埵(さった)ホール	
					7	スタディールーム (定員48名)	
学生厚生施設			B1	売店、書店、写真店	1	セブンイレブン	
			3	食堂「つどひ」	1	郵便局ATM	
					6	マイコム学生サービスセンター	
学生支援施設・事務室	1	学部窓口 (各学部・教職資格)			1	学生センター (学生生活課・厚生課)	
	1	証明書自動発行機			1	ボランティアセンター	
	2	グローバル教育センター (GEC)			1	障がい学生支援室	
	3	通信教育部事務室			2	キャリアセンター	
					2	公務人材育成センター	
					2	高度会計人育成センター	
				2	エクステンションカレッジ		

市ヶ谷キャンパス施設一覧

F 富士見坂校舎
ふじみざかこうしゃ

**数字
4桁** ボアソナード・タワー (BT)

教室・ゼミ教室	階	施設名
	1	遠隔講義室 (F101)
	3	F301～F311
	4	F401～F408
特別教室・学習支援施設	5	F501～F508
	1	図書館 (※1)
	1	ラーニング・コモンズ
	1	オフィスアワーーム
	2	学習ステーション
	2	情報カフェテリア (1) (2)
	3	教職課程実習室
	3	スタディールーム (定員13名)
	4	体育館 (※2)
	施設 学生 厚生	B1
事務室 学生 支援 施設	3	教職課程センター
	4	学生相談室

階	施設名	階	施設名
5	0501～0509	9	0901～0907
6	0601～0609	10	1001～1007
7	0701～0706	11	1101～1103
8	0801～0806	12	1204
3	ピア・ラーニング・スペース	8	サイエンスルーム (物理) (0800)
3	マルチメディアスタジオ (0300)	9	サイエンスルーム (生物) (0900) 自然科学センター (0908)
3	フルラボ教室 (0308)	10	サイエンスルーム (化学) (1000)
3	CALL教室 (0309)	11	心理学実験室 (1100)
4	情報実習室D～H D (0400) E (0409) F (0405) G (0401) H (0402)	12	地理学実験室 (2) (1200)
5	情報実習室C (0500) フルラボ小教室 (0508)	13	地理学実験室 (1) (1300)
6	情報実習室B (0600) フルラボ中教室 (0609)	14	資格課程共同研究室
7	情報実習室A (0700)	26	スカイホール
B1	食堂	2	診療所
1	銀行ATM		
1	防災センター	4	総合情報センター 事務室

(※1) 図書館は、80年館地下1階～2階にもあります。

(※2) 体育館は、他に市ヶ谷総合体育館があります。



学生証番号	
氏 名	

